

貧困プロフィール

マダガスカル

2012 年度版

独立行政法人 国際協力機構（JICA）

当資料は政府・国際機関の報告書・統計・資料からの抜粋を邦訳し、執務参考資料として取り纏めたものであり、JICA の見解を示すものではありません。転載・引用に際しては、直接、出典元から行い、当資料からの転載・引用は行わないでください。

目次

I. 貧困の状況の概観.....	1
II. 貧困削減のための政策枠組み.....	2
1. 貧困削減戦略及び目標の現状.....	2
2. 政府による指定貧困地域・集団.....	5
III. 所得貧困による分析.....	7
1. 貧困線とデータ.....	7
2. 貧困状況 - 貧困率、貧困ギャップ率、GINI 分析.....	8
IV. 所得貧困以外による分析.....	13
1. 人間開発指標のトレンド、地域・国際比較.....	13
2. MDGs 指標の分析.....	15
3. 食糧安全保障、脆弱性分析.....	19
V. 社会的属性、特性と貧困関連分析.....	24
1. 地域別.....	24
2. 性別.....	26
3. 学歴別.....	28
4. 年齢階層別.....	30
5. 就職状況・職業別.....	31
VI. 貧困に影響を与えている国内外の要因.....	35
1. 政治的要因.....	35
2. 自然・環境・気候的要因.....	36
3. 社会保障.....	38
4. 経済的要因.....	40
VII. 重点支援分野と貧困の関わり.....	42
1. 農村開発.....	42
2. 経済開発.....	47
3. 基礎生活.....	50
添付 1. 資料リスト.....	66
添付 2. 主要な情報源リスト.....	68

図表・地図目次

図表 1 主要指標一覧（2000-2010 年）.....	i
図表 2 IFAD による基本指標.....	iii
図表 3 地域別 貧困率と貧困ギャップ率（2010 年）.....	iv
図表 4 ジニ係数（2010 年）.....	v
図表 5 HDI 指標（1980-2011 年）.....	v

図表 6	マダガスカル、サブ・サハラ・アフリカ地域、世界等の HDI 指標の推移 (1980-2011 年)	vi
図表 7	MDG 指標 (2004-2006 年)	vii
図表 8	MAP の主要数値目標	3
図表 9	国民一人当たりの GDP と貧困率の推移 (1960-2011)	4
図表 10	Tsena Mora による食料品の販売量等 (2010-2011 年)	5
図表 11	WB 提言による優先的に貧困対策をすべきグループ	6
図表 12	1 人あたりの消費額による貧富 5 分類の基準 (2010 年)	7
図表 13	地域別 最貧困・貧困率 (2010 年)	8
図表 14	地域別 貧困率と貧困ギャップ率 (2010 年) (再掲)	9
図表 15	地域別 貧困率の推移 (1993-2010 年)	10
図表 16	地域別 貧困ギャップ率の推移 (1993-2010 年)	10
図表 17	ジニ係数 (2010 年) (再掲)	11
図表 18	マダガスカル HDI 指標の推移 (1980-2011 年) (再掲)	13
図表 19	マダガスカル HDI 指標 (2011 年)	14
図表 20	マダガスカル、サブ・サハラ・アフリカ地域、世界等の HDI 指標の推移 (再 掲)	14
図表 21	近隣諸国との HDI 比較	15
図表 22	初等教育課程の修学率と 15 歳以上の識字率 (2006 年)	16
図表 23	MDG3 の達成状況 (1999-2008 年)	17
図表 24	MDG5 の達成状況 (1999-2008 年)	18
図表 25	地域別 貧困・最貧困率 (2010 年)	25
図表 26	地域別 貧困率の推移 (1993-2010) (再掲)	25
図表 27	地域別 貧困ギャップ率の推移 (1993-2010) (再掲)	25
図表 28	地域別 基準を満たさない住環境で暮らす世帯の割合 (2010 年)	26
図表 29	地域別 女性世帯主の割合 (2010 年)	27
図表 30	地域別 男女別 平均給与額 (2010 年)	27
図表 31	世帯主の学歴別にみた最貧困・貧困率 (2010 年)	28
図表 32	教育レベルと消費額指標による貧富格差の関係 (2010 年)	29
図表 33	学歴・性別による年間収入格差 (2010 年)	29
図表 34	地域別 性別 15 歳以上の識字率 (2010 年)	30
図表 35	性別・年齢別の失業率 (2010 年)	31
図表 36	世帯主の職業別貧困率 (2010 年)	32
図表 37	貧富階層別 識字率 (2010 年)	33
図表 38	地域別 失業率 (2010 年)	33
図表 39	就労分野別 年間平均給与額 (2010 年)	34

図表 40	危機への対処方法（2010年）	36
図表 41	地域別 リスク要因（2010年）	37
図表 42	地域別 気候または環境に起因する被害を受けた割合（2010年）	38
図表 43	社会保障費への予算支出（2007-2010年）	39
図表 44	CNaPS への加入者数（2006-2010年）	40
図表 45	国際・国内石油価格の変動（2005-2010年）	41
図表 46	貧富別 平均耕地面積（2010年）	44
図表 47	農作物の活用法（2010年）	44
図表 48	貧富別 米以外の作物の栽培状況（2010年）	45
図表 49	地域別 炊事用の燃料源（2010年）	46
図表 50	貧富階層別 炊事用燃料源（2010年）	47
図表 51	新規道路建設および既存道路の補修状況（2005年）	48
図表 52	地域別 主な飲料水源（2010年）	52
図表 53	地域別 飲料水へのアクセス率（2010年）	52
図表 54	地域別 照明源（2010年）	56
図表 55	出産 10 万件あたりの妊産婦死亡率の推移（1992-2008年）	60
図表 56	適切な介助による出産（1997-2008年）	60
図表 57	出産前検診の受診率（1997-2008年）	61
図表 58	貧富階層別 使用トイレのタイプ（2010年）	62
図表 59	貧富別 トイレ使用後に手を洗う母親の割合（2010年）	62
図表 60	地域別 実質就学率（2009-2010年学期）	64
図表 61	貧富階層別 実質就学率（2010年）	65
図表 62	貧富階層別 性別 就労している子どもの割合（2010年）	65
地図 1	マダガスカル全土地図	ix
地図 2	地域別 貧困率（2010年）	x
地図 3	地域別 人口分布（2010年）	xi
地図 4	地域別 貧困率（2010年）（再掲）	12
地図 5	地域別 食糧摂取状況（2010年）	21
地図 6	地域別 食糧不安に置かれている世帯（2010年）	22
地図 7	地域別 急性栄養失調の広がり（2010年）	23
地図 8	国道の状態（2005年）	49
地図 9	地域別 管理された水源へのアクセス状況（2010年）	53
地図 10	地域別 乾期の安全な水へのアクセス率（2010年）	54
地図 11	発育遅れの子どもの割合（2010年）	59

貧困関連用語解説¹

(1) 貧困指標

用語	解説
絶対的貧困 Absolute Poverty	ある最低必要条件の基準が満たされていない状態を示す。一般的には、人間として生存するために最低限必要とされる食糧と食糧以外のものが購入できるだけの所得または支出水準(=貧困線)に達していない状態を絶対的貧困と定義する。
相対的貧困 Relative Poverty	ある地域社会の大多数よりも貧しい状態を示す。例えば所得が地域内の下位10%に属する人は、衣食住が満たされていても相対的貧困者となる。また中所得国以上では、人間の生存の為に最低限必要な食糧と食糧以外の日常品ではなく、その社会で一般的な生活を送るために必要な収入・支出水準を元に相対的貧困線を設定する国もある。OECD などでは中位可処分所得の50%の水準を高所得国の相対的貧困線と定義している。
貧困線 Poverty Line	所得または支出水準が最低限の必要を満たす水準が貧困線であり、それに達しない層(=貧困者)が全人口に占める割合を貧困率・または指数として示す。これにより表される貧困を経済的貧困、所得貧困とも言う。
国際貧困線 International Poverty Line	MDGsを機に、国際的な絶対的貧困線として「1日1ドル未満」が設定された。国際貧困線以下の人口が世界の絶対的貧困者の数であり、その割合が国際貧困率として算出される。 1993年購買力平価での最貧15か国の貧困線の平均が月32.74米ドル(一日1.08米ドル)であったことから、MDGs指標として一日1ドルの指標が採用された。最貧国の国別貧困線の各国の物価は異なり、同じ1ドルで購入できるものには大差があるため、購買力平価(Purchasing Power Parity: PPP)を用いて、米国での1ドルの購買力に相当するように調整されている。2005年以降の貧困線は物価上昇などを加味し、2008年購買力平価における最貧15か国の貧困線の平均から、一日1.25ドルが国際比較のための絶対貧困線とされている ² 。
国別貧困線 National Poverty Line	国ごとの実情を反映し、各国政府が家計調査のデータなどに基づいて独自に設定したのが国別貧困線である。国内における物価の差異に対応するため、都市、地方、あるいは地域ごとに設定された異なる貧困線を元に、統計的に国家貧困線を算出する場合もある。多くの発展途上国では、下記のベーシックニーズ貧困線が国別貧困線とされている ³ 。下記の食糧貧困線とベーシックニーズ貧困線は、国によりUpper/Lower Poverty Lineや、Poverty Line/Extreme Poverty Lineなど様々な表現があるため、定義によっていずれであるかを判断する必要がある。
食糧貧困線 Food Poverty Line	人間が生存していく上で、最低限必要なエネルギーを摂取できる支出レベルを算出したもの。摂取エネルギーは、FAOが提唱する成人の一日に必要なカロリー(2100カロリー)を基準に、国ごとに設定される場合が多い。そのカロリーを摂取するための基本的な食糧の種類や構成は国ごとに設定され、都市・地方、あるいは地域の差異も配慮される場合がある。
ベーシックニーズ貧困線	ベーシックニーズ費用手法(The Cost of Basic Needs Method: CBN)を用い、食

¹ 主に国際協力総合研修所 2008年3月『指標から国を見る～マクロ経済指標、貧困指標、ガバナンス指標の見方～』

(http://jica-ri.jica.go.jp/IFIC_and_JBICI-Studies/jica-ri/publication/archives/jica/field/pdf/200803_aid02.pdf)、世界銀行(2009) Measuring Poverty and Inequality (<http://go.worldbank.org/4WJH9JQ350>) を元に作成。

² World Bank (2008) Dollar a Day Revisited (<http://go.worldbank.org/SMQ2FCW4J0>)

³ World Bank (2012) Poverty Measurement Methodology by Country (<http://go.worldbank.org/OP02MEZ880>)

用語	解説
CBN/Basic Needs Poverty Line	糧食貧困線に非食糧、すなわち衣類、住居、医療などのための最低限の支出金額を足して算出される。
非食糧貧困線 Non Food Poverty Line	非食糧ニーズの種類や構成は国ごとに設定され、都市・地方、あるいは地域の差異も配慮される場合も多い。また、所得貧困 (Income Poverty) という表現がされることが多いが、途上国での貧困率の算出に使用されるのはほとんどの場合支出に関するデータである。
貧困ギャップ率・指数 Poverty Gap Ratio・Index、P ₁	貧困率が貧困の発生頻度を表すのに対し、貧困ギャップ率は貧困の平均的「深さ (depth)」を表すために用いられる。通常、国別貧困率を元に算出される。貧困ギャップ率は、国民の収入または支出が貧困線に対して何パーセント下回っているか(乖離しているか)を、貧困線以上の人々の乖離率をゼロとして計算した数値である ⁴ 。貧困ギャップ率に貧困線と人口を乗じた数字が、貧困削減のための最低限の必要な費用であるとされ、政策上の目安となる。
二乗貧困ギャップ率・指数 Squared Poverty Gap Ratio・Index / Poverty Severity Ratio・Index、P ₂	貧困の極端な「深刻さ (severity)」を表すために用いられる。通常国別貧困率を元に算出される。二乗貧困ギャップ率は、貧困線からの乖離率を二乗したもので、乖離率が高ければ(貧困の深刻度が高い)、より大きく数値に反映される。

(2) 不平等指数

用語	解説
ジニ係数・指数 Gini Coefficient, Gini Index	国や地域の所得(または消費)の平等・不平等度を示す指標。完全に平等な社会では0になり、完全に不平等な社会では1となる。なお、世界銀行の統計などではパーセンテージ表示のジニ指数 (Gini Index) を用いており、完全に不平等な社会を 100 で表す。通常 30 から 50 の範囲になることが多く、40 を超えると社会が不安定になると一般的に言われている。
所得階層別の所得シェア Percentage Share of Income or Consumption	ジニ係数を算出する基礎となるもの。人口を所得水準で階層分類し(五分位または十分位)、国全体の所得のうちそれぞれの階層が占める割合を%で表示。一般的に、五分位の最下層 20%が全体の 6-10%の消費を行い、最上位 20%が全体の 35-50%の消費を行っている場合が多い。

(3) 開発指数

用語	解説
人間開発指数 Human Development Index: HDI ⁵	人間開発の3つの基本的側面(①寿命、②知識、③生活水準)を総合して、各国の達成度を測定、比較するための指数。経済指標のみでは表せない国の開発の度合いを表す尺度として、UNDP が 1990 年に刊行した『人間開発報告 (Human Development Report)』の中で用い各国のランキングを行ったことに始まる。算出方法は、①平均寿命指数、②教育指数(成人識字率と初等・中等・高等教育総就学率)、③GDP指数(1人当たり実質 GDP (PPP))について、それぞれの最大値を1、最小値を0として算出し、3つの平均値をとる。 2010年より HDI の派生指標として不平等調整済み HDI (IHDI) が導入されている。また、それまで発表されていたジェンダー開発指数 (GDI) とジェンダーエンパワメ

⁴ World Bank (2009). Handbook on poverty and inequality (<http://issuu.com/world.bank.publications/docs/9780821376133>.)

⁵ HDI の詳細については UNDP HDI 公式ウェブサイト (<http://hdr.undp.org/en/data/about/>)。一部の情報は UNDP 東京事務所から日本語でも入手可能。 <http://www.undp.or.jp/hdr/global/>

用語	解説
	ント指数 (GEM) に代わってジェンダー不平等指数 (GII) が、人間貧困指数 (HPI) に代わって多次元貧困指数 (MPI) が導入された。

(4) その他

用語	解説
ミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals:MDGs) ⁶	2000年9月、ニューヨークの国連本部で開催された国連ミレニアム・サミットに参加した147の国家元首を含む189の国連加盟国代表は、21世紀の国際社会の目標として「国連ミレニアム宣言」を採択した。この宣言と1990年代に開催された主要な国際会議やサミットでの開発目標をまとめたものがMDGsである。MDGsは国際社会の課題に対して、2015年までの達成を目指す期限付きの8つの目標、21のターゲット、60の指標を掲げている。貧困に関する様々な経済的・非経済的指標が取り上げられているが、その第1目標が、「一日1.0ドル未満(2005年以降は1.25ドル)の絶対的貧困線以下の人口を半減する」という目標である。
脆弱度分析と地図化 (Vulnerability Analysis and Mapping: VAM) ⁷	食糧安全保障の観点から、「人々が最低限の厚生水準を維持できないほど、食糧へのアクセスや食糧消費が急速に低下する可能性」を「脆弱性」と定義し、地域別の脆弱度を地図化したものがVAMである。WFPが緊急食糧援助を行う際、援助を最も必要とする人々や地域を選定し、効果的な支援を行うために開発した。VAMは、包括的食糧安全保障・脆弱度分析(CFSVA)、食糧安全保障モニタリング・システム、GISデータを用いた空間分析と地図化の3つの活動からなる。CFSVAでは、社会政治環境、地理・気象条件、マクロ経済、教育・保健水準、農業、環境などの観点から食糧安全保障と脆弱性に影響を与える要素を包括的に分析する。既存のデータに加え、家計調査や市場価格調査などを組み合わせ、「どのような社会グループ(生計活動や食糧入手手段)が影響を受けやすいか」などの分析も行う。

⁶ MDGについては国連MDG公式ウェブサイト。(<http://unstats.un.org/unsd/mdg/default.aspx>) 一部の情報については国連広報センター(東京)からも入手可能。(<http://unic.or.jp/mdg/index.html>)

⁷ VAMに関してはWFP VAMウェブサイト(<http://www.wfp.org/food-security>)

略語表

略語	正式名称	日本語名
AGOA	African Growth and Opportunity Act	アフリカ成長機会法
CFSVA	Comparative Food Security and Vulnerability Analysis	包括的食糧安全保障・脆弱度分析
HDI	Human Development Index	人間開発指標
HDR	Human Development Report	人間開発報告書
IFAD	International Fund for Agricultural Development	国際農業開発基金
INSTAT	Institut national de la statistique	国立統計研究所
MAP	Madagascar Action Plan	マダガスカル行動計画
MDG	Millenium Development Goals	ミレニアム開発目標
OECD	Organisation for Economic Co-operation and Development	経済協力開発機構
UN	United Nations	国際連合（国連）
UNDP	United Nations Development Programme	国連開発計画
UNICEF	United Nations Children's Fund	国際連合児童基金
WB	World Bank	世界銀行（世銀）
WFP	World Food Programme	世界食糧計画

図表 1 主要指標一覧 (2000-2010年)⁸

主要指標一覧 【マダガスカル】

	指標項目	2000年	2008年	2009年	2010年	2010年の 地域平均値
社 会 指 標 等	地表面積(1000km ²)	587	587	587	587	n.a.
	人口(百万人)	15.4	19.5	20.1	20.7	863.9 注●
	人口増加率(%)	3.1	2.9	2.9	2.9	3.7
	出生時平均余命(歳)	60	66	66	66	54
	妊産婦死亡率(/10万人)	400	n.a.	n.a.	240	500
	乳児死亡率(/1000人)	66.8	48.0	45.9	44.3	71.3
	一人当たりカロリー摂取量(kcal/1日) ^{*1}	2,073	2,119	2,117	n.a.	n.a.
	初等教育総就学率(男)(%)	104.7	148.4	155.8	149.8	103.2
	初等教育総就学率(女)(%)	100.7	144.4	152.5	147.3	95.8
	中等教育総就学率(男)(%)	n.a.	30.6	32.0	n.a.	43.5
	中等教育総就学率(女)(%)	n.a.	28.9	30.2	n.a.	35.6
	高等教育総就学率(%)	2.3	3.3	3.5	3.7	6.8
	成人識字率(15歳以上の人口の内:%)	70.7	64.5	n.a.	n.a.	62.6
	絶対的貧困水準(1日1.25\$以下の人口比:%)	n.a.	n.a.	n.a.	81	n.a.
失業率(%)	5.8	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	
経 済 指 標	GDP(百万USDドル)	3,878	9,395	8,488	8,721	1,117,881 注●
	一人当たりGNI(USDドル)	250	400	420	430	1,175
	実質GDP成長率(%)	4.8	7.1	-4.6	1.6	5.0
	産業構造(対GDP比:%)					
	農業	29.2	24.8	29.1	n.a.	11.2
	工業	14.2	16.2	16.0	n.a.	30.4
	サービス業	56.6	59.0	54.9	n.a.	58.4
	産業別成長率(%)					
	農業	1.1	2.9	8.5	n.a.	4.3
	工業	7.2	19.2	-8.5	n.a.	5.0
	サービス業	4.8	4.6	-8.0	n.a.	3.7
	総資本形成率(対GDP比:%)	15.0	40.4	33.0	n.a.	20.5
	貯蓄率(対GDP比:%)	7.7	10.0	9.0	n.a.	16.8
	消費者物価上昇率(インフレ:%)	11.9	9.2	9.0	9.2	4.5
	財政収支(対GDP比:%)	-2.0	-1.9	n.a.	n.a.	n.a.
	中央政府債務残高(対GDP比:%)	111.9	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
	貿易収支(対GDP比:%)	-7.3	-30.4	-24.0	n.a.	-2.7
	経常収支(対GDP比:%)	-6.7	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
	外国直接投資純流入額(百万ドル)	83	1,169	1,066	860	26,093 注●
	対外債務残高(対GNI比:%)	123.2	22.2	26.2	26.6	n.a.
DSR(対外債務返済比率:%)	9.6	1.3	2.5	2.6	n.a.	
総外貨準備高(輸入支払い可能月数)	2.2	n.a.	n.a.	n.a.	5.3	
総外貨準備高(百万ドル)	285	982	1,135	1,172	163,563 注●	
名目対ドル為替レート ^{*2} (Ariary per US Dollar: Period Average)	1,353.50	1,708.37	1,956.21	2,089.95	n.a.	
政 治 指 標	政治体制: 共和制 憲法: 1992年8月19日制定 元首: 暫定政府大統領。アントリ・ラジョエリナ(Andry RAJOELINA)。2009年3月21日就任 議会: 二院制。上院(164議席)、下院(365議席)。両議会とも任期は未定 内閣: 暫定政府。首相は暫定政府大統領が指名。首相 ジャン・オメル・ベリジキ(Jean Omer BERIZIKY)。2011年11月21日発足					

出典 World Development Indicators Online (September 2012) World Bank

*1 FAO Food Balance Sheets (June 2012) FAOSTAT Homepage

*2 International Financial Statistics Online (October 2012) IMF

*3 世界年鑑 2012 共同通信社

注 ●地域平均値はサブサハラ・アフリカの数値(地域分類は別添参照)

●「人口」、「GDP」、「外国直接投資純流入額」及び「総外貨準備高」の「2010年の地域平均値」においては、地域の総数を示す

●妊産婦死亡率の数値はWHO・ユニセフ・国連人口基金(UNFPA)の評価を反映した推定値

●総就学率は、学齢人口に占める就学者総数(年齢を問わない)の割合であるため、数値が100を超えることがある

⁸ JICA 研究所ウェブサイト

<https://libportal.jica.go.jp/fmi/xsl/library/public/data/Index/Africa/Madagascar.pdf> (2012/11/02 アクセス)

中央政府歳入・歳出【マダガスカル】

	2006年	2007年	2008年	2008年		対ドルレート
	(十億アリア)	(十億アリア)	(十億アリア)	(百万US\$)*	対GDP比**	
歳入	2,538	2,229	3,258	1,907	20.3%	1,708.37
租税収入	1,261	1,573	2,087	1,222	13.0%	
社会保障	0	0	137	80	0.9%	
贈与受取	1,161	593	980	574	6.1%	
その他	116	63	53	31	0.3%	
歳出	1,370	1,546	1,891	1,107	11.8%	GDP(現地通貨) 16,081
人件費	590	711	759	444	4.7%	
財貨・サービス	190	216	277	162	1.7%	
固定資本減耗	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	
利払い	285	156	127	75	0.8%	
補助金	191	217	469	274	2.9%	
贈与支払	0	0	0	0	0.0%	
扶助費	0	0	0	0	0.0%	
その他	115	247	259	152	1.6%	
非金融資産の純増	1,214	1,050	1,677	982	10.4%	
財政収支	-47	-367	-310	-181	-1.9%	

総支出内訳(目的別分類)【マダガスカル】

	2006年	2007年	2008年		2008年	
	(十億アリア)	(十億アリア)	(十億アリア)	内訳	(百万US\$)*	対GDP比**
総支出	2,584	2,596	3,568	100.0%	2,088	22.2%
一般サービス	963	1,040	1,616	45.3%	946	10.1%
国防	116	146	166	4.7%	97	1.0%
公安	78	111	134	3.8%	79	0.8%
経済関連	879	617	819	23.0%	480	5.1%
農林水産業	158	173	228	..	133	1.4%
エネルギー	703	367	79	..	46	0.5%
鉱工業・建設業	n.a.	n.a.	284	..	166	1.8%
運輸	6	53	207	..	121	1.3%
通信	12	10	22	..	13	0.1%
環境保全	0	4	49	1.4%	28	0.3%
住宅・生活関連施設	0	0	0	0.0%	0	0.0%
保健・医療	147	180	198	5.5%	116	1.2%
レクリエーション・文化	0	4	12	0.3%	7	0.1%
教育	383	456	525	14.7%	308	3.3%
社会保障・福祉	19	37	48	1.4%	28	0.3%

注: 総支出内訳における総支出には非金融資産の純増を含む
 *: 対ドル換算レートはOfficial Rate, Period Average 出典はInternational Financial Statistics (Online) October 2012 IMF
 **: GDPの出典はThe World Economic Outlook October 2012 IMF Homepage
 出典: Government Finance Statistics (Online) September 2012 IMF
 会計年度は1月~12月

対マダガスカル J I C A 事業実績

(単位: 億円)

	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	累計
円借款(承諾額)	-	-	-	-	107.00
(実行額)	-	-	-	-	-
無償資金協力	-	-	-	-	-
技術協力	10.78	8.87	7.74	9.86	168.17
(うち機材供与)	0.31	0.27	0.40	0.27	16.59

対マダガスカル J I C A 技術協力人数実績

(単位: 人)

	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	累計
研修員受入	123	45	20	5	886
専門家派遣	29	18	35	41	319
調査団派遣	34	35	16	34	1,132
協力隊派遣	13	25	4	0	125
その他ボランティア	0	0	0	0	0

注: 年の区切りは日本の会計年度(4月~3月)。無償は当年度供与限度額(JICA実施監理案件)
 出典: JICA事業実績

対マダガスカル O D A 実績

《我が国》

(支出純額、単位: 百万ドル)

暦年	政府貸付等	無償資金協力	技術協力	合計
2006年	1.77	30.05	7.42	39.24
2007年	-0.90	103.04	9.05	111.19
2008年	-0.48	11.47	9.38	20.37
2009年	-0.26	7.39	11.90	19.03
2010年	-	-	9.62	9.62
累計	-22.34	779.21	151.78	908.69

《D A C 諸国・国際機関》

(支出純額、単位: 百万ドル)

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	うち日本	合計
2007年	フランス 141.97	日本 111.19	米国 66.90	ルウェー 20.23	ドイツ 14.01	111.19	386.63
2008年	フランス 88.42	米国 83.85	ルウェー 22.52	日本 20.37	ドイツ 17.70	20.37	274.47
2009年	フランス 97.47	米国 76.58	日本 19.03	ドイツ 17.83	ルウェー 8.35	19.03	241.57

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	その他	合計
2007年	IDA 208.70	EU Ins. 169.73	AfDF 42.09	GFATM 26.65	UNICEF 12.45	41.98	501.60
2008年	IDA 215.64	EU Ins. 141.35	AfDF 78.93	IMF 58.97	GFATM 17.08	52.58	564.55
2009年	EU Ins. 55.62	IDA 35.51	AfDF 32.53	GFATM 17.26	UNICEF 12.72	48.77	202.41

注: 年の区切りは1月~12月の暦年。DAC集計ベース
 出典: ODA国別データブック2011 外務省

図表 2 IFAD による基本指標

Social indicators	
Population, total (2010)	20,713,819.00
Population growth (annual %) (2010)	2.9
Population density (people per sq. km) (2010)	35.6
Rural population (2010)	14,458,245.70
Rural population density (rural population per sq. km of arable land)	0
Rural population (% of total population) (2010)	69.8
Birth rate, crude (per 1,000 people) (2009)	35.6
Death rate, crude (per 1,000 people) (2009)	6.6
Mortality rate, infant (per 1,000 live births) (2010)	43.1
Mortality rate, under-5 (per 1,000) (2010)	62.1
Life expectancy at birth, total (years) (2009)	66.2
Labor force, total (2009)	9,835,147.00
Labor force, female (% of total labor force) (2009)	49.2
Poverty indicators	
Number of rural poor (million, approximate) (2010)	10,626,810.60
Poverty headcount ratio at rural poverty line (% of rural population) (2005)	73.5
Poverty headcount ratio at national poverty line (% of population) (2005)	68.7
Income share held by lowest 20% (2005)	6.2
Education	
School enrollment, primary (% gross) (2010)	148.6
Literacy rate, adult total (% of people ages 15 and above) (2008)	64.5
Health	
Health expenditure, total (% of GDP) (2009)	4.1
Physicians (per 1,000 people) (2007)	0.2
Improved water source, rural (% of rural population with access) (2008)	29
Improved sanitation facilities, rural (% of rural population with access) (2008)	10
Prevalence of HIV, total (% of population ages 15-49) (2009)	0.2
Agriculture and Food	
Food imports (% of merchandise imports) (2010)	13.6
Food production index (1999-2001 = 100) (2009)	114
Crop production index (1999-2001 = 100) (2009)	115
Cereal yield (kg per hectare) (2009)	2,290.60
Fertilizer consumption (100 grams per hectare of arable land) (2008)	4.3
Environment	
Land area (sq. km) (2010)	581,540.00
Forest area (% of land area) (2010)	21.6
Arable land (% of land area) (2009)	5.1
Irrigated land (% of cropland)	0
Economic Indicators	
GNI per capita, Atlas method (current US\$) (2010)	430
GDP (current US\$) (2010)	8,720,543,554.00
GDP per capita growth (annual %) (2010)	-1.3
Inflation, consumer prices (annual %) (2010)	9.2
Agriculture, value added (% of GDP) (2009)	29.1
Industry, value added (% of GDP) (2009)	16
Manufacturing, value added (% of GDP) (2009)	14.1
Services, etc., value added (% of GDP) (2009)	54.9
General government final consumption expenditure (% of GDP) (2009)	11.6
Household final consumption expenditure, etc. (% of GDP) (2009)	79.4
Gross domestic savings (% of GDP) (2009)	9

(出所) IFAD ウェブサイト

<http://www.ruralpovertyportal.org/country/statistics/tags/madagascar> (2012/11/21 アクセス)

図表 3 地域別 貧困率と貧困ギャップ率 (2010 年)

Tableau 1733 : Précision des ratios de pauvreté de la population, selon le milieu, par région

Unités: %, nombre réel pour l'effet de sondage

Milieu	Proportion	Erreur standard	Intervalle de confiance à 95%		Effet de sondage
			Borne inférieure	Borne supérieure	
Urbain	54,2	1,8777	50,5420	57,9178	3,5947
Rural	82,2	0,8379	80,5338	83,8252	4,7596
Région					
Analamanga	54,5	3,5824	47,4508	61,5229	7,4652
Vakinankaratra	75,8	3,0996	69,7511	81,9269	5,4297
Itasy	79,9	3,1563	73,6987	86,0969	2,8284
Bongolava	76,8	3,4493	69,9822	83,5315	1,7279
Matsiatra Ambony	84,7	1,8097	81,1498	88,2584	1,8941
Amoron'i Mania	85,2	2,2049	80,8749	89,5360	1,6279
Vatovavy Fitovinany	90,0	2,0234	85,9845	93,9326	3,8947
Ihorombe	80,7	4,0008	72,8203	88,5359	1,5009
Atsimo Atsinanana	94,5	1,2440	92,0829	96,9693	1,6470
Atsinanana	82,1	2,7956	76,5867	87,5681	3,9714
Analanjorofo	83,5	3,1485	77,2868	89,6544	4,1254
Alaotra Mangoro	68,2	3,7681	60,8188	75,6203	3,7352
Boeny	62,6	3,5594	55,5619	69,5439	2,2731
Sofia	71,5	3,9389	63,7689	79,2416	5,3138
Betsiboka	82,2	3,7591	74,8171	89,5832	2,2549
Melaky	80,2	3,5570	73,2530	87,2251	1,3502
Atsimo Andrefana	82,1	3,0294	76,1438	88,0439	5,1484
Androy	94,4	2,0993	90,2332	98,4796	4,1479
Anosy	83,5	3,2593	77,1165	89,9195	2,9439
Menabe	64,2	5,5226	53,3256	75,0191	5,0019
DIANA	54,4	4,3063	45,9371	62,8527	2,5815
SAVA	74,9	3,1357	68,7638	81,0813	3,6401
Ensemble	76,5	0,7813	74,9678	78,0368	4,2305

Source: INSTAT/DSM/EPM 2010

(出所) INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.224

http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

図表 4 ジニ係数 (2010 年)

Tableau 189 : Indices d'inégalité, selon le milieu, et selon les régions

Indices	GE (-1)	GE (0)	GE (1)	GE (2)	Gini	Part de population	Part de consommation
Ensemble	0.34305	0.27668	0.34162	0.91978	0.40266	100,0%	100,0%
Urban	0.38656	0.30019	0.33986	0.63064	0.41841	20,3%	30,5%
Rural	0.29143	0.23751	0.30079	0.83681	0.37026	79,7%	69,5%
Analamanga	0.30867	0.27787	0.35348	0.82949	0.40762	11,6%	18,0%
Vakinankaratra	0.23935	0.23850	0.32140	0.69608	0.37683	8,3%	9,1%
Itasy	0.15473	0.15220	0.17756	0.27200	0.30611	3,7%	3,5%
Bongolava	0.17253	0.17929	0.23231	0.42156	0.32767	2,1%	2,2%
Matsiatra Ambony	0.27204	0.25321	0.31533	0.59760	0.38972	6,0%	4,9%
Amoron'i Mania	0.16925	0.17151	0.20921	0.33810	0.32411	3,4%	2,9%
Vatovavy							
Fitovinany	0.18615	0.17233	0.19661	0.29792	0.32141	6,9%	4,8%
Ihorombe	0.19185	0.17824	0.19963	0.29425	0.33043	1,2%	1,0%
Atsimo Atsinanana	0.15198	0.14691	0.17168	0.27715	0.29798	4,4%	2,7%
Atsuanana	0.30031	0.26357	0.30948	0.57824	0.39753	6,0%	5,1%
Analanjirifo	0.27919	0.25729	0.33945	1.08907	0.39141	4,6%	3,9%
Alaotra Mangoro	0.26593	0.25539	0.36760	1.30152	0.38575	4,6%	5,6%
Boeny	0.29517	0.26010	0.33137	0.82367	0.39029	3,4%	4,3%
Sofia	0.18963	0.17900	0.21200	0.34845	0.32794	5,6%	6,1%
Betsiboka	0.18992	0.18388	0.23495	0.49462	0.32935	1,9%	1,6%
Melaky	0.17045	0.16883	0.20288	0.32711	0.32141	1,4%	1,2%
Atsimo Andrefana	0.45957	0.34403	0.46391	3.47352	0.43742	6,6%	5,5%
Androy	0.57564	0.30618	0.2971	0.39014	0.41557	4,0%	2,0%
Anosy	0.25892	0.23956	0.28297	0.47452	0.38239	3,1%	2,4%
Menabe	0.29157	0.24301	0.26116	0.36984	0.38238	3,0%	3,8%
DIANA	0.29471	0.24661	0.27307	0.44492	0.38179	2,8%	3,9%
SAVA	0.23128	0.22373	0.32304	1.20122	0.36245	5,6%	5,5%

Source: INSTAT/DSM/EPM 2010

(出所) Madagascar Après Trois Ans de Crise : Volume I, p.243,

http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/ESW-Protection_sociale_vol1.pdf (2012/11/02 アクセス)

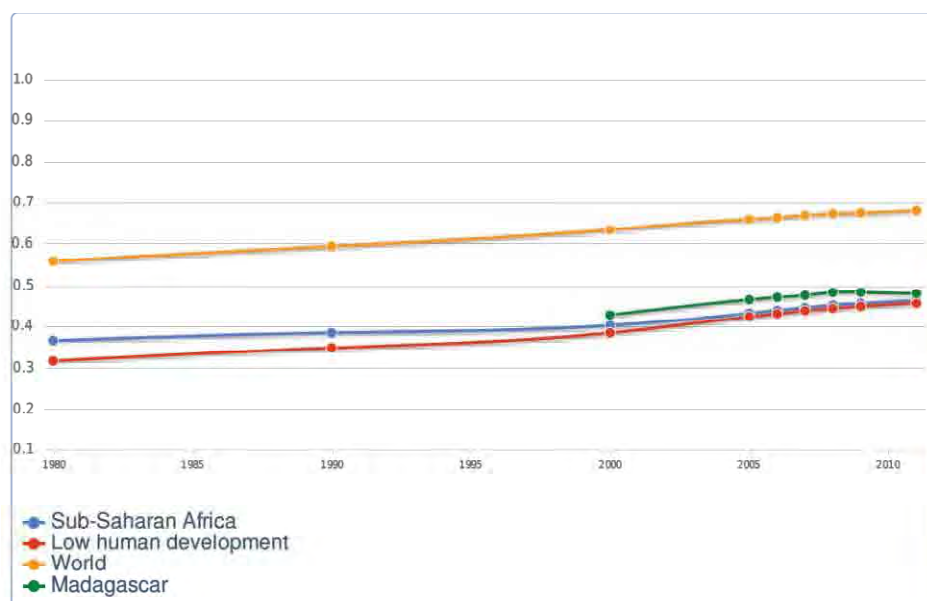
図表 5 HDI 指標 (1980-2011 年)

HDI Rank(2011) :151	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
HDI Index	-	-	-	-	0.43	0.47	0.47	0.48	0.48	0.48	0.48	0.48
Education Index	-	-	-	-	0.4	0.47	0.47	0.48	0.48	0.5	0.5	0.5
Health Index	0.45	0.46	0.49	0.55	0.63	0.7	0.71	0.72	0.72	0.73	0.73	0.74
Income Index	0.37	0.33	0.33	0.3	0.31	0.31	0.31	0.32	0.32	0.31	0.31	0.3

(出所) UNDP ウェブサイト

<http://hdrstats.undp.org/en/countries/profiles/MDG.html> (2012/11/21 アクセス)

図表 6 マダガスカル、サブ・サハラ・アフリカ地域、世界等の HDI 指標の推移(1980-2011年)



(出所) UNDP ウェブサイト

<http://hdrstats.undp.org/en/countries/profiles/MDG.html> (2012/11/21 アクセス)

图表 7 MDG 指标 (2004-2006 年)

Cible	Base de données	Source					
		Intensité	Année référence	2004 (1 ^{er} rapport national)	2005	2006	OMD 2015
Objectif 1 : Réduire l'extrême pauvreté							
Cible 1 : Réduire de moitié, entre 1990 et 2015, la proportion de la population dont le revenu est inférieur à un dollar par jour	Proportion de la population vivant en dessous du seuil de la pauvreté	70% (1993)	72,1%	68,7%	67,5%	35%	INSTAT/EPM 2004/2005
	Incidence de la pauvreté		31,6%	26,8%	29,6%		INSTAT/EPM, nos propres calculs
	Part du cinquième le plus pauvre de la population dans la consommation nationale		6,4%	7,3%	6,7%		INSTAT/EPM 2004/2005, nos propres calculs
Cible 2 : Réduire de moitié, entre 1990 et 2015, la proportion de la population qui souffre de la faim	Pourcentage d'enfants de moins de 5 ans présentant une insuffisance pondérale	39,1% (1992)	42%			19%	EDS 1992/2004
Objectif 2 : Assurer une Education Primaire pour Tous							
Cible 3 : D'ici à 2015, donner à tous les enfants, garçons et filles, partout dans le monde, les moyens d'achever un cycle complet d'études primaires	Taux net de scolarisation dans le primaire	71% (1997)	93,3%	96,8%	96,2%	100%	MENRS-DPEFT
	Taux d'achèvement du primaire	39% (2002)	47,0%	57,0%	57,0%	100%	INSTAT/EPM
	Taux d'alphabétisation des 15 ans et plus		59,2%	62,9%	62,9%	100%	INSTAT/EPM 2004/2005
Objectif 3 : Promouvoir l'égalité des sexes et l'autonomisation des femmes							
Cible 4 : Eliminer les disparités entre les sexes dans les enseignements primaire et secondaire d'ici à 2015 si possible et à tous les niveaux de l'enseignement en 2015 au plus tard	Proportion de filles dans le primaire	49,4% (2001)	49,3%	51,5%	48,8%	50%	MENRS
	Proportion de filles dans le secondaire		48,9%	49,7%	49,5%	50%	MENRS
	Proportion de filles dans le supérieur		46,9%	47,2%	47,0%	50%	MENRS
	Taux d'alphabétisation des femmes de 15 ans et plus		55,5%	59,3%	59,6%		INSTAT/EPM 2004/2005, nos propres calculs
	Pourcentage de femmes salariées dans le secteur non agricole		10,7%	10,9%	11,0%		INSTAT/EPM, nos propres calculs
Proportion de sièges occupés par des femmes au parlement national	4,3% (2003)	5,0%	5,0%	5,0%		MAP, novembre 2006	
Objectif 4 : Réduire la mortalité infantile							
Cible 5 : Réduire de deux tiers, entre 1990 et 2015, le taux de mortalité des enfants de moins de 5 ans	Taux de mortalité des enfants de moins de 5 ans (pour 1 000 enfants)	93% (1997)	58%			31%	EDS 1997 - EDS 2003/2004
	Taux de mortalité infanto-juvénile (pour 1 000 enfants)	159% (1997)	94%			53%	EDS 1997 - EDS 2003/2004
	Proportion d'enfants de 1 an vaccinés contre la rougeole	72,9% (1999)	83%				MINSANPF/Service de Statistique Sanitaire
Objectif 5 : Améliorer la santé maternelle							
Cible 6 : Réduire de trois quarts entre 1990 et 2015 le taux de mortalité maternelle	Taux de mortalité maternelle (sur 100 000 naissances vivantes)	488 (1997)	469			122	EDS 1997 - EDS 2003/2004
	Proportion d'accouchements assistés par le personnel de santé qualifié	47% (1997)	51%				EDS 1997 - EDS 2003/2004

Objectif 6 : Combattre le VIH/SIDA, le paludisme et d'autres maladies							
Cible 7 : D'ici 2015, avoir stoppé la propagation du VIH/Sida et commencé à inverser la tendance actuelle	Taux de séropositivité parmi les femmes enceintes consultées dans les centres PTME		0,06%	0,09%	0,06%	Centres PTME - CNLS	
Cible 8 : D'ici à 2015, avoir maîtrisé le paludisme et d'autres grandes maladies, et avoir commencé à inverser la tendance actuelle	Taux de prévalence du paludisme	19% (1999)	18%	17%	15%	MINSANPF - Service de lutte contre le paludisme	
	Taux de mortalité due au paludisme		6,9%	5,6%	4,2%	MINSANPF/Service de Statistique Sanitaire	
	Proportion de la population vivant dans les zones à risque qui utilisent des moyens de protection et des traitements efficaces contre le paludisme				45,0%	45,0%	PSI - Enquête PSI pour 2005-2006
					38,0%	38,0%	PSI - Enquête PSI pour 2005-2006
					28,0%	28,0%	PSI - Enquête PSI pour 2005-2006
	Taux d'incidence de la tuberculose (pour 100 000 habitants)	108 (2002)	113	118	122	MINSANPF - Service de lutte contre la tuberculose	
	Taux de létalité lié à la tuberculose	7% (2002)	6%	6%	6%	MINSANPF - Service de lutte contre la tuberculose	
Proportion de cas de tuberculose détectés et soignés dans le cadre de traitements de brève durée sous surveillance directe	100%	100%	100%	100%	MINSANPF - Service de lutte contre la tuberculose		
Objectif 7 : Assurer un environnement durable							
Cible 9 : Intégrer les principes du développement durable dans les politiques nationales et inverser la tendance actuelle à la déperdition des ressources environnementales	Proportion de zones forestières		22,7%	22,6%	22,6%	MINENVEF - ONE	
	Proportion des aires protégées pour préserver la biodiversité par rapport à la superficie totale		2,9%	4,5%	6,4%	MINENVEF - Direction de la Promotion du Système des Aires Protégées	
Cible 10 : Réduire de moitié, d'ici à 2015, le pourcentage de la population qui n'a pas accès de façon durable à un approvisionnement en eau potable salubre	Proportion de la population ayant accès à un meilleur système d'assainissement		44,0%	44,8%	48,0%	MEM/DEPA 2004/2005 Mission économique française 2006	
	Proportion de la population possédant des latrines		50,0%	51,5%	51,5%	RMO DSRP 2006	
	Proportion de la population ayant accès à l'eau potable	24% (1999)	29,5%	39,6%	62%	INSTAT/EPM	
Objectif 8 : Mettre en place un partenariat mondial pour le développement							
Cible 16 : En coopération avec les pays en développement formuler et appliquer des stratégies qui permettent aux jeunes de trouver un travail décent et utile	Taux de chômage des jeunes de 15 à 24 ans		2,1%	2,2%		INSTAT - EPM 2005	
Cible 18 : En coopération avec le secteur privé, faire en sorte que les avantages des nouvelles technologies, en particulier des technologies de l'information et de la communication, soient accordés à tous	Taux de pénétration téléphonique fixe et mobile		2,3%	3,2%	6,3%	MTPC/Programmation - OMERT	

(出所) Rapport national de suivi des OMD 2007 *Vision 2015 Madagascar*, p.114-115

http://planipolis.iiep.unesco.org/upload/Madagascar/Madagascar_Rapport_ODM_2007.pdf (2012/11/15

アクセス)

地図 1 マダガスカル全土地図



(出所) WB (2012) Madagascar Après trois ans de crise, p. 78

http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/ESW-Protection_sociale_vol1.pdf (2012/11/01 アクセス)

地図 2 地域別 貧困率 (2010 年)

Carte 9 : Ratio de pauvreté, selon les régions



Source: INSTAT/DSM/EPM 2010

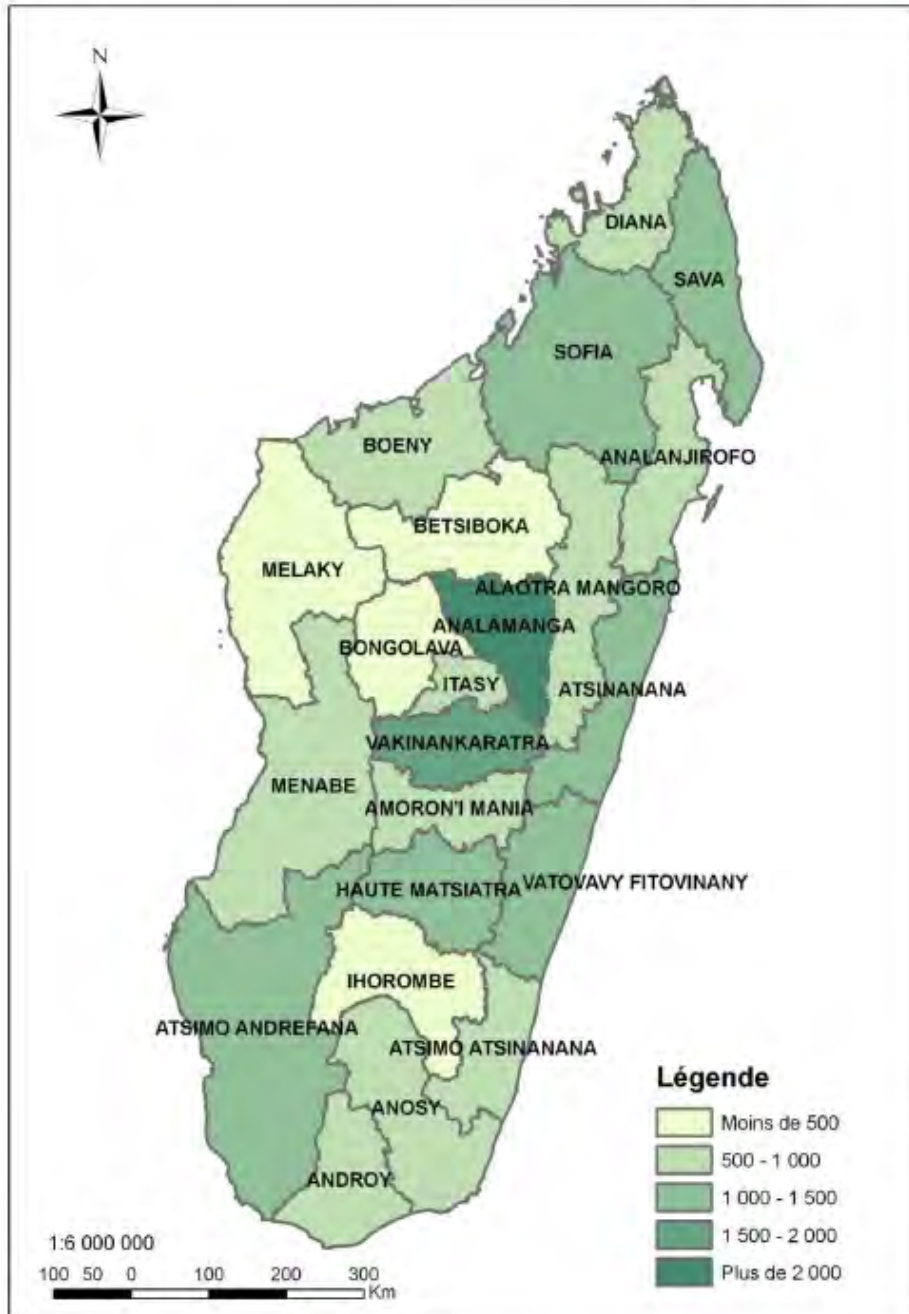
(出所) INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.226

http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

地図 3 地域別 人口分布 (2010 年)

Carte A 1 : Population par région

Unité : millier d'individus.



Source : INSTAT/DSM/EPM 2010

(出所) INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.363

http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

I. 貧困の状況の概観

マダガスカル共和国はアフリカ大陸の東南に位置する世界で 4 番目に大きな島である。「8 番目の大陸」と呼ばれることもあるほど、固有の動植物が豊富に生息する場でもあり、観光客を呼び込む資源となっている。豊かな自然に恵まれる一方で、同国はインド洋で発生するサイクロンや洪水といった自然災害にもたびたび見舞われ、道路などのインフラ損壊等の被害を受けている。国民の 1/3 はサイクロン被害を受けやすい東部沿岸地域に暮らしている。また南部には多くの貧困層が暮らしているが、この地域は旱魃による影響を受けやすい⁹。

マダガスカルは 1960 年代にアフリカでも有数の経済成長を遂げた国である。ところが、その後は政治的混乱などにより経済は低迷し、一人当たりの収入が 1970 年の 473 米ドルから 2008 年には 410 米ドルへと減少するなど、現在、マダガスカルは世界の最貧国の一つとして数えられている。2010 年の全国平均の貧困率は 76.5% である。約 2 千万人の国民のうち 80% が農村部に暮らしているが、農村部の貧困率は都市部に比べてかなり高く 82.2%、都市部では 54.2% である。また、2011 年の HDI は世界 173 か国中 151 位であった。

2002 年に就任したラヴァルマナナ大統領は、MDGs 達成、貧困削減を目指して「マダガスカル行動計画 (Madagascar Action Plan : MAP)」という 5 ヶ年計画を策定し、社会経済、政治改革に取り組んだ結果、経済成長は年率平均 5% を実現し、貧困率はピーク時の 80% から 2002 年には 69% にまで改善された。また経済改革の成果により、2008 年末には経済成長は年率 7% 以上と好調な推移が予測されていた。しかし、大統領と反政府勢力との政治的対立が起こり、軍の支持を受けて 2009 年 3 月にラジョリナ新政権が発足した。憲法を遵守しない形での政権交代であるとして、暫定政府は国際社会から承認を得られず、国内には再び政治的混乱が起こっている。アフリカ連合 (African Union : AU) などが事態の打開に向けて仲介に乗り出したがうまく進んでおらず、政変以前は国家予算の 50%、公共投資額の 75% を占めていた各国からの援助のほとんどは停止されたままである。世界的な金融危機に加え、政治状況が落ち着かないため、海外投資や観光業の落ち込みが激しく、早急な回復は期待できない。特に観光業の不振や公共投資の減少、繊維、エビの養殖業での輸出と雇用の大幅な減少により、都市部においてはすでに 228,000 人 (人口の 1%) の失業者が確認されている¹⁰。

⁹ WFP (2011) Analyse Globale de la Sécurité Alimentaire et Nutritionnelle, et de la Vulnérabilité (CFSVA+N) *Rapport Données collectées en août/septembre 2010*, p.32
http://www.wfp.org/sites/default/files/Rapport%20Principal_Mada%20CFSVA%20+N%202010_Fran%C3%A7ais.pdf (2012/11/14 アクセス)

¹⁰ WB サイト、<http://www.banquemondiale.org/fr/country/madagascar/overview> (2012/12/26 アクセス)

II. 貧困削減のための政策枠組み

1. 貧困削減戦略及び目標の現状¹¹

2001年に実施された大統領選挙後、新大統領として就任したラヴァルマナナ氏をアフリカ統一機構が承認しなかったことから社会的混乱が起これ、経済成長率がマイナス成長を記録する等の影響を及ぼした。その後、主要国からの承認を受けたラヴァルマナナ政権は2003年に第一次 PRSP を策定し、2004年11月には持続的な発展を目指す長期的な国家開発ビジョンとして「Madagascar Naturellement」を発表した。また経済発展、貧困削減、生活の質の向上及び MDGs 達成を実現するための実行計画として、中期計画である第二次 PRSP 「マダガスカル行動計画 (Madagascar Action Plan 2007-2012 : MAP)」も策定した。この5カ年計画は8つの公約から構成されており、各項目内には具体的な数値目標なども掲げられている。

公約

- 1) 責任ある政治
- 2) インフラストラクチャー整備
- 3) 教育システムの改革
- 4) 農村部の開発
- 5) 保健・家族計画の推進、HIV/AIDS 対策
- 6) 力強い経済成長
- 7) 環境への配慮
- 8) 国民の連帯

2009年以前に作成された MAP では、社会保障政策についても言及されていたが、政変後にこの計画が実行されるかどうかは不透明である。

マダガスカルは自然・地理的条件により、従来からサイクロンや洪水などの自然災害に見舞われてきた。近年は、主食である米をはじめとする食糧や石油価格の世界的な高騰も国民生活に大きな影響を与えている。WB はこれらの要因に加え、2009年に起こった政変などの政治的リスクが貧困改善を阻む大きな要因であると見ている。過去数十年間で、GDP は低下し続け、貧困率は悪化している。2010年の貧困率は77%に達し、人口約2千万人(2009年)に占める貧困層は1560万人にも上る。貧困率は世界的に見ても高く、ハイチと並ぶ貧困国である¹²。

¹¹ Gouvernement de Madagascar (2006), Plan d'action Madagascar 2007-2012 Un Plan Audacieux pour le Développement Rapide, p.3-25 を主に参照。
<http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/MAPFrench.pdf>
(2012/11/01 アクセス)

¹² WB (2012), Madagascar Après Trois Ans de Crise : Volume I, p.i-ii,
http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/ESW-Protection_sociale_vol1.pdf
http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/ESW-Protection_sociale_vol1.pdf (2012/11/02 アクセス)

図表 8 MAP の主要数値目標

INDICATEURS	2005	2012
Indice de Développement Humain des Nations Unies	146 parmi 177 pays	100
Taux de pauvreté (Pourcentage de la population vivant avec moins de 2USD par jour)	85,1% (en 2003)	50%
Taille de la famille (Indice de fécondité)	5,4	3 à 4
Espérance de vie	55,5	58 à 61
Taux d'alphabétisation	63%	80%
Pourcentage des élèves ayant terminé l'école secondaire	CEG: 19% Lycée: 7%	CEG: 56% Lycée: 14%
Croissance économique	4,6%	8 à 10%
PIB (USD)	5 Milliards	12 Milliards
PIB par tête (USD)	309	476
Investissement Direct Etranger(USD)	84 Millions	500 Millions
Classification Environnement des Affaires (Banque Mondiale)	131	80
Indice de perception de la corruption	2,8	5,2
Pourcentage des ménages en possession de titres ou certificats fonciers	10%	75%

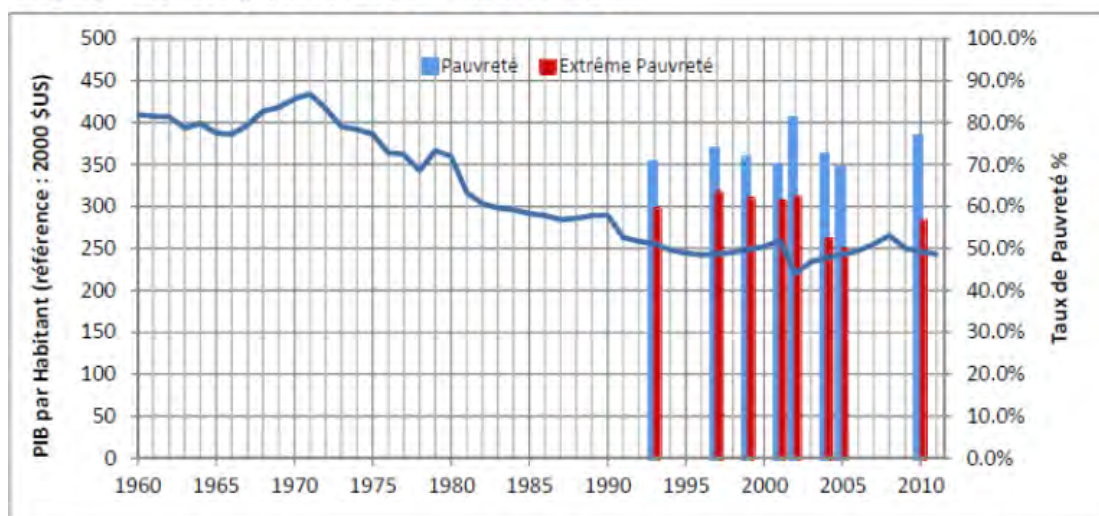
(出所) Gouvernement de Madagascar (2006), Plan d'action Madagascar 2007-2012, Un Plan Audacieux pour le Développement Rapide, p.8

<http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/MAPFrench.pdf>

(2012/11/01 アクセス)

図表 9 国民一人当たりの GDP と貧困率の推移 (1960-2011)

Graphique 2.1 : PIB par habitant et Pauvreté (1960-2011)



Sources : INSTAT. Indicateurs du Développement dans le Monde (*World Development Indicators*, ou WDI) et FMI.

(出所) Madagascar Après Trois Ans de Crise : Volume I, p.9,

http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/ESW-Protection_sociale_vol1.pdf (2012/11/02 アクセス)

(1) 政変前後の政策¹³

2009年の政変以前に、社会保障に関連した政策が策定されていた。それには7つの項目があり、子どもの栄養状態改善を目指す食糧保障、自然災害などへのリスク対策、雇用支援、学費軽減などの教育政策、農村開発、マイクロファイナンスの充実などが盛り込まれていた。現政権は政変後もMAPによる社会保障政策目標を終了年度の2012年まで継続するとしているが、その実現は不確実なものである。

(2) 政変後の政策¹⁴

現政権は政府による社会保障政策として **Tsena Mora** を2010年10月に開始した。これは、都市部の貧しい住民を対象として、補助金により基礎的食料品を市価より安く供給するというプログラムである。しかしこの政策は2011年に開始された **Vary Mora** という米を安く供給する補助プログラムを除き、2011年7月で停止したと見られる。

Tsena Mora は政変による影響を緩和する目的で、都市部の住民を対象として大統領府直轄で行われた政策である。192地区すべてが対象となった アンタナナリボ (Antananarivo)

¹³ WB (2012), Madagascar Après Trois Ans de Crise : Volume I, p.26
http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/ESW-Protection_sociale_vol1.pdf
http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/ESW-Protection_sociale_vol1.pdf (2012/11/02 アクセス)

¹⁴ WB (2012), Madagascar Après Trois Ans de Crise : Volume I, p.32, 38

に加え、5つの旧県都に設置された拠点において、米、油、砂糖を補助金により市価の半分ほどで購入できるようになっていた。しかし実施は大都市に限られ、このサービスを利用できる人も予めリストアップされた「貧しい人」に限られていた。このリストは、基礎保健サービスを無料供給する対象の「最貧の人」を選定する際、2004年に **fokontany** という最小単位の行政区毎に作成されたものである。これに加え、**Tsena Mora** は公式には、3-5人の就労年齢に達しない子を抱える世帯、不定期雇用で収入が不安定な人、非正規市場労働者などを販売対象者とした。施策により、6つの県都では食糧保障状況が改善され、全世帯の約6%、6県の三分の二の世帯に相当する約25万世帯が恩恵を受けたと見られている。しかし貧困率が都市部よりも高く、大多数の貧困層が暮らすのはこれらの地域以外の農村部であり、不平等なものである。

図表 10 Tsena Mora による食料品の販売量等 (2010-2011 年)

Tableau 4.1 : Ventés Subventionnées de Produits Alimentaires de Base par Tsena Mora

Produit	Prix des Ventés Subventionnées	Taux de Subvention (% du Prix de Vente Moyen)		Quantité Vendue par Bénéficiaire (1 Fois Toutes les 2 Semaines)
		2010	2011 (jan.-mai)	
Riz	500 Ar par kg	57%	64%	2-5 kg
Huile	2 500 Ar par litre	43%	44%	1 litre
Sucre	1 000 Ar par kg	56%	63%	1 kg

Source : Ralaivelo (2011b) ; données sur les prix issues de l'INSTAT.

(出所) Madagascar Après Trois Ans de Crise : Volume I, p.38,

http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/ESW-Protection_sociale_vol1.pdf (2012/11/02 アクセス)

2. 政府による指定貧困地域・集団¹⁵

2009年の政変後、前政権により策定されたMAPは公式には2012年まで継続するとされているが、現実には政府としての具体的戦略はまだ不透明であるため、ここではWBが2012年に提言した重点的に取り組むべき対象・地域を参考情報として記載する。

WBは、限られた予算内で効率的に貧困削減するために、優先度を3段階に分けて取り組むことを提言している。最優先対象者として、特に南部の農村部で暮らす最貧困層、栄養不足のすべての子ども、都市部の最貧困層の女性世帯主、サイクロン禍に遭った者、を挙げている。第二優先グループとして、都市部周辺の最貧困層、高齢者、学業放棄した子ども、をあげ、最後に、都市部の最貧困層および失業中の最貧困層を挙げている。

¹⁵ WB (2012) , Madagascar Après Trois Ans de Crise : Volume I, p.57, 61
http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/ESW-Protection_sociale_vol1.pdf
http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/ESW-Protection_sociale_vol1.pdf (2012/11/02 アクセス)

図表 11 WB 提言による優先的に貧困対策をすべきグループ

Tableau 5.1 : Groupes Vulnérables Prioritaires

Groupes Géographiques	Priorité
<ul style="list-style-type: none"> • Populations rurales extrêmement pauvres, avec une attention particulière pour l'extrême sud du pays. Une grande partie de la population rurale est extrêmement pauvre et vulnérable. La population rurale de l'extrême sud du pays est particulièrement vulnérable. Le Système d'Alerte Précoce (SAP) pourrait servir à identifier les départements et les communautés susceptibles d'être les plus touchées. 	***
<ul style="list-style-type: none"> • Individus extrêmement pauvres ayant été touchés par une catastrophe naturelle, comme un cyclone. 	***
<ul style="list-style-type: none"> • Populations extrêmement pauvres des zones périurbaines. Les pauvres des zones périurbaines représentent un groupe important. La vulnérabilité en milieu urbain a toutefois tendance à être moins extrême et moins grave dans l'ensemble que la pauvreté en milieu rural. 	**
Groupes Démographiques et Économiques	Priorité
<ul style="list-style-type: none"> • Enfants atteints de malnutrition. Près de la moitié des enfants de moins de cinq ans souffrent de malnutrition chronique. Le niveau de développement de ces enfants les rend extrêmement vulnérables au risque de vivre dans un environnement défavorable perpétuant ainsi le cycle de la pauvreté. L'enfance est l'étape de la vie où le rythme du développement physique, cognitif et psychosocial est le plus soutenu et où un développement anormal est le plus susceptible de se produire en cas de pauvreté. 	****
<ul style="list-style-type: none"> • Ménages extrêmement pauvres dirigés par une femme célibataire, en particulier les ménages vivant en milieu urbain. 	***
<ul style="list-style-type: none"> • Enfants ne fréquentant pas le système éducatif. La vulnérabilité est fortement corrélée au manque d'éducation. Cependant, réintégrer les enfants dans le système scolaire après qu'ils en sont sortis est coûteux. 	**
<ul style="list-style-type: none"> • Personnes âgées extrêmement pauvres. Certes, une proportion moins élevée des personnes âgées est pauvre, mais ceci est principalement dû à leur faible espérance de vie. A l'heure actuelle, aucun programme d'assistance des citoyens âgés qui sont exclus du système d'assistance sociale et ne peuvent s'appuyer sur des dons de leurs voisins ou famille n'est en place. 	**
<ul style="list-style-type: none"> • Populations urbaines extrêmement pauvres et individus extrêmement pauvres au chômage. L'analyse de la vulnérabilité identifie ces groupes comme prioritaires. En effet, la vulnérabilité est fortement corrélée avec la pauvreté extrême et le chômage, en particulier chez les femmes vivant en milieu urbain et les jeunes. Bien que ces individus soient probablement inclus dans les groupes prioritaires susmentionnés, ils peuvent également avoir des besoins spécifiques. 	*

Note : **** = Première priorité, ** = Deuxième priorité, * = Troisième priorité.

(出所) Madagascar Après Trois Ans de Crise : Volume I, p. 61,

http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/ESW-Protection_sociale_vol1.pdf (2012/11/02 アクセス)

III. 所得貧困による分析

1. 貧困線とデータ¹⁶

本書で主に使用している貧困指標は、政府の統計機関である国立統計研究所 (Institut national de la statistique : INSTAT) が行っている家計調査 (Enquête périodique auprès des ménages : EPM) に拠るものである。同機関は、国際貧困線 (1.25 米ドル未満/1 日) とは別に独自の貧困線を設定しており、食費やサービス・財などに対する 1 人あたりの年間総支出額を基準としている。全国 623 地域で 12,460 世帯を対称に行われた 2010 年の調査により、同年の貧困線は 468,800 アリアリ (MGA)¹⁷ に設定されている。

これとは別に年間消費額による指標も併用されており、1 人あたりの年間消費額を 5 分類した指標も分析に用いている。第 1 分位 (Quintile1) を、一人当たりの年間消費額が 179,000MGA 以下で最も貧しい層と位置づけ、511,000MGA 以上の第 5 分位 (Quintile5) を最も裕福な層と分類している。

また、同調査では摂取カロリーベースによる最貧困層の定義も行っている。それによると、1 日あたり 2,133kcal のカロリーを摂取できない人、年間の食費が 328,162MGA 未満の層を最貧困層に属するとみなしている。この指標を用いると、人口の 56.5%、つまり 1,100 万人以上が最貧困となる。農村部の最貧困率は 62.1%、都市部は 34.6%とされている。

図表 12 1 人あたりの消費額による貧富 5 分類の基準 (2010 年)

Quintile	Consommation par tête comprise entre
1 ^{er} quintile=Les plus pauvres	moins de 179 000 Ar.
2 ^{ème} quintile	entre 179 000 Ar. et 257 000 Ar.
3 ^{ème} quintile	entre 257 000 Ar. et 347 000 Ar.
4 ^{ème} quintile	entre 347 000 Ar. et 511 000 Ar.
5 ^{ème} quintile=Les plus riches	supérieure à 511 000 Ar.

Source: INSTAT/DSM/EPM 2010

(出所) INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.210

http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

¹⁶ INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.4-5,23,222

http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

¹⁷ 1 アリアリ=0.035 円 (2012 年 9 月 JICA レートより)

http://www.jica.go.jp/announce/manual/form/consul_g/ku57pq00000kzv7m-att/rate_2012.pdf (2012/11/12 アクセス)

図表 13 地域別 最貧困・貧困率（2010年）

Tableau 182 : Pauvreté et pauvreté extrême, selon le milieu de résidence

Milieu	Unité: %	
	Extrême pauvreté	Pauvreté
Urbain	34,6	54,2
Rural	62,1	82,2
Ensemble	56,5	76,5

Source: INSTAT/DSM/EPM 2010

(出所) INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.235

http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

2. 貧困状況 - 貧困率、貧困ギャップ率、GINI 分析¹⁸

マダガスカルの貧困率は 1993 年の 70% から 2010 年の 76.5% に推移していることから読み取れるように、過去 20 年でほとんど状況の改善は見られない。政変から 3 年が経過した 2012 年現在も経済は低調なままで、国民 1 人あたりの GDP は 10% 低下している。地域別で比較すると、農村部の貧困率の方が高く、82.2%、都市部では 54.2% となっている。

また、貧困ギャップ率は 1993 年の 30.3% から 2010 年の 34.9% で推移しており進展は見られない。地域別では、農村部では 38%、都市部では 21% となっており、貧困率と同様に農村部の方がより高い傾向がみられる。

ジニ係数は 2005-2010 年の比較で 0.365 から 0.403 へと上昇している。この傾向は都市・農村部ごとにみても同様である。同期間の比較で、都市部のジニ係数は 0.405 から 0.418 へ、農村部は 0.335 から 0.370 へ推移しており、貧富の格差が拡大している。

¹⁸ WB (2012) Madagascar Après Trois Ans de Crise : Volume I, p.13-14,243

http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/ESW-Protection_sociale_vol1.pdf
http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/ESW-Protection_sociale_vol1.pdf (2012/11/02 アクセス)

図表 14 地域別 貧困率と貧困ギャップ率 (2010 年) (再掲)

Tableau 1733 : Précision des ratios de pauvreté de la population, selon le milieu, par région

Unités: %, nombre réel pour l'effet de sondage

Milieu	Proportion	Erreur standard	Intervalle de confiance à 95%		Effet de sondage
			Borne inférieure	Borne supérieure	
Urbain	54,2	1,8777	50,5420	57,9178	3,5947
Rural	82,2	0,8379	80,5338	83,8252	4,7596
Région					
Analamanga	54,5	3,5824	47,4508	61,5229	7,4652
Vakinankaratra	75,8	3,0996	69,7511	81,9269	5,4297
Itasy	79,9	3,1563	73,6987	86,0969	2,8284
Bongolava	76,8	3,4493	69,9822	83,5315	1,7279
Matsiatra Ambony	84,7	1,8097	81,1498	88,2584	1,8941
Amoron'i Mania	85,2	2,2049	80,8749	89,5360	1,6279
Vatovavy Fitovinany	90,0	2,0234	85,9845	93,9326	3,8947
Ihorombe	80,7	4,0008	72,8203	88,5359	1,5009
Atsimo Atsinanana	94,5	1,2440	92,0829	96,9693	1,6470
Atsinanana	82,1	2,7956	76,5867	87,5681	3,9714
Analanjorofo	83,5	3,1485	77,2868	89,6544	4,1254
Alaotra Mangoro	68,2	3,7681	60,8188	75,6203	3,7352
Boeny	62,6	3,5594	55,5619	69,5439	2,2731
Sofia	71,5	3,9389	63,7689	79,2416	5,3138
Betsiboka	82,2	3,7591	74,8171	89,5832	2,2549
Melaky	80,2	3,5570	73,2530	87,2251	1,3502
Atsimo Andrefana	82,1	3,0294	76,1438	88,0439	5,1484
Androy	94,4	2,0993	90,2332	98,4796	4,1479
Anosy	83,5	3,2593	77,1165	89,9195	2,9439
Menabe	64,2	5,5226	53,3256	75,0191	5,0019
DIANA	54,4	4,3063	45,9371	62,8527	2,5815
SAVA	74,9	3,1357	68,7638	81,0813	3,6401
Ensemble	76,5	0,7813	74,9678	78,0368	4,2305

Source: INSTAT/DSM/EPM 2010

(出所) INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.224

http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

図表 15 地域別 貧困率の推移 (1993-2010 年)

Tableau 174 : Evolution des ratios de pauvreté de 1993 à 2010

		Unité: %								
Milieu	Année	1993	1997	1999	2001	2002	2004	2005	2010	Variation 2010/2005
Urban		50.1	63.2	52.1	44.1	61.6	53.7	52.0	54.2	2.2
Rural		74.5	76.0	76.7	77.1	86.4	77.3	73.5	82.2	8.7
Ensemble		70.0	73.3	71.3	69.6	80.7	72.1	68.7	76.5	7.8

Source: INSTAT/DSM/EPM 1993 à 2010

(出所) INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.230

http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

図表 16 地域別 貧困ギャップ率の推移 (1993-2010 年)

Tableau 175 : Evolution des intensités de pauvreté de 1993 à 2010

		Unité: %								
Milieu	Année	1993	1997	1999	2001	2002	2004	2005	2010	Variation 2010/2005
Urban		17.5	29.6	21.4	18.3	29.3	20.2	19.3	21.3	2.0
Rural		33.2	34.7	36.1	39.7	53.0	34.8	28.9	38.3	9.4
Ensemble		30.3	33.6	32.8	34.8	47.6	31.6	26.8	34.9	8.1

Source: INSTAT/DSM/EPM 1993 à 2010

(出所) INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.230

http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

図表 17 ジニ係数 (2010 年) (再掲)

Tableau 189 : Indices d'inégalité, selon le milieu, et selon les régions

Indices	GE (-1)	GE (0)	GE (1)	GE (2)	Gini	Part de population	Part de consommation
Ensemble	0.34305	0.27668	0.34162	0.91978	0.40266	100,0%	100,0%
Urbain	0.38656	0.30019	0.33986	0.63064	0.41841	20,3%	30,5%
Rural	0.29143	0.23751	0.30079	0.83681	0.37026	79,7%	69,5%
Analamanga	0.30867	0.27787	0.35348	0.82949	0.40762	11,6%	18,0%
Vakinankaratra	0.23935	0.23850	0.32140	0.69608	0.37683	8,3%	9,1%
Itasy	0.15473	0.15220	0.17756	0.27200	0.30611	3,7%	3,5%
Bongolava	0.17253	0.17929	0.23231	0.42156	0.32767	2,1%	2,2%
Matsiatra Ambony	0.27204	0.25321	0.31533	0.59760	0.38972	6,0%	4,9%
Amoron'i Mania	0.16925	0.17151	0.20921	0.33810	0.32411	3,4%	2,9%
Vatovavy							
Fitovinany	0.18615	0.17233	0.19661	0.29792	0.32141	6,9%	4,8%
Ihorombe	0.19185	0.17824	0.19963	0.29425	0.33043	1,2%	1,0%
Atsimo Atsinanana	0.15198	0.14691	0.17168	0.27715	0.29798	4,4%	2,7%
Atsuanana	0.30031	0.26357	0.30948	0.57824	0.39753	6,0%	5,1%
Analanjirifo	0.27919	0.25729	0.33945	1.08907	0.39141	4,6%	3,9%
Alaotra Mangoro	0.26593	0.25539	0.36760	1.30152	0.38575	4,6%	5,6%
Boeny	0.29517	0.26010	0.33137	0.82367	0.39029	3,4%	4,3%
Sofia	0.18963	0.17900	0.21200	0.34845	0.32794	5,6%	6,1%
Betsiboka	0.18992	0.18388	0.23495	0.49462	0.32935	1,9%	1,6%
Melaky	0.17045	0.16883	0.20288	0.32711	0.32141	1,4%	1,2%
Atsimo Andrefana	0.45957	0.34403	0.46391	3.47352	0.43742	6,6%	5,5%
Androy	0.57564	0.30618	0.2971	0.39014	0.41557	4,0%	2,0%
Anosy	0.25892	0.23956	0.28297	0.47452	0.38239	3,1%	2,4%
Menabe	0.29157	0.24301	0.26116	0.36984	0.38238	3,0%	3,8%
DIANA	0.29471	0.24661	0.27307	0.44492	0.38179	2,8%	3,9%
SAVA	0.23128	0.22373	0.32304	1.20122	0.36245	5,6%	5,5%

Source: INSTAT/DSM/EPM 2010

(出所) Madagascar Après Trois Ans de Crise : Volume I, p.243,

http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/ESW-Protection_sociale_vol1.pdf (2012/11/02 アクセス)

地図 4 地域別 貧困率 (2010 年) (再掲)

Carte 9 : Ratio de pauvreté, selon les régions



Source: INSTAT/DSM/EPM 2010

(出所) INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.226

http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

IV. 所得貧困以外による分析

1. 人間開発指標のトレンド、地域・国際比較

マダガスカルは2011年時点で、173か国中151位とランキングされており、2000年時点で0.43、2005年時点で0.47、2011年時点で0.48と徐々に改善されてきているもののその速度は決して早いものではない¹⁹。

教育関連指標については、過去十年に渡り改善の傾向にあることが示されているが、HDIと同様に2007年以降は横ばいで推移しており、2011年時点で、教育関連指標が0.5となっている。

同様に、保健・医療関連指標については、2011年時点では、0.74となっており状況が改善されていることが見受けられるが、近年大きな変化は見られない²⁰。

HDIの近隣諸国との比較においては、所得関連指標は近隣諸国やサブサハラ地域平均より低いものの、保健・医療関連指標、教育関連指標は比較的高い水準にあり、これら指標がHDI全体を引き上げている。

図表 18 マダガスカル HDI 指標の推移 (1980-2011 年) (再掲)

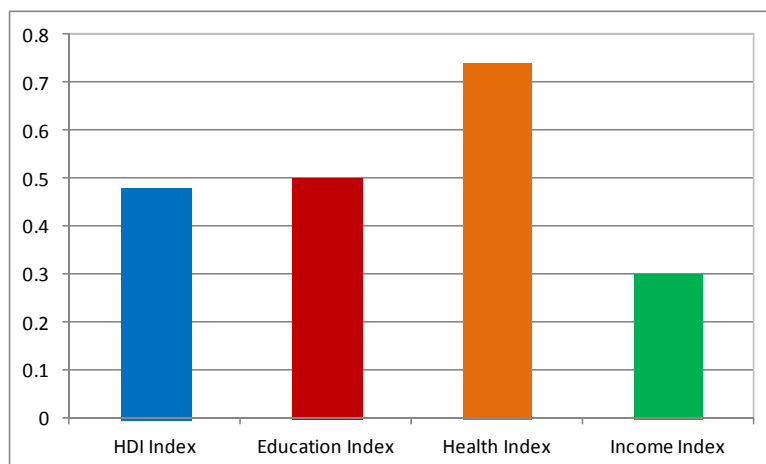
HDI Rank(2011) :151	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
HDI Index	-	-	-	-	0.43	0.47	0.47	0.48	0.48	0.48	0.48	0.48
Education Index	-	-	-	-	0.4	0.47	0.47	0.48	0.48	0.5	0.5	0.5
Health Index	0.45	0.46	0.49	0.55	0.63	0.7	0.71	0.72	0.72	0.73	0.73	0.74
Income Index	0.37	0.33	0.33	0.3	0.31	0.31	0.31	0.32	0.32	0.31	0.31	0.3

(出所) UNDP Website, <http://hdrstats.undp.org/en/countries/profiles/MDG.html> (2012/11/21 アクセス)

¹⁹ UNDP Website, <http://hdrstats.undp.org/en/countries/profiles/MDG.html> (2012/11/21 アクセス)

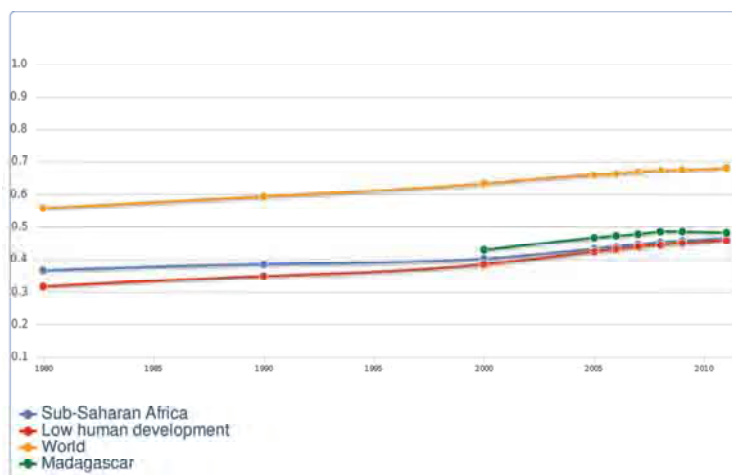
²⁰ UNDP Website, <http://hdrstats.undp.org/en/countries/profiles/MDG.html> (2012/11/21 アクセス)

図表 19 マダガスカル HDI 指標 (2011 年)



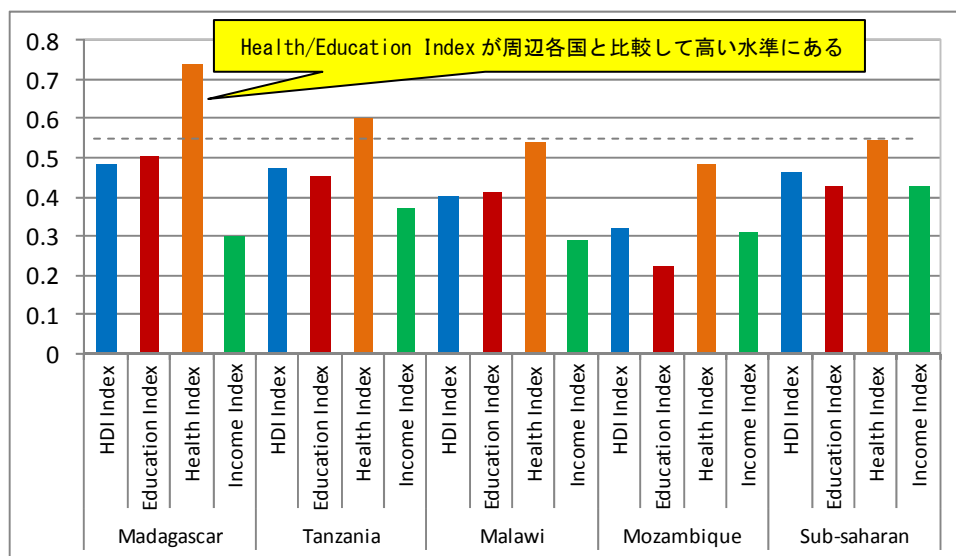
(出所) UNDP Website, <http://hdrstats.undp.org/en/countries/profiles/MDG.html> (2012/11/21 アクセス)

図表 20 マダガスカル、サブ・サハラ・アフリカ地域、世界等の HDI 指標の推移 (再掲)



(出所) UNDP Website, <http://hdrstats.undp.org/en/countries/profiles/MDG.html> (2012/11/21 アクセス)

図表 21 近隣諸国との HDI 比較



(出所) UNDP Website, <http://hdrstats.undp.org/en/indicators/103106.html> (2012/11/21 アクセス)

2. MDGs 指標の分析

2005-2008 年の間に MDGs 指標の改善に向けてなされた努力とその成果が、2008 年末からの政変を受けて生じた経済的混乱などにより危機に陥っていると UNDP は報告している。しかしいくつかの指標には改善が見られ、初等教育における男女比はほぼ均等になっている点や、HIV の蔓延も 0.2% と低い水準に抑えられていると評価している。その一方で、政治や経済活動における女性の地位向上や母子保健の改善など、まだ課題の残る分野が多い²¹。

・ MDG 1 : 極度の貧困と飢餓の撲滅

成人のうち、1 日 2,300Kcal 以下で生活する食糧不安が広く見られることはマダガスカルにおける大きな問題のひとつである。栄養不足の 5 歳未満児も増加しており、2005 年には全国で 42% の子どもが栄養不足とされている²²。2007 年時点では、マクロ経済の安定、失業問題等解決すべき問題が依然として多く、貧困率半減、つまり貧困率 35% 以下という目標達成は困難であると予測している²³。UNDP はこの項目に関しては政変以来、明らかな後

²¹ UNDP ウェブサイト
<http://www.undp.org/content/madagascar/fr/home/mdgoverview/omdindicateurdesuivi/> (2012/11/15 アクセス)

²² Gouvernement de Madagascar (2006), Plan d'action Madagascar 2007-2012 Un Plan Audacieux pour le Développement Rapide, p.80
<http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/MAPFrench.pdf>
(2012/11/01 アクセス)

²³ Rapport national de suivi des OMD 2007 Vision 2015 Madagascar, p.12,
http://planipolis.iiep.unesco.org/upload/Madagascar/Madagascar_Rapport_OMD_2007.pdf (2012/11/15 アクセス)

退が認められるとしている。

・ MDG 2 : 普遍的初等教育の達成

1997-2006年の期間に初等教育の実質就学率は71%から96%へと大きく改善した。教育の質や修学率に関してはまだ改善の必要があるものの、目標達成見通しに関しては2006年時点では実現可能と見込んでいる²⁴。

政府は、国連等の国際機関が主導する「万人のための教育 (Education Pour Tous : EPT)」というプランに基づき、2003年より教育システムの改革に取り組んだ結果、一定の成果を挙げたとしている。初等教育の就学者数は1997-1998年の170万人から2005-2006年には370万人に増加している。しかし、継続的な通学と識字率に関しては依然として問題が残っているという認識のもと、MAPでは更なる教育システムの改革について述べており、初等教育期間を現行の4年制から7年制にするとしたものの、この教育制度改革は政変により頓挫している。また同書では、地域間や貧富による就学率の格差も課題として認識されている。識字率に関しては、2006年の調査では15歳以上の人口のうち約48%が非識字であると報告している。11-17歳の年齢層では100万人以上が非識字である²⁵。

図表 22 初等教育課程の修学率と15歳以上の識字率 (2006年)

INDICATEURS	2006
Taux d'achèvement de l'éducation primaire:	57%
Taux d'alphabétisme chez les adolescents/adultes âgés de plus de 15 ans	52%

(出所) Gouvernement de Madagascar (2006), Plan d'action Madagascar 2007-2012 *Un Plan Audacieux pour le Développement Rapide*, p.54, 59

<http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/MAPFrench.pdf>

(2012/11/01 アクセス)

・ MDG 3 : ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上

1999-2008年で女子の就学率は20.7%上昇した結果、初等教育修学における男女格差はほぼ見られず、2015年までの目標達成は可能であろうと見られている。ただし、中等教育以上になると男子の比率がまだ高い。また政治や農業部門以外における職業での女性比率はまだ低い。15歳以上の女性における非識字の人に占める割合は2001年の49.7%から2005年の40.7%へと減少してきてはいるものの、まだこの層の識字率改善は課題として残っている²⁶。

²⁴ Rapport national de suivi des OMD 2007 Vision 2015 Madagascar, p.40

²⁵ Gouvernement de Madagascar (2006), Plan d'action Madagascar 2007-2012 *Un Plan Audacieux pour le Développement Rapide*, p.53, 59

²⁶ République de Madagascar (2010), Rapport national de suivi (+10) Des OMD 3« Promouvoir l'égalité des sexes et l'autonomisation des femmes » et OMD 5« Améliorer la santé maternelle », p.13

図表 23 MDG3 の達成状況 (1999-2008 年)

Tableau 1.2. Degré de réalisation de l'OMD 3

Cible	Situation de réalisation				Degré d'atteinte de l'objectif en 2015
	Indicateur	1999	2004	2008	
Objectif 3 : Promouvoir l'égalité des sexes et l'autonomisation des femmes					Probablement
Cible 3.A - Eliminer les disparités entre les sexes dans les enseignements primaire et secondaire d'ici à 2005, si possible, et à tous les niveaux de l'enseignement en 2015 au plus tard	Taux brut de scolarisation des filles dans l'enseignement primaire	106.7%	116.9%	128.8%	
	Indice de parité entre les sexes dans l'enseignement primaire	0.96	0.95	0.97	1
	Proportion des filles dans le primaire	49%	49.3%	49.2%	50%
	Proportion des filles dans l'enseignement secondaire	49.5%	49.7%	48.9%	50%
	Proportion des filles dans l'enseignement supérieur	45.8%	47.2%	47.2%	50%
	Taux d'alphabétisation des femmes de 15 ans et plus	50.3% (2001)	55.5%	59.3% (2005)	
	Proportion des femmes salariées dans le secteur non-agricole		10.7%	10.9% (2005)	
	Proportion des femmes députées	5.6%	6.3%	9.4%	
	Proportion des femmes sénatrices		15.6%	15.2%	
	Proportion des femmes parlementaires	5.6%	9.6%	10.6%	

(出所) République de Madagascar(2010), Rapport national de suivi (+10) Des OMD 3« Promouvoir l'égalité des sexes et l'autonomisation des femmes » et OMD 5« Améliorer la santé maternelle », p.13
http://planipolis.iiep.unesco.org/upload/Madagascar/Madagascar_Rapport_OMD_2007.pdf (2012/11/15
 アクセス)

・ **MDG 4 : 乳幼児死亡率の削減**

1997-2004 年にかけて出生 1,000 あたりの乳幼児死亡率は 93 から 58 へと大きく改善された。政府はビタミンや麻疹のワクチン接種を呼びかけるキャンペーンを展開し、乳幼児の死亡率削減に取り組んできたが、2015 年までの目標達成は難しいとみられる²⁷。

・ **MDG 5 : 妊産婦の健康の改善**

妊産婦死亡率の削減はマダガスカルにおける重要課題のひとつである。出産 100,000 あたりの妊産婦死亡率は 1997 年の 488 から 2008 年には 498 へと増加し、2010 年も 100,000 出産あたりの死亡率は 498 であり、2015 年までの目標達成は不可能であると見られる。特に外部との行き来が難しい農村部における出生前検診などの適切な医療制度の整備をはじめとして解決すべき課題は多い²⁸。

http://planipolis.iiep.unesco.org/upload/Madagascar/Madagascar_Rapport_OMD_2007.pdf (2012/11/15
 アクセス)

²⁷ Gouvernement de Madagascar (2006), Plan d'action Madagascar 2007-2012 Un Plan Audacieux pour le Développement Rapide, p.55-56
<http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCAR/FRENCH/Resources/MAFFrench.pdf>
 (2012/11/01 アクセス)

²⁸ République de Madagascar (2010), Rapport national de suivi (+10) Des OMD 3« Promouvoir l'égalité

図表 24 MDG5 の達成状況 (1999-2008 年)

Tableau 2.3. Degré de réalisation de l'OMD 5

Cible	Situation de réalisation				Degré d'atteinte de l'objectif en 2015
	Indicateur	1997	2004	2008	
Objectif 5 : Améliorer la santé maternelle					Inraisemblablement
Cible 5.A : Réduire de trois quarts, entre 1990 et 2015, le taux de mortalité maternelle	Ratio de mortalité maternelle pour 100 000 naissances vivantes	488	469	498	165
	Proportion d'accouchements assistés par du personnel de santé qualifié	47.3%	51.3%	43.9%	
Cible 5.A : Atteindre d'ici 2015, l'accès universel à la santé procréative	Taux de prévalence contraceptive	19%	27%	40%	
	Taux d'utilisation des méthodes contraceptives modernes	10%	18%	29%	
	Taux de natalité parmi les adolescents 15 à 19 ans pour 1 000 femmes	180	150	148	
	Pourcentage de femmes ayant reçu des soins prénataux au moins une fois	81.9%	80.6%	90%	
	Pourcentage de femmes ayant reçu des soins prénataux quatre fois et plus pendant leur grossesse	39.7%	39.9%	49.3%	
	Besoins non satisfaits en matière de planification familiale	25.6%	23.6%	18.9%	

(出所) République de Madagascar(2010), Rapport national de suivi (+10) Des OMD 3« Promouvoir l'égalité des sexes et l'autonomisation des femmes » et OMD 5« Améliorer la santé maternelle », p.29
http://planipolis.iiep.unesco.org/upload/Madagascar/Madagascar_Rapport_OMD_2007.pdf (2012/11/15 アクセス)

・ MDG 6 : HIV/ エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延防止

国連エイズ合同計画 (UNAIDS) によると、マダガスカル の 2009 年の成人 HIV 陽性率は 0.2~0.3%と推定されており、サブ・サハラ・アフリカ諸国のなかでは低い HIV 陽性率を維持している。しかし、HIV と同じ感染経路にある性感染症の一つである梅毒の感染率が高いことや、検査サービスが脆弱なことから今後の HIV 感染拡大が懸念されている。

マラリア患者は 2005 年時点で全国に約 120 万人と推計されており、このうち病院などで治療を受けている人の死亡率は 17.5%となっている²⁹。マラリアに感染するリスクが高い地域は、気候条件や生い茂った森林が存在する島の東部や西部である。人口に占めるマラリアの感染者は 1999 年の 19%から 2006 年には 15%まで徐々に減少してきている³⁰。

一方、2002 年から 2006 年にかけて結核の患者数は増加し続けており、住民や保健当局

des sexes et l'autonomisation des femmes » et OMD 5« Améliorer la santé maternelle », p.9
http://planipolis.iiep.unesco.org/upload/Madagascar/Madagascar_Rapport_OMD_2007.pdf (2012/11/15 アクセス)

²⁹ Gouvernement de Madagascar (2006), Plan d'action Madagascar 2007-2012 *Un Plan Audacieux pour le Développement Rapide*, p.74-75
<http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/MAPFrench.pdf>
 (2012/11/01 アクセス)

³⁰ République de Madagascar (2006), Rapport national de suivi des OMD 2007, p.73
http://planipolis.iiep.unesco.org/upload/Madagascar/Madagascar_Rapport_OMD_2007.pdf (2012/11/15 アクセス)

の認識不足による結核の蔓延防止が課題である。結核の蔓延の背景には、貧しい住民の雑居や衛生観念の欠如、医療費が大きな負担となることによる治療放棄などがあると考えられている³¹。

・ MDG 7 : 環境の持続可能性の確保³²

2005年の時点で、飲料水を継続的に利用できる人は、全人口の35%であり、多くの国民が、遠方の河川や井戸へ水汲みに行かなければならない状況である。これらの水源は衛生上問題が多く、下痢などの病気を引き起こす原因ともなっている。MAP (2006)によると、不衛生な水が原因で下痢にかかる子どもは2人に1人であり、幼児の死亡原因の第2位となっているなど、清潔な飲料水へのアクセス率向上にはまだ改善が求められる。

マダガスカルは貴重な固有種の動植物が数多く生息する自然の豊かな国であるが、近年は開発に伴う無計画あるいは不法な森林伐採による環境破壊が進んでいる。これに加えて、国民の多くが燃料源として森林資源を使用していることや、森林火災、開墾によって森林面積が減少している。

・ MDG 8 : 開発のためのグローバル・パートナーシップの推進³³

20年来、南部アフリカ開発共同体 (Southern African Development Community : SADC) などの様々な国際機関に加盟して貿易による経済向上を図ってきたが、2001-2005年の貿易収支は約15億米ドルの赤字となっている。しかし、積極的に海外との経済活動のネットワークに参加することは、将来的に財政赤字削減やICTの発展、人間開発などに寄与することになるとしている。

3. 食糧安全保障、脆弱性分析³⁴

マダガスカルでは国民の20%が、成人が1日に摂取すべきとされている2,133kcalのエネルギーを満たすことが出来ておらず、栄養衰微とされる世界20カ国の一つに数えられている。同国における主食は米、野菜、イモ類であり、植物性・動物性たんぱく質の摂取量

³¹ République de Madagascar (2006), Rapport national de suivi des OMD 2007, p.74
http://planipolis.iiep.unesco.org/upload/Madagascar/Madagascar_Rapport_ODM_2007.pdf (2012/11/15 アクセス)

³² Gouvernement de Madagascar (2006), Plan d'action Madagascar 2007-2012 *Un Plan Audacieux pour le Développement Rapide*, p.49, 81,100
<http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/MAPFrench.pdf>
(2012/11/01 アクセス)

³³ Gouvernement de Madagascar (2006), Plan d'action Madagascar 2007-2012 *Un Plan Audacieux pour le Développement Rapide*, p.14,96

³⁴ WFP (2011) Analyse Globale de la Sécurité Alimentaire et Nutritionnelle, et de la Vulnérabilité (CFSVA+N) *Rapport Données collectées en août/septembre 2010*, p. 8,16, 19, 21, 38-39,
http://www.wfp.org/sites/default/files/Rapport%20Principal_Mada%20CFSVA%20+N%202010_Fran%3%A7ais.pdf (2012/11/14 アクセス)

は非常に少ない。WFPによると、わずか17%の世帯が健康で活動的な生活を送るのに十分な食事が出来ており、特に南部、南西部には栄養摂取が十分ではない世帯が多い。東部沿岸のサイクロン被害を受けやすい地域では、食糧安全保障が脅かされている世帯は343,291世帯に上る。次いで南部地域が246,046世帯、西部地域が194,233世帯となっている。

農村部では、世帯あたりの総支出額の66%を食糧の購入に充てており、その内32%は米の購入費である。それでも53%の世帯は健康的な生活を送るために十分な栄養を摂取出来ておらず、このうち12%の世帯はキャッサバなどのイモ類のみを消費しており、タンパク質の摂取が不足している。南部では70%の世帯が日々の食事量や食事回数を減らすなどの方法により食糧不足へ対処しているが、このような方法により栄養状態を更に悪化させている。

食糧不安に陥りやすい世帯としては、平均5.4人で構成される多人数世帯、女性世帯主、高齢者世帯主、季節労働者世帯などである。食糧不安とされる世帯の28%、脆弱世帯の19%を女性世帯主の家庭が占めている。また、穀類の栽培量が少ない世帯は食糧安全保障が脅かされやすい。2009-2010年期の1世帯あたりの年間収穫量を比較すると、食糧安全保障水準を満たす世帯は、平均1,235kgの穀類を生産しているが、安全保障レベル以下の世帯は平均498kgと、2.5倍の格差が出ている。また、灌漑の維持管理が適切になされず、農作物の生産効率が下がっていることや、南部における旱魃なども食糧安全保障に悪影響を与えている。

栄養不良、体重不足、発育不良の5歳未満児も多く見られ、母親の学歴が低いほど子どもの状態は悪い。急性栄養失調に陥りやすいのは農村部の5歳未満児が最も多く、2010年のCFSVAによると約176,000人存在している。また特に南部地域は農作物の収穫の不安定さに起因すると見られる急性栄養失調にかかる子どもが多い。

地図 5 地域別 食糧摂取状況 (2010 年)

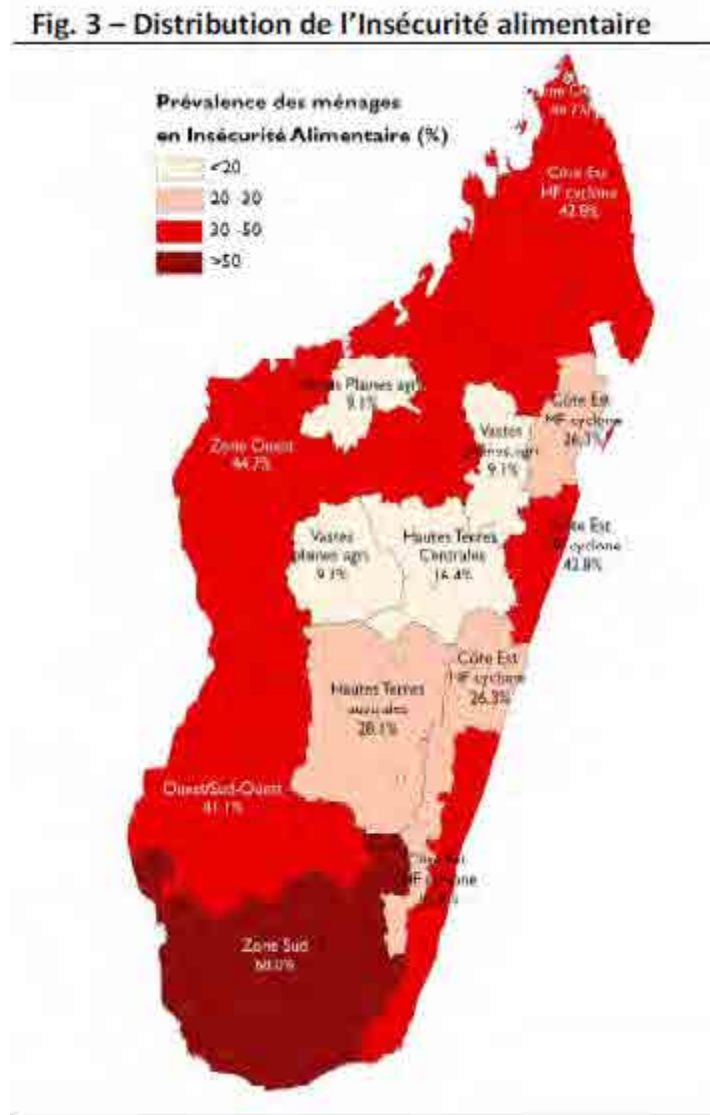
Fig. 2 – Consommation alimentaire faible (% ménages)



(出所) WFP(2011) Analyse Globale de la Sécurité Alimentaire et Nutritionnelle, et de la Vulnérabilité (CFSVA+N) Rapport Données collectées en août/septembre 2010, p.16

http://www.wfp.org/sites/default/files/Rapport%20Principal_Mada%20CFSVA%20+N%202010_Fran%3%A7ais.pdf (2012/11/14 アクセス)

地図 6 地域別 食糧不安に置かれている世帯（2010年）

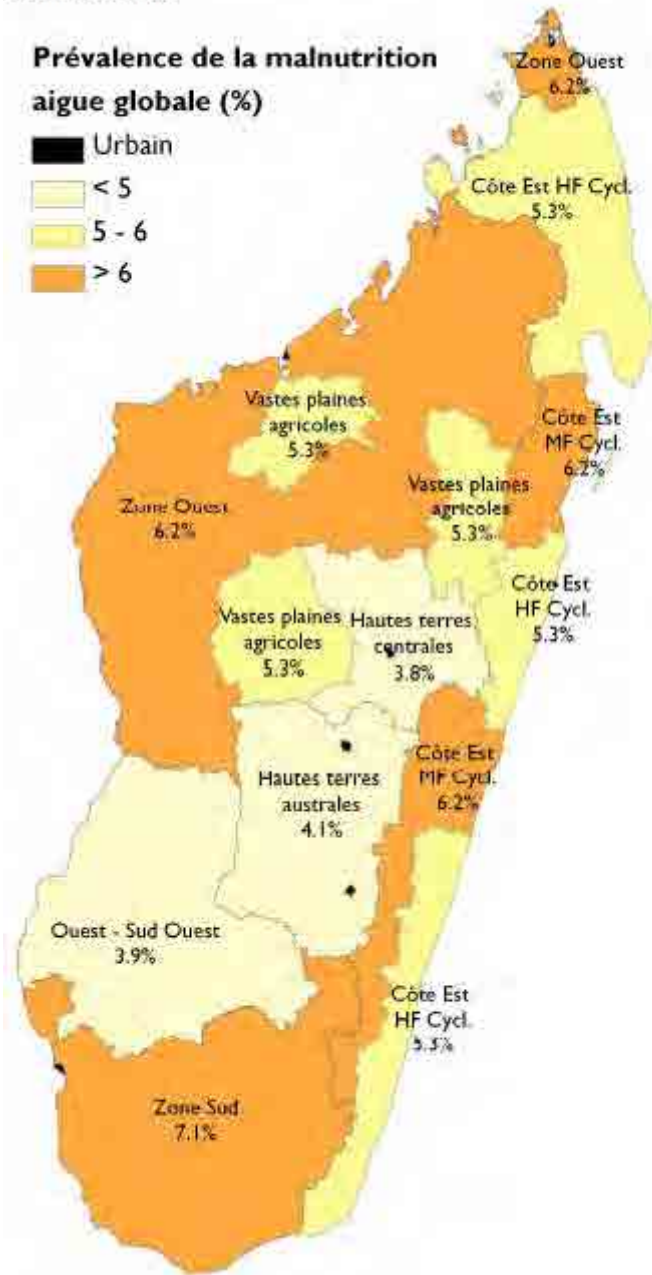


(出所) WFP(2011) Analyse Globale de la Sécurité Alimentaire et Nutritionnelle, et de la Vulnérabilité (CFSVA+N) Rapport Données collectées en août/septembre 2010, p.19

http://www.wfp.org/sites/default/files/Rapport%20Principal_Mada%20CFSVA%20+N%202010_Fran%C3%A7ais.pdf (2012/11/14 アクセス)

地図 7 地域別 急性栄養失調の広がり (2010 年)

Fig. 12 - Distribution de l'émaciation par zone de subsistance



(出所) WFP(2011) Analyse Globale de la Sécurité Alimentaire et Nutritionnelle, et de la Vulnérabilité (CFSVA+N) Rapport Données collectées en août/septembre 2010, p.38

http://www.wfp.org/sites/default/files/Rapport%20Principal_Mada%20CFSVA%20+N%202010_Fran%3%A7ais.pdf (2012/11/14 アクセス)

V. 社会的属性、特性と貧困関連分析

1. 地域別³⁵

マダガスカルでは人口の約 80%が農村部で生活している。2010 年の全国平均の貧困率は 76.5%であるが、農村部と都市部の間には格差が存在し、農村部の方が都市部よりも貧困の状況がより深刻である。貧困率が最も低いのはディアナ（Diana）県とアナラマンガ（Analamanga）県で 54.5%であるのに対し、最も高いアッチモ-アツィナナナ（Atsimo Atsinanana）県、ヴァトヴァヴィーフィトヴィナニー（Vatovavy Fitovinany）県では 90%以上となっている。また、15 県が貧困率 80%以上となっている。2005 年に比べると 2010 年の貧困率は全体で 7.8%上昇しており、地域別では都市部で 2.2%、農村部で 8.7%の上昇となっている。

貧困ギャップ率は全国平均の 35%に対し、農村部では 38%、都市部では 21%となっており、貧困率と同様に農村部の方がより高い傾向がみられる。

全国で約 1,100 万人存在すると推定されている最貧困層の約 90%が農村部で生活しており、この地域における最貧困率は 62.1%であるのに対し、都市部は 34.6%と、地域間で大きな差がみられる。一般に、マダガスカル南部、特に南西部は貧困地域であり、フィアナランツォア（Fianarantsoa）、トリアラ（Toliara）などは最貧困層に陥る危険性が高いとされている。住民に占める最貧困層の割合はアンドロイ（Androy）県で 61%、アッチモ-アツィナナナ（Atsimo Atsinanana）県で 51%となっている³⁶。

MDGs では、飲料水へのアクセス、清潔なトイレの有無、建材の耐久性などを住環境の指標としているが、この視点で比較した場合も地域間で大きな差が見られる。基準に沿う住環境で暮らす人が多い地域はディアナ（Diana）県で、不適切な住環境で暮らす人が最も多い地域はアッチモ-アツィナナナ（Atsimo Atsinanana）県となっている。

³⁵ INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p. 223-231, 56
http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

³⁶ WB (2012) , Madagascar Après Trois Ans de Crise : Volume I, p.19,
http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/ESW-Protection_sociale_vol1.pdf
http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/ESW-Protection_sociale_vol1.pdf (2012/11/02 アクセス)

図表 25 地域別 貧困・最貧困率（2010年）

Tableau 182 : Pauvreté et pauvreté extrême, selon le milieu de résidence

Milieu	Extreme pauvreté	Pauvreté
Urbain	34,6	54,2
Rural	62,1	82,2
Ensemble	56,5	76,5

Source: INSTAT/DSM/EPM 2010

(出所) INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.230

http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

図表 26 地域別 貧困率の推移（1993-2010）（再掲）

Tableau 174 : Evolution des ratios de pauvreté de 1993 à 2010

Milieu	Année	1993	1997	1999	2001	2002	2004	2005	2010	Variation 2010/2005
Urbain		50,1	63,2	52,1	44,1	61,6	53,7	52,0	54,2	2,2
Rural		74,5	76,0	76,7	77,1	86,4	77,3	73,5	82,2	8,7
Ensemble		70,0	73,3	71,3	69,6	80,7	72,1	68,7	76,5	7,8

Source: INSTAT/DSM/EPM 1993 à 2010

(出所) INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.230

http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

図表 27 地域別 貧困ギャップ率の推移（1993-2010）（再掲）

Tableau 175 : Evolution des intensités de pauvreté de 1993 à 2010

Milieu	Année	1993	1997	1999	2001	2002	2004	2005	2010	Variation 2010/2005
Urbain		17,5	29,6	21,4	18,3	29,3	20,2	19,3	21,3	2,0
Rural		33,2	34,7	36,1	39,7	53,0	34,8	28,9	38,3	9,4
Ensemble		30,3	33,6	32,8	34,8	47,6	31,6	26,8	34,9	8,1

Source: INSTAT/DSM/EPM 1993 à 2010

(出所) INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.230

http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

図表 28 地域別 基準を満たさない住環境で暮らす世帯の割合 (2010 年)

Tableau 176 : Ratio de pauvreté, selon le type de logement

Région	Ménages vivant dans un taudis		Ensemble
	Non	Oui	
Analamanga	26,0	67,6	54,5
Vakinankaratra	45,1	82,7	75,8
Itasy	42,3	82,5	79,9
Bongolava	31,7	80,2	76,8
Matsiatra Ambony	33,9	87,8	84,7
Amoron'i Mania	48,7	87,6	85,2
Vatovavy Fitovinany	51,0	90,2	90,0
Ihorombe	28,6	84,8	80,7
Atsimo Atsinanana	0,0	94,8	94,5
Atsinanana	15,4	82,5	82,1
Analanjirofo	0,0	83,8	83,5
Alaotra Mangoro	31,0	76,9	68,2
Boeny	0,0	65,6	62,6
Sofia	13,6	72,5	71,5
Betsiboka	24,6	84,3	82,2
Melaky	13,6	81,5	80,2
Atsimo Andrefana	6,3	85,2	82,1
Androy	100,0	94,3	94,4
Anosy	8,2	84,2	83,5
Menabe	3,0	66,9	64,2
DIANA	13,0	56,2	54,4
SAVA	0,0	76,1	74,9
Ensemble	29,5	80,7	76,5

Source: INSTAT/DSM/EPM 2010

(出所) INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.231

http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

2. 性別³⁷

マダガスカルの全世帯の約 5 分の 1 は女性が世帯主である。総体的には、世帯主の性別で貧困率を比較しても大きな差は見られないものの、世帯規模により差が見られる。6 人以下の世帯に限れば、世帯主が男性の場合は女性世帯に比べて貧困率が低い傾向がある。女性世帯主家庭が全体に占める割合は都市部の方が高く、農村部の 18.5% に対し、22.6% となっている。都市部における貧困や最貧困に対する脆弱性は女性世帯主の方が高く、貧困

³⁷ INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p. 16, 34, 235, 238
http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

層や最貧困層に陥る危険性はそれぞれ 14%、7%の割合で男性世帯主の家庭に比べて危険性が高くなっている。農村部においても女性世帯主の方が貧困に陥りやすい傾向に変わりはなく、それぞれ 8%、11%となっている。

2005 年に比べて性差による給与格差は大きく改善されたものの、依然として女性の平均給与は男性の 84%の水準にとどまっている。この傾向は教育水準や職業によって変わることはない。性差による失業率には格差が見られ、男性の失業率が 2.9%であるのに対し、女性は 4.8%と高くなっている。

また地域や民族的伝統等に起因する女性差別も存在している。南部では女性は伝統的に土地の所有権や相続権を認められていない。マジュンガ (Mahajanga) では結納金による収入を増加させるために、女性を次々と異なるパートナーと結婚させる *moletry* という風習も残っている。一般に女性は早婚・若年での出産という傾向が見られ、学業放棄につながったり、健康を害する危険性が増している。また、5 歳未満児が病気にかかった場合は男児のほうがより手厚く治療を受けるなど、性差による扱いの差が見られる。

図表 29 地域別 女性世帯主の割合 (2010 年)

Tableau 15: Caractéristiques des ménages gérés par des femmes selon le milieu de résidence

	Urbain	Rural	Ensemble
Proportion de ménages dirigés par des femmes (%)	22,6	18,5	19,4
Proportion de la population vivant dans un ménage dirigé par une femme (%)	18,3	14,1	15,0
Nombre moyen d'individus par ménage			
○ Ménages dirigés par des hommes	4,7	5,2	5,1
○ Ménages dirigés par des femmes	3,6	3,8	3,7
Age moyen du chef de ménage, années			
○ Homme	41,5	41,0	41,1
○ Femme	46,0	45,7	45,7
○ Ensemble	42,5	41,9	42,0

Source : INSTAT/DSM/EPM2010

(出所) INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.44

http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

図表 30 地域別 男女別 平均給与額 (2010 年)

Tableau A 58 : Revenus salariaux moyens nominaux, selon le genre, et selon le milieu

	Unité: en millier d'Ar.	
	Masculin	Féminin
Urbain	1 804	1 413
Rural	1 205	1 077

Source: INSTAT/DSM/EPM 2010

(出所) INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.313

http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

3. 学歴別³⁸

世帯主の教育レベルは貧困率や最貧困層に陥る危険性と深く関連している。最貧困層のうち、学校教育を受けていない世帯主が占める割合は 73.4%であるが、この比率は学歴が上がるにつれて低下し、高等教育修了以上の世帯主では 10.7%となっている。また、生活レベルの指標の一つともなる消費状況を世帯主の学歴別で比較すると、初等教育のみを受けた世帯と大学卒業レベルの世帯では 4 倍もの開きが出ている。1 人あたりの年間消費額を 5 分類した指標を用いた比較では、最貧困層の 55%が教育を受けていないのに対し、最も裕福な層では 19%となっている。なお、都市部においては、世帯主の教育レベルの差による格差は農村部よりも顕著である。世帯主が初等教育レベルを修了した場合は、そうでない世帯主の家庭と比べると、貧困や最貧困に陥る可能性はそれぞれ 15%、10%低下する。中等教育から大学レベルの学歴を有する世帯主の家庭ではさらにリスクは低下し、22%、38%の差が生じている。

15 歳以上の識字率にも世帯の貧富に応じて格差が見られる。全国平均は 71.4%で、富裕層ほど識字率は上がり、最も裕福な世帯では 88%であるのに対し、最貧困層では 49%にとどまる。地域間格差も顕著であり、アナラマンガ (Analamanga) 県の識字率は 93.6%であるが、アノシー (Anosy) 県は 35.1%にとどまる。

図表 31 世帯主の学歴別にみた最貧困・貧困率 (2010 年)

Tableau 183 : Pauvreté et pauvreté extrême, selon le niveau d'instruction du chef de ménage

Niveau d'instruction du CM	Unité: %	
	Extrême pauvreté	Pauvreté
Sans instruction	73,4	89,1
Primaire	53,9	77,3
Secondaire	38,8	59,2
Supérieur	10,7	21,3
Total	56,5	76,5

Source: INSTAT/DSM/EPM 2010

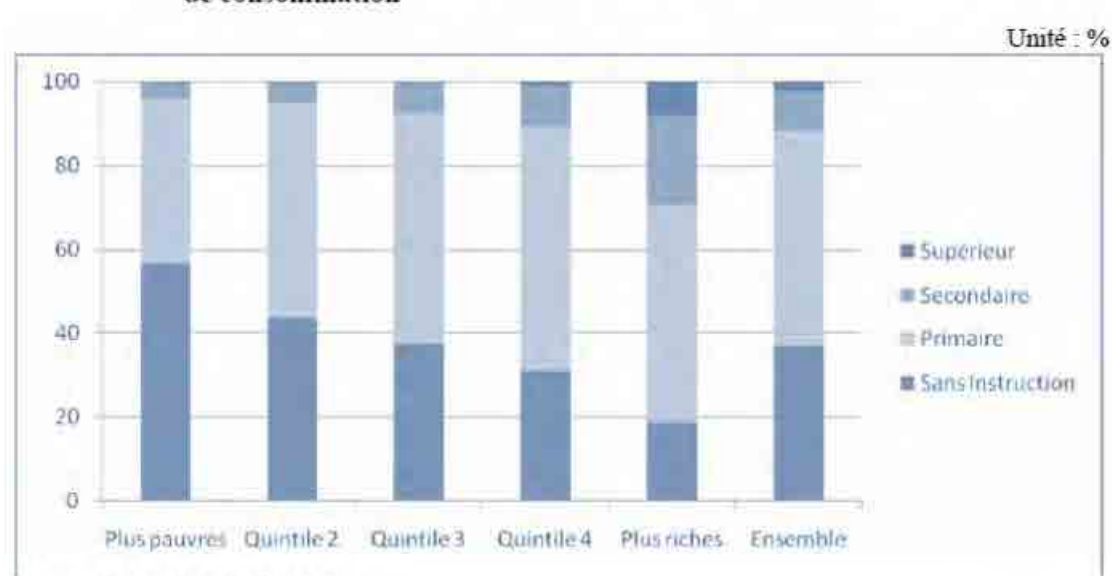
(出所) INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.235

http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

³⁸ INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.13, 235, 237,153-155
http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

図表 32 教育レベルと消費額指標による貧富格差の関係 (2010年)

Graphique 14 : Répartition de la population selon le niveau d'instruction, par quintile de consommation



Source : INSTAT/DSM/EPM 2010

(出所) INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.158

http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

図表 33 学歴・性別による年間収入格差 (2010年)

Tableau 33 : Revenus salariaux annuels moyens selon le genre, et selon le niveau d'instruction

Niveau d'instruction	Unité: en millier d'Ar.		
	Masculin	Féminin	Ensemble
Sans instruction	659	552	616
Primaire	901	681	830
Secondaire	1 680	1 451	1 601
Supérieur	3 078	2 462	2 839
Ensemble	1 471	1 235	1 388

Source : INSTAT/DSM/EPM 2010

(出所) INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.63

http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

図表 34 地域別 性別 15歳以上の識字率 (2010年)

Tableau 111 : Taux d'alphabétisation des individus âgés de 15 ans et plus, par région, selon le milieu, et selon le genre

Unité : %

Région	Milieu		Genre		Ensemble
	Urban	Rural	Hommes	Femmes	
Analamanga	93,8	93,5	94,3	93,0	93,6
Vakinankaratra	85,8	80,1	84,3	78,5	81,5
Itasy	89,7	83,2	85,1	82,5	83,9
Bongolava	86,9	82,3	86,0	79,7	82,9
Matsiatra Ambony	87,8	72,2	77,2	73,7	75,5
Amoron'i Mania	92,2	79,3	83,0	79,3	81,0
Vatovavy Fitovinany	83,9	66,5	76,0	61,5	68,5
Ihorombe	76,2	63,3	71,1	60,2	65,7
Atsimo Atsinanana	76,7	38,3	49,6	36,0	42,5
Atsinanana	85,6	71,5	79,1	71,7	75,2
Analanjirifo	83,9	57,0	65,6	60,3	62,9
Alaotra Mangoro	87,2	79,5	81,3	80,2	80,8
Boeny	85,8	64,8	75,7	67,2	71,4
Sofia	84,4	61,9	70,5	59,3	64,5
Betsiboka	81,5	67,6	75,4	63,6	69,5
Melaky	62,1	44,5	52,3	45,0	48,7
Atsimo Andrefana	61,4	46,6	51,9	49,0	50,4
Androy	41,4	38,5	42,8	35,5	39,0
Anosy	80,4	27,4	42,5	28,1	35,1
Menabe	76,2	57,9	66,8	57,8	62,3
DIANA	82,9	67,2	77,6	69,3	73,2
SAVA	85,3	76,4	81,5	73,4	77,4
Ensemble	83,7	67,8	74,9	68,0	71,4

Source : INSTAT/DSM/EPM 2010

(出所) INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.154

http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

4. 年齢階層別³⁹

マダガスカルで法的に就労可能年齢とされる 15 歳から 64 歳の年齢層の就労率は 90%に達している。失業率は年齢階層により大きく異なり、最も高いのは 25 歳以下の若年層 (5.9%) と 65 歳以上の高齢者層 (6.6%) である。失業の影響を大きく受けているのは 15-24 歳の都市部に暮らす若年者で、この年齢層の失業率は 14%以上に達する。

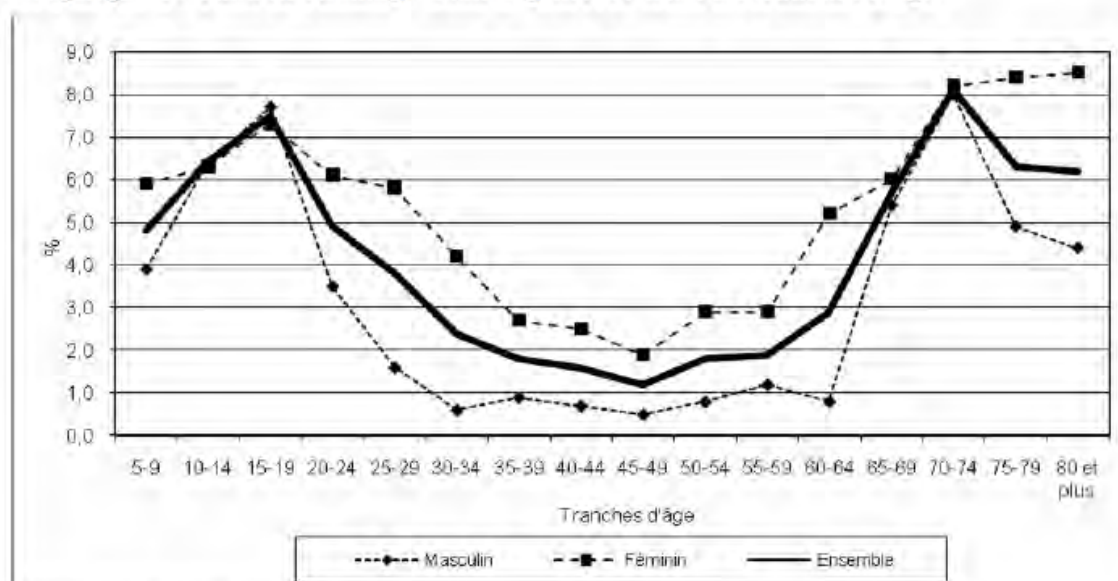
66 歳以上の家族を擁する世帯は際貧困層に陥りにくいという報告も見られる。これは、裕福な世帯でなければこの年齢まで生存することが難しいということでもある。

³⁹ INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.56,20

http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

図表 35 性別・年齢別の失業率（2010年）

Graphique 4 : Taux de chômage selon le genre, et selon les tranches d'âge



Source: INSTAT/DSM/EPM 2010

(出所) INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.57

http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

5. 就職状況・職業別⁴⁰

全世帯の81%が携わる農業がマダガスカルにおける主要産業であるが、この分野での就労者が世帯主である場合の貧困率が最も高い。2010年現在、農村部の89%の世帯が農業を主要な生計手段としており、この傾向は2005年から大きく変化していない。都市部においても住民の54%以上が従事する第一次産業が主要産業となっている。これらの農業従事者のほとんどが自家消費用の農作物栽培を行っている。これは、生産活動用の道具や肥料、生産物売買のためのインフラ不足、環境破壊、自然災害、融資が受けにくいなどの様々な理由により技術レベルや生産性が上がらないことに起因している。また、世帯主の職業別に比較しても、貧困層が多い農業従事者の識字率は64%であるのに対し、管理職では90%以上と、格差が存在している。

農業以外で女性が多く就労するのは繊維、サービス業などで、男性では公共工事や行政職などとなっている。2010年までの5年間で年間平均給与は6.9%上昇し、失業率は同期間で1%の増加にとどまり3.8%前後で推移するなど、統計上は労働市場が活性化しているように見える。しかし年間10%の昇給がある公務員以外は、2008年の経済危機以来、失業

⁴⁰ INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.5-6,62,20,153-155
http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

者が続出しているのが現状である。特に都市部における失業率は、農村部の 3%の倍以上、7.6%に達している。職業別の収入格差は顕著で、農業従事者の収入は低く、2010 年の調査による年間平均収入が約 614,000MGA であるのに対し、繊維業では 1,070,000MGA、最も高水準な行政職員は 2,360,000MGA となっている。公務員や商業分野での就職機会の有無、給与の格差は学歴の差によるところが大きい。世帯主が中間・下級管理職クラスの場合は、貧困率が最も低く 23.8%であるが、漁業従事者の世帯では 86.7%と大きな差が出ている。なお、統計には表れない形で就労している者の問題も考慮する必要があり、週 35 時間未満の不十分な時間しか就労できない、法定の最低時間給を下回る給与で働かざるを得ないなど、労働条件に恵まれないことや、社会保障サービス体系に組み込まれていないことにより、平均収入を下回る状況に置かれている者が多い。

図表 36 世帯主の職業別貧困率（2010 年）

Tableau 177 : Ratio de pauvreté, selon le Groupe Socio-Economique du CM

GSE du chef de ménage	Ratio de pauvreté	Unité: %
Cadre supérieur	35,8	
Cadre moyen ou agent de maîtrise	23,8	
Ouvrier ou salarié qualifié	39,4	
Ouvrier ou salarié non qualifié	66,1	
Mancœuvre	75,8	
Stagiaire rémunéré	73,1	
Indépendant	60,0	
Chômeur	65,1	
Inactif	60,9	
Petit exploitant agricole	87,4	
Moyen exploitant agricole	80,5	
Grand exploitant agricole	68,6	
Pêcheur	86,7	
Autres	75,9	
Ensemble	76,5	

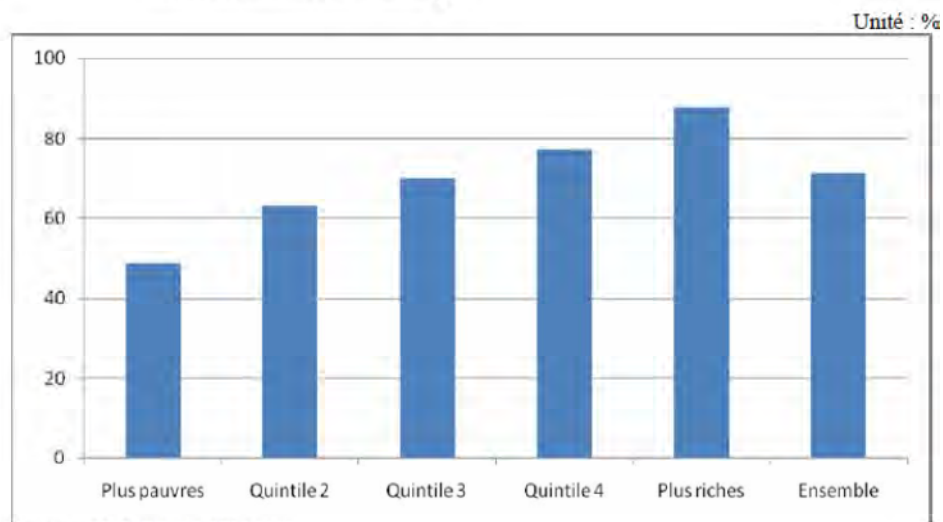
Source: INSTAT/DSM/EPM 2010

(出所) INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.232

http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

図表 37 貧富階層別 識字率 (2010 年)

Graphique 12 : Taux d'alphabétisation des individus de 15 ans et plus, selon le quintile de consommation du ménage



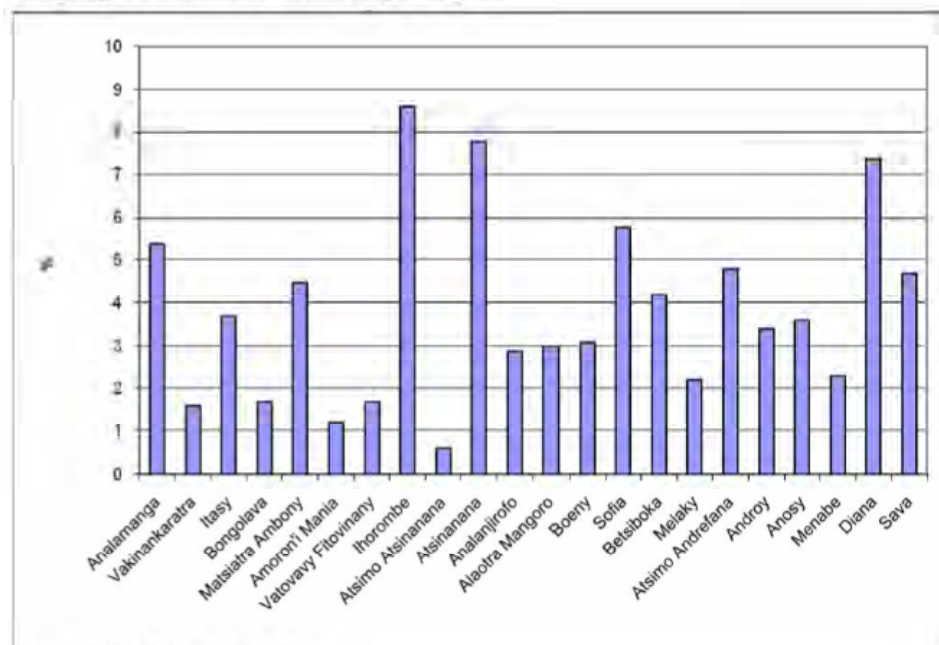
Source : INSTAT/DSM/EPM 2010

(出所) INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.155

http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

図表 38 地域別 失業率 (2010 年)

Graphique 3 : Taux de chômage par région



Source : INSTAT/DSM/EPM 2010

(出所) INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.89

http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

図表 39 就労分野別 年間平均給与額 (2010 年)

Tableau 32 : Revenus salariaux annuels moyen selon la CSP, et selon la branche d'activités

Unité: en millier d'Ar

Branche d'activité	Cadre supérieur ou moyen	Ouvrier ou salarié qualifié	Ouvrier non qualifié	Ensemble
Agriculture/primaire	1 363	1 233	514	674
Industrie alimentaire	1 983	1 982	1 273	1 676
Textile	1 391	1 208	887	1 069
BTP/HIMO	3 515	1 828	839	1 314
Autres industries	2 583	1 934	698	1 205
Commerce	3 089	1 680	785	1 284
Transport	5 176	1 834	863	1 427
Santé privée	3 339	1 177	616	1 269
Enseignement privé	2 067	1 420	449	1 497
Administrations publiques	3 023	2 093	739	2 360
Autres services privés	3 380	1 871	463	836
Ensemble	2 870	1 789	630	1 388

Source: INSTAT/DSM/EPM 2010

(出所) INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.63

http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

VI. 貧困に影響を与えている国内外の要因

1. 政治的要因

貧困に影響を与える様々な要因のうち、WB が重視するのは内政の不安定さである。1975-1991 年のラチラカ政権時に GDP が低下して以来、マダガスカルは今日までに 3 度の大きな政治危機を経験している。これが経済活動にも悪影響を及ぼし、過去 20 年で GDP、貧困率ともに悪化しており、世界で最も貧困率の高い国の一つとなっている⁴¹。WB の *Doing Business 2013* によると、マダガスカルは世界 183 か国中 137 位であり、同国における事業を展開する際の阻害要因として、不安定な政府、クーデター、政治不安、汚職、資金調達、犯罪や窃盗などが挙げられている⁴²。

マダガスカルの PRSP である MAP は 2009 年の政変とともに実施が中断しているものも多く、その目標実現の可能性は不透明である。またこの時以来、各国ドナーからの援助も多くが中断されたため、財源や社会保障費が不足する等の影響が出ている。憲法を遵守せずに政権交代したとして、2010 年 1 月には、アフリカ・サブサハラ地域における貧困削減等を目標とするアメリカの経済的優遇制度であるアフリカ成長機会法（*African Growth and Opportunity Act : AGOA*）からマダガスカルは外されている。これにより、農業以外での主要産業である手工業や繊維産業は多くの生産拠点が閉鎖に追い込まれ、3 万人以上の従業員が解雇される等の影響が出ている⁴³。

政変を受けて各国 NGO 等による援助活動も難しくなっており、人々は家族内での相互扶助やさらに多くの仕事をするといったことを生活防衛の主な自衛手段としている。しかし国民の大多数が貧困層という状態では、このような策は状況の改善に大きく寄与するものではない。多くの人がすでに栄養不足であるところへ、さらに食事を切り詰めることはストレスを増大させる。また家畜などの財産や土地を売却せざるを得ない人も出てきており、生産の糧をこのように失うことは、将来的に貧困からの脱却を一層困難にするものと言える。

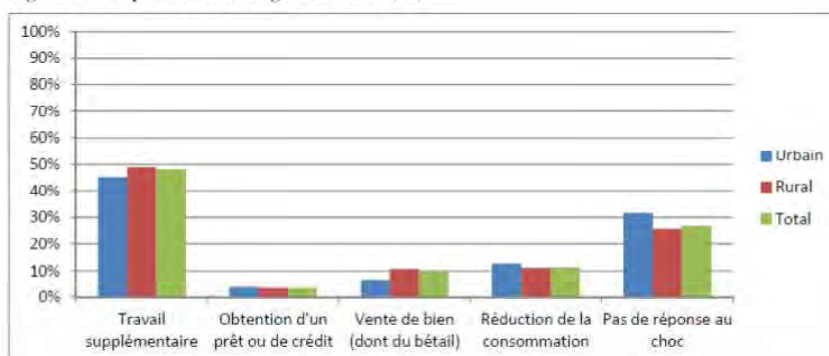
⁴¹ WB (2012) , Madagascar Après Trois Ans de Crise : Volume I, p.i-iii,
http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/ESW-Protection_sociale_vol1.pdf
http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/ESW-Protection_sociale_vol1.pdf (2012/11/02 アクセス)

⁴² WB サイト、<http://www.banquemondiale.org/fr/country/madagascar/overview> (2012/12/26 アクセス)

⁴³ WB サイト、<http://www.banquemondiale.org/fr/country/madagascar/overview> (2012/12/26 アクセス)

図表 40 危機への対処方法（2010年）

Figure 2.2 : Réponses des Ménages aux Chocs (%)



Source : EPM 2010, INSTAT.

(出所) Madagascar Après Trois Ans de Crise : Volume I, p.6

http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/ESW-Protection_sociale_vol1.pdf (2012/11/02 アクセス)

2. 自然・環境・気候的要因⁴⁴

マダガスカルは数多くの固有の動植物を有するなど自然環境に恵まれる一方で、災害にも見舞われやすい島国である。サイクロンや洪水、早魃、バッタの大量発生、家畜の伝染病などといった自然災害が過去 35 年間で 50 回も発生している。国民の約 4 分の 1 が気候の影響を受けやすい地域に集中しており、12 月から 4 月にかけてインド洋で発生するサイクロン被害を受ける東部沿岸地域には国民の 3 分の 1 が暮らしている。主に洪水の被害を受けるのは貧困層が多い南東部および西部地域である。繰り返し起こるこれらの災害は、道路・学校などのインフラの損壊や生産力の低下という被害をもたらす。南部地域は特に早魃の影響を受けやすく、2008 年には降水量不足により 3 地域で収穫量が大幅に減少している。

気候変動によるリスクも看過することはできない。過去 25 年間でサイクロンの襲来数は変わらないが、1994 年以來、その強度は増している。また、長期予測によると、今後 50-100 年間で年間平均気温は 2.5 度上昇し、その結果、年間降水量が減少するとみられている。

2006-2007 年を除く過去 7 年間で、厳しい早魃が農耕に深刻な影響を与えている。特に 2005-2006 年と 2007-2008 年、2009-2010 年は、南部や南西部の降雨量が少ない地域での乾期はより厳しいものとなった⁴⁵。

⁴⁴ WB (2012) , Madagascar Après Trois Ans de Crise : Volume I, p.5-8
http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/ESW-Protection_sociale_vol1.pdf
http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/ESW-Protection_sociale_vol1.pdf (2012/11/02 アクセス)

⁴⁵ WFP (2011) Analyse Globale de la Sécurité Alimentaire et Nutritionnelle, et de la Vulnérabilité (CFSVA+N) Rapport Données collectées en août/septembre 2010, p.32
http://www.wfp.org/sites/default/files/Rapport%20Principal_Mada%20CFSVA%20+N%202010_Fran%C

米を主食とし、1人あたりの米の年間消費量が114kg（2011年）と世界でも最も消費量の多い国のひとつであるマダガスカルでは、米の価格の国際的な高騰は居住地域に関わらず多くの国民に影響する。同国では全世帯の68%が米の生産者であるにもかかわらず、3分の2以上の世帯が1年のうち、何らかの時期に米を購入している。これは収穫の端境期の供給量不足や、適切な米の保存環境がないことにより、多くの国民が米の購入者となっているという現実を反映している。

図表 41 地域別 リスク要因（2010年）

Tableau 192 : Répartition des ménages, selon le type de choc subi, par région

Unité : %

Région	Climat et environnement	Insécurité	Maladies ou décès	Problèmes économiques	Autres types de problèmes	Total
Analamanga	54,5	10,6	11,4	22,6	0,9	100,0
Vakinankaratra	57,0	13,1	6,8	22,9	0,3	100,0
Itasy	56,5	5,3	9,2	27,4	1,6	100,0
Bongolava	26,0	27,2	7,4	35,8	3,6	100,0
Matsiatra Ambony	65,8	10,3	3,1	19,5	1,3	100,0
Amoron'i Mania	80,4	8,4	6,2	5,0	0,0	100,0
Vatovavy Fitovinany	86,7	3,1	1,8	8,4	0,0	100,0
Ihorombe	91,9	2,8	NS	4,1	0,4	100,0
Atsimo Atsinanana	97,3	NS	NS	NS	0,4	100,0
Atsinanana	67,3	4,7	12,2	12,6	3,2	100,0
Analanjirofo	55,5	NS	22,2	13,9	3,5	100,0
Alaotra Mangoro	50,1	15,8	NS	30,0	0,0	100,0
Boeny	48,9	6,9	12,9	29,1	2,2	100,0
Sofia	36,5	28,6	16,4	17,1	1,4	100,0
Betsiboka	36,0	16,9	10,3	32,7	4,3	100,0
Melaky	60,4	27,6	7,3	4,2	0,5	100,0
Atsimo Andrefana	80,2	4,1	5,4	8,9	1,5	100,0
Androy	74,8	4,5	15,0	4,9	0,8	100,0
Anosy	53,7	10,0	12,1	23,8	0,3	100,0
Menabe	86,1	6,0	6,2	1,7	0,0	100,0
DIANA	28,8	13,9	30,2	23,0	4,2	100,0
SAVA	68,4	13,8	7,7	10,2	0,0	100,0
Ensemble	66,9	8,9	8,4	14,9	1,0	100,0

Source : INSTAT/DSM/EPM 2010

(出所) INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.247

http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

[3%A7ais.pdf](#) (2012/11/14 アクセス)

図表 42 地域別 気候または環境に起因する被害を受けた割合（2010 年）

Tableau 193 : Proportion des ménages touchés par les dix principaux problèmes liés au climat ou à l'environnement, par milieu

Problèmes liés au climat ou à l'environnement	Unité : %		
	Urbain	Rural	Ensemble
Sécheresse	21,0	23,6	23,2
Inondation	10,1	16,4	15,5
Cyclone	13,9	14,9	14,7
Maladies de plantes	13,6	12,7	12,9
Pluie tardive	13,4	10,2	10,7
Maladie ou perte de bétail	10,3	9,5	9,6
Invasion acridienne	7,9	5,6	5,9
Autres problèmes de climat ou de l'environnement	3,0	1,9	2,1
Grêle	NS	1,3	1,2
Invasion des rats	1,5	1,1	1,2

Source : INSTAT/DSM/EPM 2010

(出所) INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.247

http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

3. 社会保障⁴⁶

マダガスカルでは伝統的に貧困に対応するための一種の社会保護システムが構築されていた。人口増加や都市化、移民、社会状況の変化等により、次第にこの枠組みが機能しにくくなってきた現在、政府の担う役割が重要となっているが、現在は社会保障プログラムを実現する政策はほぼ皆無である。2009 年以前に第二次 PRSP としてすでに策定されていた MAP は社会保障を 1 つの柱とするものである。この計画は、政変以降も 5 カ年計画の最終年度である 2012 年まで継続するとされているものの、現実には実行停止状態であり、事実上、政府主導の社会保障政策が機能していない。そのため、現在はドナー各国が中心となり、WFP、UNICEF、NGO 等がクラスターを組んで、政変以来途絶えがちな社会保障サービスの実施に向けて方策を話し合い、コーディネートするなどの協力をしている状況である。NGO は現地の自治体と緊密に連携して、外部からの援助配給を実施するようになっている。また 1993 年に創設された独立した民間基金である Fonds d'Intervention pour le développement : FID は、WFP とともに南部地方の旱魃や南東部の洪水、沿岸部のサイクロン被害に対する援助の実施に先立って必要となる被害地域の特定などを行った。FID は argent-contre-travail というプログラムを実施しているが、その際、サービス受給者の半分以上が女性になるよう求め、その実現のために託児所を設置している。このプログラムは、国

⁴⁶ WB (2012) , Madagascar Après Trois Ans de Crise : Volume I, p.iii, 5-8, 25,39,47,50
http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/ESW-Protection_sociale_vol1.pdf
http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/ESW-Protection_sociale_vol1.pdf (2012/11/02 アクセス)

際開発協会（International Development Association : IDA）が出資し、2013年6月まで行われる予定の3年間のプロジェクトである。貧困層や食糧保障が不安定な人々が現金収入を得て食糧を購入できるように、主に収穫の端境期に自治体が選定した地域の橋や灌漑設備、道路補修などの公共工事を行うことで、短期間の雇用を提供し、収入が得られるようにするものである。最近では、このプログラムの参加条件としてNGOが行うHIV/AIDSや衛生についての講習を受講することを参加者に求めたり、プログラムの実施期間中に保健省がFIDとともに乳幼児の保健や栄養状態の管理を行うようになっている。

2007年以来、社会保障に対する政府支出は年々減少している。医療などのサービスを受けられるのは、正規労働市場で働くごく一部の国民のみであり、大多数の貧困層の人々はセーフティーネットからもれたままである。公務員や民間企業などの分野別に3つの省庁が社会保障サービスを担っているが、いずれも保障されるサービスには制限がある。このうち民間セクターのサービスを担う社会共済基金（Caisse Nationale de Prevoyance Sociale : CNaPS）には約50万人が加入しており、人口の12%に相当する240万人ほどをカバーしていると推定される（2010年）。また、社会保障費を支払っているのは労働人口のわずか3.1%で、そのうちの35%が民間セクター、65%が公共セクターの労働者である。住民の社会保障カバー率が全国で最も高いアナラマンガ（Analamanga）県においてさえ、県人口のわずか7%のみが社会保障サービスを受けている状態だと報告されている（2009年）ことから分かるように、国民の大多数は社会保障サービスから取り残されているのが現状である。

図表 43 社会保障費への予算支出（2007-2010年）

Tableau 3.1 : Dépenses Publiques de Protection Sociale, sur la Base des Engagements (2007-10)

	2007	2008	2009	2010
Dépenses Publiques de Protection Sociale				
En millions d'Ariary	171 000	247 650	189 550	116 550
En millions de \$US	91,3	145,0	96,9	55,8
% du PIB	1,2	1,5	1,1	0,6
% des dépenses totales	10,1	13,4	9,3	2,9
Dépenses Publiques de Protection Sociale (% des dépenses totales)				
Sécurité sociale des fonctionnaires	55,7	44,3	65,4	86,0
Santé et nutrition	10,2	5,6	11,0	1,1
Éducation	21,4	31,8	11,6	4,0
Travaux publics	4,1	7,9	2,6	5,8
Catastrophes naturelles	4,0	8,4	5,5	2,8
Groupes vulnérables	4,6	2,0	3,8	0,3

Source : Ralaivelo (2011a).

(出所) Madagascar Après Trois Ans de Crise : Volume I, p.31

http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/ESW-Protection_sociale_vol1.pdf (2012/11/02 アクセス)

図表 44 CNaPS への加入者数 (2006-2010 年)

Tableau 4.2 : Nombre des Employeurs et Employés Affiliés à la CNaPS (2006-08)

	2006	2007	2008	2009	2010
Nombre des employeurs affiliés	18 601	18 279	22 429		
Nombre des employés affiliés	487 627	472 099	517 610		526 700

Source : Donati et al., (2011).

(出所) Madagascar Après Trois Ans de Crise : Volume I, p.39

http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/ESW-Protection_sociale_vol1.pdf (2012/11/02 アクセス)

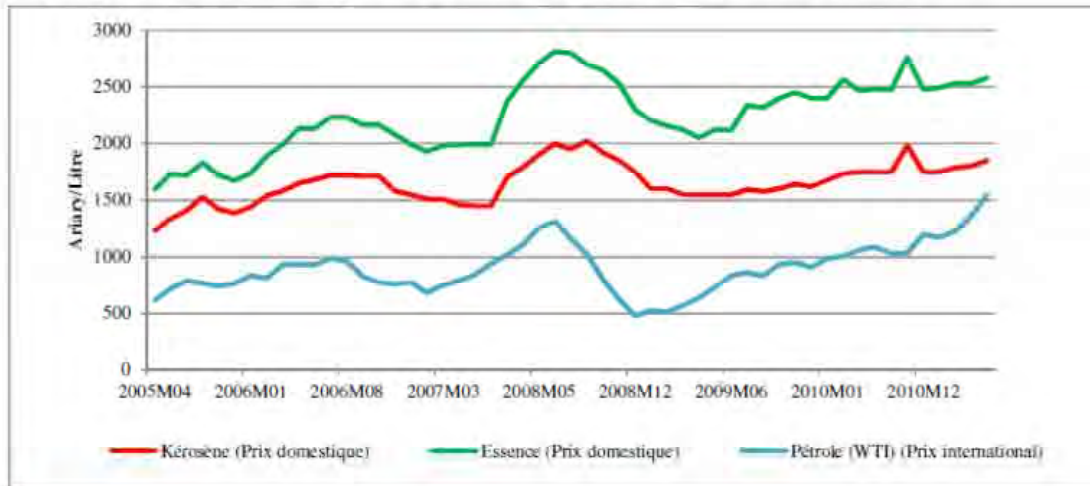
4. 経済的要因⁴⁷

石油産出国ではないマダガスカルでは石油価格の高騰による影響も受けやすい。1 世帯の消費額に占める電気、ガソリン、灯油などの割合は平均 2.6%となっている。最貧困層世帯 (第 1 分位) ではこの割合は 3.5%となる。この層はエネルギー消費額の 92%を灯油に支出している。ガソリンや電気等への直接的な影響に加え、石油エネルギーを使用して生産される財・サービスの価格、特に交通費や食料品の価格も値上がりするため、石油価格の高騰は直接・間接的に国民生活に影響し、特に貧しい層への負担が重くなる。なお、WB は鉱山開発や、35 億バレルの重油が埋蔵されているといわれるチミロロ (Tsimiroro) 油田での生産が開始されれば、相当な財政収入を見込むことができ、経済状況は改善されるであろうと見ている。

⁴⁷ WB (2012) , Madagascar Après Trois Ans de Crise : Volume I, p.8
http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/ESW-Protection_sociale_vol1.pdf (2012/11/02 アクセス)

図表 45 国際・国内石油価格の変動（2005-2010年）

Graphique 4.3 : Prix Domestique et International du Pétrole (mars 2005-déc. 2010)



Source : INSTAT.

(出所) Madagascar Après Trois Ans de Crise : Volume I, p.37

http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/ESW-Protection_sociale_vol1.pdf (2012/11/02 アクセス)

VII. 重点支援分野と貧困の関わり

1. 農村開発

(1) 農業開発

マダガスカルでは専業・兼業農家を合わせて 80.6%の世帯が、ほぼ全国で農業を行っているが、耕作面積が 1.5ha 以下の小規模事業者が圧倒的に多い。農家の 88%は複数の作物を栽培しており、ほとんどが paddy という米の一種または米、あるいは米の代用食となるとうもろこし、イモ類などの作物である。このような基本的食糧に関しては、生産量の 55%が自家消費に充てられており、販売されるのは 25%である。サトウキビやピーナッツなどの商業作物は生産量の 45%が販売用、40%が自家消費用となっている。換金作物のバニラ、コーヒー、丁子については 90%が販売用として栽培されている。自家消費分を除く農業生産物の販売による現金収入は平均で 391,000MGA/年であるが、この額はその世帯主の状況により大きく異なる。世帯主が高学歴で耕地面積が広いほど、現金収入は増加する傾向にあり、ディアナ (Diana) 県、アロチャ・マングル (Alaotra Mangoro) 県、ブエニー (Boeny) 県などは特に農業による収入が高い地域である。世帯の貧困率は耕地面積と比例しており、面積が小さいほど世帯貧困率は悪化する。一般にマダガスカルにおける耕地面積は狭く、平均で 1.4ha である。第 5 分位の最も裕福な世帯の平均耕地面積は 1.8ha であるのに対し、第 1 分位では 1.1ha となっている。これは裕福な世帯ほど世帯主の学歴が高いことや、資金や人材が豊富に使えるためと見られている⁴⁸。農地の細分化、不十分な農具や農作業技術の未熟さ及び生産物販売のためのインフラが十分整備されていないなどの要因に加え、灌漑が不十分であることも生産効率の向上を妨げている。現在耕作されている土地の 40%が灌漑されているが、そのほとんどは適切に維持管理されていない。また、同国の肥沃な土地の大部分が農地として利用されずに残っている。2005 年には、貧しい小作農家に土地所有を促す農地改革が開始されたが、土地所有に伴う税金の支払いを懸念したり、土地価格の高さに二の足を踏む小作農家が多かった。またドナー国からの資金援助の停止にともない、この改革の継続は危ぶまれている⁴⁹。

(i) 米⁵⁰

栽培作物として最も多いのは同国の基礎食糧の米である。2010 年の調査時の直近 1 年間で米の栽培を行ったことがある農家は 87.5%に達している。ただし、地理的・気候的に稲

⁴⁸ INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.7-8,79,84-85, http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

⁴⁹ WFP (2011) Analyse Globale de la Sécurité Alimentaire et Nutritionnelle, et de la Vulnérabilité (CFSVA+N) *Rapport Données collectées en août/septembre 2010*, p. 23-24 http://www.wfp.org/sites/default/files/Rapport%20Principal_Mada%20CFSVA%20+N%202010_Fran%20C3%A7ais.pdf (2012/11/14 アクセス)

⁵⁰ INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.94-96

作に適さない南部のアッチモ・アンドレファナ (Atsimo Andrefana) 県、アノシー (Anosy) 県、アンドロイ (Androy) 県では米を栽培する世帯は少ない。生産量が多い地域と全国生産量に占める割合は、アロチャ・マングル (Alaotra Mangoro) 県では 11.4%、ソフィア (Sofia) 県では 12.7%、アナラマンガ (Analamanga) 県では 9.0%、ヴァキナカラチャ (Vakinankaratra) 県では 6.6%である。

同年の農業事業者世帯の年間平均収入は、自家消費分を金銭換算した分も含めて 910,000MGA で、そのうち主要な収入は 48%を占める米の販売によるものである。生産した米のうち 54.3%は自家消費され、25.8%が販売に充てられている。1世帯あたりの米の平均生産量は 2.5 トン/ha、米の販売による平均収入は約 153,000MGA/年である。

全国の耕地面積の 70%で米の栽培を行っているが、サイクロンなどの自然災害や収穫の端境期などを埋める形で、国内需要の 310%程度は輸入米で供給されている⁵¹。

(ii) 米以外の作物⁵²

一般にほとんどの農家は、米以外の代替作物の栽培を行っている。キャッサバは第 1 分位～第 5 分位の世帯で最も多く栽培されており、次いでイモ類、とうもろこしが多い。このうちイモ類に関しては第 1 分位、第 2 分位の貧しい世帯が多く栽培しているのに対し、富裕層になるにつれ、その割合が減少している。これは、栽培されたイモ類はほぼ全てが自家消費用であり、他の作物と比べて販売による金銭的収入につながりにくいことと関係している。乾期があり、収穫期が短くなる南部では米よりもキャッサバやとうもろこしの栽培を好む傾向にある。

⁵¹ WFP (2011) Analyse Globale de la Sécurité Alimentaire et Nutritionnelle, et de la Vulnérabilité (CFSVA+N) Rapport Données collectées en août/septembre 2010, p. 26-27
http://www.wfp.org/sites/default/files/Rapport%20Principal_Mada%20CFSVA%20+N%202010_Fran%C3%A7ais.pdf (2012/11/14 アクセス)

⁵² INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.98-99,
http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

図表 46 貧富別 平均耕地面積 (2010 年)

Tableau 57 : Superficie économique moyenne, superficie économique médiane, et répartition des ménages agricoles selon la taille de l'exploitation, par quintile

Quintile de consommation	Superficie économique moyenne en Ha	Superficie économique médiane en Ha	Répartition selon la taille de l'exploitation en%			Total
			Petit exploitant agricole	Moyen exploitant agricole	Grand exploitant agricole	
Quintile 1 (les plus pauvres)	1,1	0,8	78,4	19,3	2,4	100,0
Quintile 2	1,1	0,8	78,9	18,5	2,6	100,0
Quintile 3	1,3	1,0	71,0	24,9	4,1	100,0
Quintile 4	1,4	1,0	68,4	26,4	5,3	100,0
Quintile 5 (les moins pauvres)	1,8	1,0	65,0	26,1	8,9	100,0
Ensemble	1,4	1,0	71,9	23,3	4,8	100,0

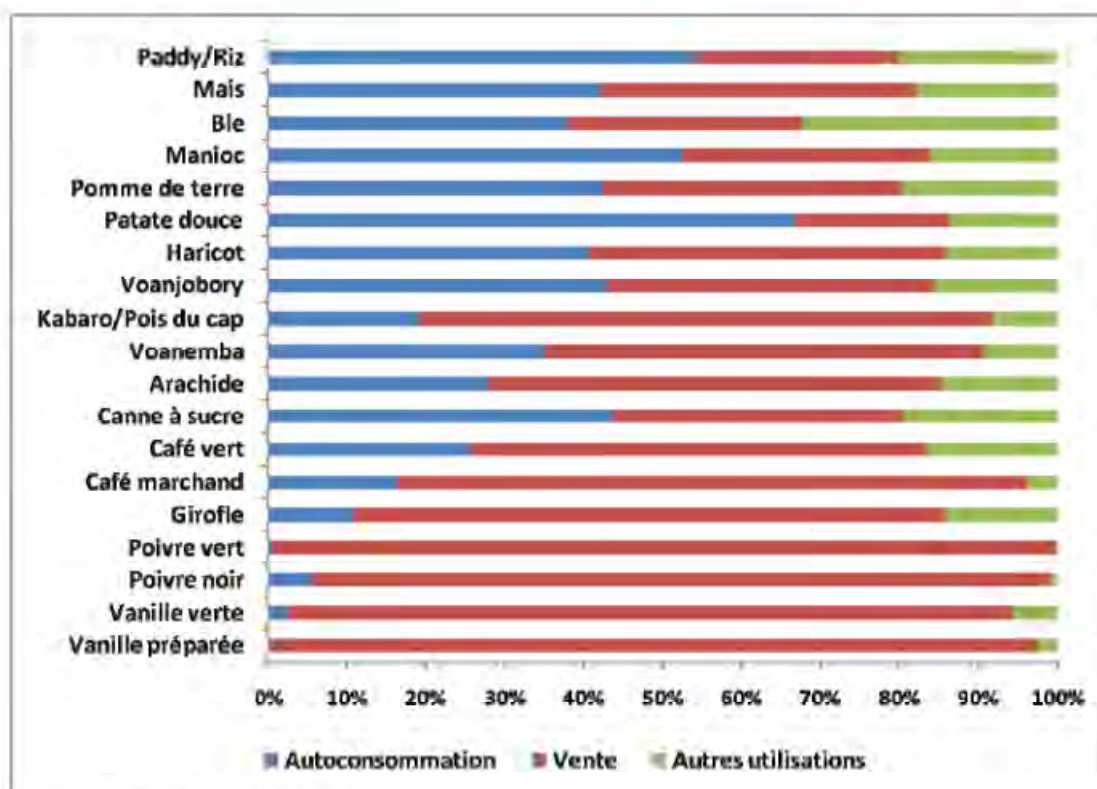
Source : INSTAT/DSM/EPM2010

(出所) INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.85

http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

図表 47 農作物の活用法 (2010 年)

Graphique 5 : Utilisation de quelques produits agricoles



Source : INSTAT/DSM/EPM2010

(出所) INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.89

http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

図表 48 貧富別 米以外の作物の栽培状況 (2010 年)

Tableau 72 : Pourcentage des ménages cultivateurs selon le produit de substitution du riz, et par quintile de consommation

Quintile de consommation	Unité : %			
	Maïs	Manioc	Patate	Autres tubercules
Quintile 1 (les plus pauvres)	26,5	92,3	62,5	43,3
Quintile 2	15,7	94,8	64,9	1,7
Quintile 3	72,4	65,3	21,8	1,0
Quintile 4	25,4	78,7	30,2	0,0
Quintile 5 (les moins pauvres)	16,9	94,1	10,3	12,0
Ensemble	42,3	87,6	45,6	21,3

Source : INSTAT/DSM/FPM 2010

(出所) INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.99

http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

(2) 環境保全

燃料として最も広く用いられているのは木材で、2010年で全国の77.7%の世帯が利用している。特にアモロニマニア (Amaron'i Mania) 県では炊事用として木材を使用するのが93.8%と最も高い。都市部と農村部では燃料源に違いが見られ、前者では木材利用は45.0%であるのに対し、後者は86.9%となっている。また、貧しい世帯ほど木材利用率が高く、96.8%が炊事用としてこの燃料源に頼っているが、富裕層では48.3%の利用にとどまる。世帯主の学歴によっても違いが見られ、高学歴であるほど石炭利用世帯が多く(71.2%)、学校教育を受けていない世帯主では93.0%が伐採した木材を利用している⁵³。

国民の3分の1が暮らす東部沿岸地域は、12月から4月にかけてインド洋で発生するサイクロンによる被害を頻繁に受けている。貧困層が多い南東部および西部地域もたびたび洪水が起こっており、自然災害による道路・学校などのインフラ損壊、農業生産力の低下を引き起こし、貧困改善を妨げている。早魃が起こりやすい南部地域では、降水量不足により、2008年には3つの地域で収穫量が大幅に減少する事態となっている⁵⁴。

⁵³ INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.184-186
http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

⁵⁴ WB (2012) , Madagascar Après Trois Ans de Crise : Volume I, p.5-8
http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/ESW-Protection_sociale_vol1.pdf
http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/ESW-Protection_sociale_vol1.pdf (2012/11/02 アクセス)

図表 49 地域別 炊事用の燃料源 (2010 年)

Tableau 142 : Répartition des ménages selon le principal type de combustible utilisé pour la cuisine, par région

Unité : %

Région	Bois ramassé	Bois acheté	Charbon	Gaz	Electricité	Pétrole	Autres	Total
Analamanga	44,9	4,2	48,2	1,3	0,9	0,1	0,4	100,0
Vakinankaratra	82,2	5,0	12,7	0,0	0,0	0,1	0,1	100,0
Itasy	85,2	9,1	5,2	0,0	0,1	0,3	0,1	100,0
Bongolava	83,2	6,1	10,4	0,0	0,2	0,0	0,2	100,0
Matsiatra Ambony	85,7	3,2	11,1	0,0	0,1	0,0	0,0	100,0
Amoron'i Mania	93,8	0,7	5,4	0,1	0,0	0,0	0,0	100,0
Vatovavy Fitovinany	90,1	3,9	6,0	0,0	0,0	0,0	0,0	100,0
Ihorombe	77,9	2,0	16,1	0,0	0,0	0,1	3,9	100,0
Atsimo Atsinanana	92,4	3,3	4,3	0,0	0,0	0,0	0,0	100,0
Atsinanana	82,3	3,9	12,7	0,1	0,2	0,4	0,6	100,0
Analanjirifo	86,2	5,3	7,5	0,1	0,2	0,0	0,7	100,0
Alaotra Mangoro	65,3	9,1	25,6	0,0	0,0	0,0	0,0	100,0
Boeny	70,7	2,2	26,8	0,2	0,0	0,1	0,0	100,0
Sofia	83,8	2,6	13,6	0,0	0,0	0,0	0,0	100,0
Betsiboka	87,5	2,9	9,6	0,0	0,0	0,0	0,0	100,0
Melaky	89,7	2,2	8,0	0,0	0,0	0,1	0,0	100,0
Atsimo Andrefana	67,3	12,2	20,1	0,0	0,1	0,1	0,2	100,0
Androy	90,2	7,2	2,7	0,0	0,0	0,0	0,0	100,0
Anosy	89,8	2,0	8,1	0,0	0,0	0,0	0,0	100,0
Menabe	78,3	3,0	18,6	0,0	0,1	0,0	0,0	100,0
DIANA	69,0	0,9	29,0	0,2	0,1	0,0	0,7	100,0
SAVA	91,7	1,9	6,1	0,1	0,0	0,0	0,3	100,0
Ensemble	77,7	4,5	17,1	0,2	0,2	0,1	0,2	100,0

Source : INSTAT/DSM/EPM 2010

(出所) INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.185

http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

図表 50 貧富階層別 炊事用燃料源 (2010年)

Tableau 145 : Répartition des ménages selon le type de combustible utilisé pour la cuisine, selon le quintile de consommation

Quintile de consommation	Bois ramassé	Bois acheté	Charbon	Gaz	Electricité	Pétrole	Autres	Total
Plus pauvres	96,8	1,8	1,2	0,0	0,0	0,0	0,1	100,0
2 ^{ème} Quintile	94,8	2,4	2,6	0,0	0,0	0,1	0,1	100,0
3 ^{ème} Quintile	89,1	3,6	7,1	0,0	0,0	0,1	0,1	100,0
4 ^{ème} Quintile	77,9	6,7	14,9	0,0	0,2	0,1	0,3	100,0
Plus riches	48,3	6,3	43,7	0,7	0,5	0,1	0,4	100,0
Ensemble	77,7	4,5	17,1	0,2	0,2	0,1	0,2	100,0

Source : INSTAT/DSM/EPM 2010

(出所) INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.187

http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

2. 経済開発

(1) 運輸交通インフラ整備

2002年より政府は特に道路整備を中心としたインフラ整備の取り組みに力を入れてきた。適切な道路補修により、商業活動を20%向上させられると見込み、農村部の各コミュニティーを交通網へ接続することに注力してきた。2005年だけでも既存道路の補修を含め、延べ8,782kmの道路整備を行っている。その結果、2003年には外部アクセスが困難な地域が国全体の59%であったのが、幹線道路へのアクセス向上を目指した道路補修や新規建設により、2005年には33%まで改善したとしている。しかしまだ1,557コミュニティーのうち、年間を通じて10-12カ月間安定して道路にアクセスできるのは600にとどまっている。この状況は貧しい農村部の経済活動を妨げている⁵⁵。特に12-3月の雨期にはほとんどの地域が道路状態の悪化などにより、市場への行き来や外部とのコミュニケーションが困難になる。またこの期間は交通機関の運賃も年間で最も高くなる。通常でも道路状態が悪く、農作物の販売価格にも高い移動交通費が反映される結果、都市での農産物価格が上がり、市場の細分化へつながるなどの経済効率悪化につながっている⁵⁶。

⁵⁵ Gouvernement de Madagascar (2006), Plan d'action Madagascar 2007-2012 Un Plan Audacieux pour le Développement Rapide, p.38-44
<http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/MAPFrench.pdf>
 (2012/11/02 アクセス)

⁵⁶ WFP (2011) Analyse Globale de la Sécurité Alimentaire et Nutritionnelle, et de la Vulnérabilité (CFSVA+N) Rapport Données collectées en août/septembre 2010, p. 35-36, 25
http://www.wfp.org/sites/default/files/Rapport%20Principal_Mada%20CFSVA%20+N%202010_Fran%C3%A7ais.pdf (2012/11/14 アクセス)

図表 51 新規道路建設および既存道路の補修状況（2005 年）

INDICATEURS	2005
Kilomètres de routes nationales construites et/ou réhabilitées	805 Km
Kilomètres de routes rurales construites et/ou réhabilitées	977 Km
Kilomètres de routes nationales entretenues (entretien courant)	5.700 Km
Kilomètres de routes rurales/en gravier entretenues (entretien courant)	1.300 Km
Taux de satisfaction des usagers en termes de qualité de services par mode de transport (critères confort, sécurité, temps, régularité v/s coût)	Voyages : 40% M/ses : 55%

(出所) Gouvernement de Madagascar (2006), Plan d'action Madagascar 2007-2012 Un Plan Audacieux pour le Développement Rapide, p.43

<http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/MAPFrench.pdf>

(2012/11/02 アクセス)

地図 8 国道の状態 (2005 年)



(出所) Gouvernement de Madagascar (2006), Plan d'action Madagascar 2007-2012 Un Plan Audacieux pour le Développement Rapide, p.40

<http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/MAPFrench.pdf>

(2012/11/02 アクセス)

(2) 資源開発—鉱山、石油

マダガスカルは、ブラジル、インドに次いで世界第 3 位の鉱物を埋蔵していると考えられているが、長らく石油や鉱山等の天然資源開発はなされてこなかった。政府は 2003 年より方針を転換し、2007 年には GDP の 4%以下を占めるに過ぎない鉱山関連事業を、2012 年の地下資源利用料による収入を 4,500 万米ドルと見込み、少なくとも GDP の 30%にまで引き上げたいとしている。そのために 2006 年には民間企業、ドナー、地域責任者、政府を交え、開発優先度を定める会合を開いている⁵⁷。また、近年、鉱山関連分野は新鉱山の発見により著しい伸びをみせている。農業以外の第一次産業分野の企業数は、商業、工業に次いで、2010 年には採掘関連の企業数が 12.1%を占めて第 3 位となっている。2005 年にはこの 3 分野を合計しても農業を除く第一次産業に占める割合は 3%以下であった。特にベチボカ (Betsiboka) 県、ブングラバ (Bongolava) 県では工業、森林開発などの産業が占める割合が大きく、ベチボカ (Betsiboka) 県では金やその他の鉱石の採掘が盛んである⁵⁸。現在は、大規模プロジェクトを除き、主に中小規模の、ほとんどが非正規セクターの事業者が採掘を担っている。金の採掘量は公式には年間数十キログラムとされているが、実際には統計に現れないものを含めると約 10 トンになると推計されている。マダガスカルの特徴は様々な鉱物を有することで、チタン鉄鉱、ニッケル-コバルト、石油、ダイヤモンドやサファイヤを含む貴石、半貴石、金、石炭、ボーキサイト、ウランなどの埋蔵が確認されている。このうちチタン鉱石については、50 年間にわたる採掘が可能とされる 3 箇所の鉱山がフォル・ドーファン (Fort Dauphin) などで確認されており、世界産出量の 10%程度を輸出することができると見られている。石油についてはベモランガ (Bemolanga) 県などで重質油鉱床の存在が確認されているが、大規模な油田はまだ発見されていない⁵⁹。

3. 基礎生活

(1) 安全な水へのアクセス

2010 年の調査によると、公共の水道施設を利用しているのは人口の 11.5%で、自宅や居住している建物に水道がある人は 3.0%である。河川や湖など、管理されていない水源を利用しているのは国民の 54.2%にのぼっている。適切に管理された水源にアクセスできる人の割合は 2005 年の 39.6%から 44.9%へと伸びている。しかし地域別で見ると農村部は 38.5%、都市部では 70.9%と差が見られる。飲料水へのアクセス率はディアナ (Diana) 県

⁵⁷ Gouvernement de Madagascar (2006), Plan d'action Madagascar 2007-2012 Un Plan Audacieux pour le Développement Rapide, p.92
<http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCAR/FRENCH/Resources/MAPFrench.pdf>
(2012/11/02 アクセス)

⁵⁸ INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.108
http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

⁵⁹ Ministère de l'Economie et des Finances サイト
http://www.tresor.economie.gouv.fr/1630_le-secteur-minier-a-madagascar (2012/11/22 アクセス)

の 83.4%に次いでアナラマンガ (Analamanga) 県の 70.5%が高い。反対に飲料水へアクセスできるのが住民の 4 分の 1 以下のみの県は、アッチモ-アツィナナナ (Atsimo Atsinanana) 県 11.9%、アチアチャ・アンボニ (Matsiatra Ambony) 20.6%、アツィナナナ (Atsinanana) 県 21.1%、アナランジロフォ (Analanjirifo) 県 21.1%となっている。非衛生的な飲料水が原因とみられる下痢の症状を訴える人は、水道普及率が低い農村部の方が多く、都市部の 9.6%に対して 13.3%となっている。11 カ月以下の乳幼児に限れば、農村部は 32.2%が下痢にかかっている。INSTAT が 2010 年に調査を行った際、直近 2 週間以内にかかった病気として、発熱、マラリアの兆候に次いで下痢が主要な疾病の一つとして挙げられており、衛生的な水へのアクセス率が低いヴァトヴァヴィーフィトヴィナニー (Vatovavy Fitovinany) 県、アッチモ・アンドレファナ (Atsimo Andrefana) 県、ブングラバ (Bongolava) 県においては特に下痢の症状を訴える人が多く見られる⁶⁰。

WFP によると、2008 年以来、全般的に安全な水へのアクセス率に改善は見られず、特に 9-11 月の乾期における水源へのアクセスが課題として挙げられている。安全な水にアクセスできる世帯が最も少ない南部地域では、乾期にはアクセス率が 13.1%にまで低下する (雨期は 21.5%)⁶¹。

⁶⁰ INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.193-194, 135-137
http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

⁶¹ WFP (2011) Analyse Globale de la Sécurité Alimentaire et Nutritionnelle, et de la Vulnérabilité (CFSVA+N) Rapport Données collectées en août/septembre 2010, p. 52
http://www.wfp.org/sites/default/files/Rapport%20Principal_Mada%20CFSVA%20+N%202010_Fran%C3%A7ais.pdf (2012/11/14 アクセス)

図表 52 地域別 主な飲料水源 (2010 年)

Tableau 152 : Répartition de la population selon la principale source d'eau à boire, par milieu de résidence

Milieu	Unité : %		
	Urbain	Rural	Ensemble
Robinet dans le logement	3,6	0,2	0,9
Robinet privé dans la cour	4,1	0,2	1,0
Robinet commun dans la cour	3,6	0,4	1,1
Robinet public/fontaine publique	28,2	7,3	11,5
Forage muni de pompe motrice humaine	1,8	1,8	1,8
Puits muni de pompe à motrice humaine	3,8	3,1	3,3
Puits sans pompe recouvert (protégé)	12,7	10,3	10,8
Puits sans pompe non recouvert (protégé)	9,6	13,0	12,3
Source protégée ou couverte	2,7	2,0	2,2
Source non protégée	13,8	24,9	22,6
Rivière, barrage, lac, mare	14,6	35,9	31,6
Eau de pluie	0,1	0,2	0,2
Service Camion citerne	0,0	0,0	0,0
Vendeur d'eau	1,4	0,5	0,7
Eau de bouteille	0,0	0,0	0,0
Autres	0,0	0,1	0,1
Total	100,0	100,0	100,0

Source : INSTAT/DSM/EPM 2010

(出所) INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.193

http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

図表 53 地域別 飲料水へのアクセス率 (2010 年)

Tableau 153 : Taux d'accès à l'eau potable, selon le milieu de résidence

Unité : %		
Urbain	Rural	Ensemble
70,0	38,5	44,9

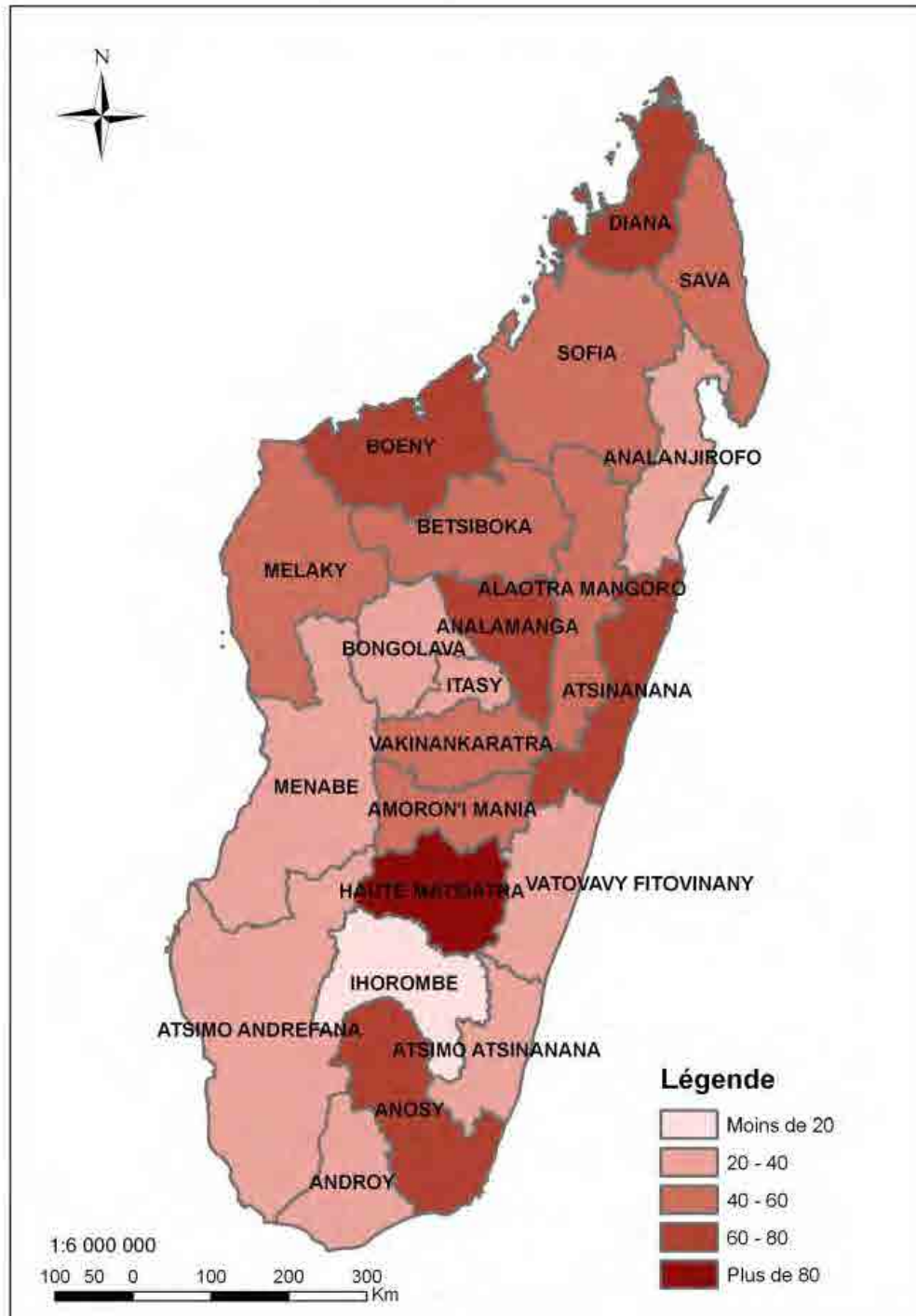
Source : INSTAT/DSM/EPM 2010

(出所) INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.194

http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

地図 9 地域別 管理された水源へのアクセス状況 (2010 年)

Carte 5 : Taux d'accès à l'eau protégée selon les régions

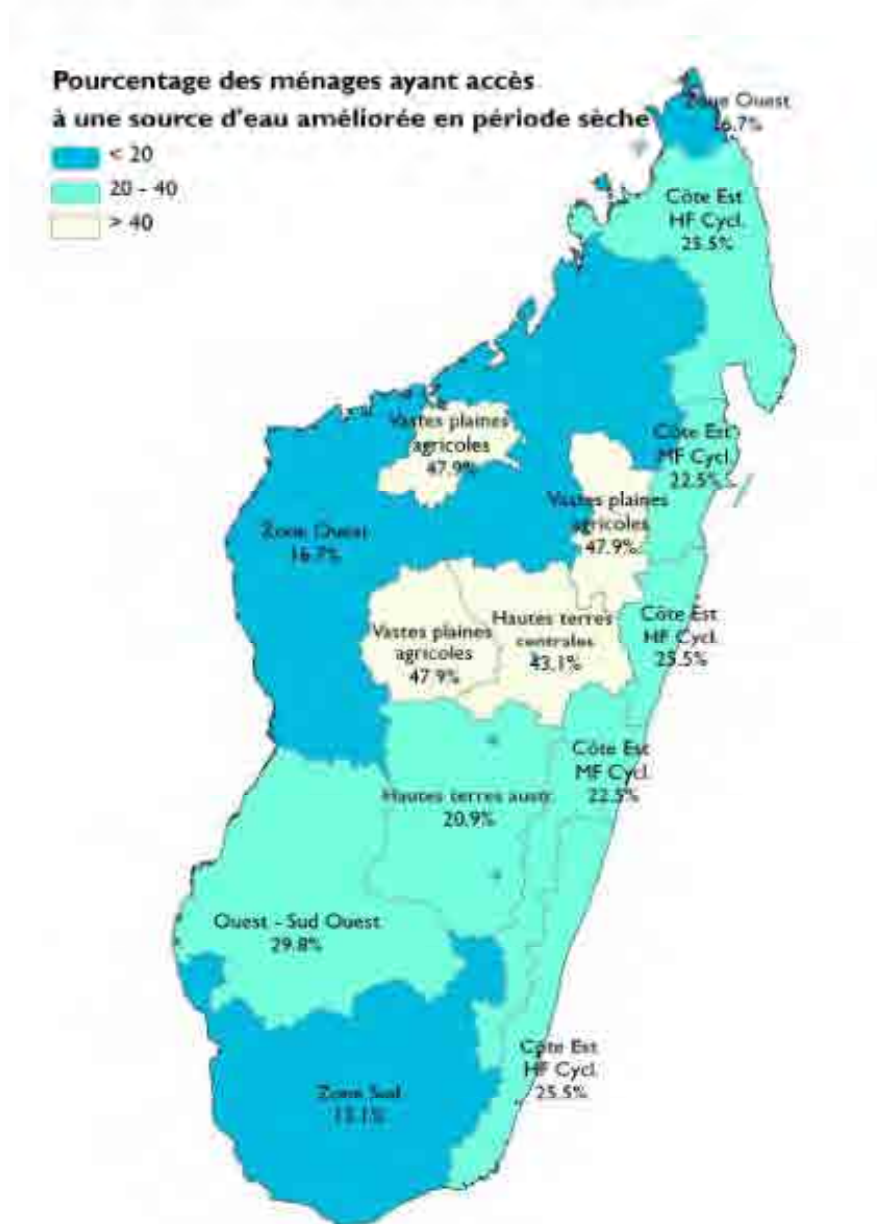


(出所) INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.195

http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

地図 10 地域別 乾期の安全な水へのアクセス率 (2010 年)

Fig. 27 - Pourcentage de ménages ayant accès à une source d'eau améliorée pendant la saison sèche



(出所) WFP(2011) Analyse Globale de la Sécurité Alimentaire et Nutritionnelle, et de la Vulnérabilité (CFSVA+N) Rapport Données collectées en août/septembre 2010, p. 52
http://www.wfp.org/sites/default/files/Rapport%20Principal_Mada%20CFSVA%20+N%202010_Fran%3%A7ais.pdf (2012/11/14 アクセス)

(2) 電気エネルギーへのアクセス

全国レベルで見ると電化率は2005年の12.3%から2010年には13.3%へとやや向上している。電気エネルギーへのアクセス率が最も高いのはアナラマンガ（Analamanga）県で、39.0%の世帯が電気を使用している。ところが最も電化率が低いアンドロイ（Androy）県では0.2%となっている。都市部の平均39.1%の電化率に対し、農村部では4.8%にとどまるなど、電気エネルギーの使用状況には地域間で大きな格差が見られる。なお、照明としては石油ランプが全国の81.2%の世帯で広く利用されており、電気による照明を利用する世帯は全国平均で12.3%である。これを貧富別で比較すると、電気エネルギーによる照明を利用している世帯は第1・2分位では1%未満であるが、第5分位では35.1%である。石油ランプによる照明の利用率は、第1・2分位では95%以上に達し、富裕層では53%あまりである⁶²。2007年における世帯あたりのエネルギーに対する支出額の内訳は、第1分位では灯油が92%を占めているのに対し、第5分位では灯油41%、電気46%、ガソリン10%となっている⁶³。

マダガスカルは石油を輸入に頼っており、石油価格の変動に影響を受けやすい。2001-2005年の間に石油価格が2倍になった結果、火力発電費用も上昇している。また発電所の設備が旧式であったり、維持管理が適切になされないこともあり、効率的な発電を妨げ、発電費用が高くなり、電気の普及を妨げる要因ともなっている⁶⁴。

また、エネルギー問題に関連して、貧困層が家庭用に利用する薪が森林破壊の主要な原因の一つになっており、現在のペースで森林の減少が続けば、40年以内にはマダガスカルから森林が消滅するという報告も見られる。マダガスカルでは、95%の家庭が薪、木炭等の木質バイオマスに依存しており、薪の年間消費量は約900万立方メートルに、木炭の年間消費量は860万立方メートルに及ぶ。特に最貧困層や貧困層では、家庭用燃料としての薪に対する依存度が極めて高い。⁶⁵

森林破壊以外にも、伝統的な木質バイオマスの利用者に健康被害がみられることも指摘されている。マダガスカルでは、約1万2千人の年間死亡者が気管支系の感染症によるものであるが、この主要な原因として家庭における木質バイオマスを利用した伝統的な調理

⁶² INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.187-189
http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

⁶³ WB (2012) , Madagascar Après Trois Ans de Crise : Volume I, p.8
http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/ESW-Protection_sociale_vol1.pdf
http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/ESW-Protection_sociale_vol1.pdf (2012/11/02 アクセス)

⁶⁴ Gouvernement de Madagascar (2006) , Plan d'action Madagascar 2007-2012 Un Plan Audacieux pour le Développement Rapide, p.45
<http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/MAPFrench.pdf>
(2012/11/02 アクセス)

⁶⁵ WB (2011) Ethanol as a Household Fuel in Madagascar, p. iv
http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2012/06/21/000426104_20120621102923/Rendered/PDF/699820v10ESW0P0ry0Report0Eng0220911.pdf (2013/1/21 アクセス)

方法が関係している。上記 1 万 2 千人の内、1 万人は 5 歳以下の子どもとなっている。⁶⁶

図表 54 地域別 照明源 (2010 年)

Tableau 146 : Répartition des ménages selon la source d'éclairage, par région

Région	Unité : %					Total
	Electricité	Générateur	Pétrole lampant	Bougies	Autres	
Analamanga	39,0	1,0	45,5	13,0	1,5	100,0
Vakinankaratra	9,3	1,0	78,0	5,1	6,7	100,0
Itasy	13,2	5,1	77,7	3,2	0,9	100,0
Bongolava	4,6	0,9	83,0	10,4	1,1	100,0
Matsiatra Ambony	7,4	0,0	90,7	1,0	1,0	100,0
Amoron'i Mania	3,8	0,4	92,8	2,7	0,4	100,0
Vatovavy Fitovinany	4,0	0,9	93,7	0,1	1,3	100,0
Ihorombe	4,4	1,1	93,3	1,2	0,0	100,0
Atsimo Atsimanana	2,6	0,1	96,5	0,4	0,4	100,0
Atsinanana	10,7	1,8	85,3	1,6	0,7	100,0
Analanjurofo	9,7	0,4	84,8	1,5	3,6	100,0
Alaotra Mangoro	9,7	1,7	72,5	15,1	1,0	100,0
Boeny	15,4	1,1	82,2	0,8	0,5	100,0
Sofia	7,0	0,7	91,0	1,1	0,3	100,0
Betsiboka	5,7	0,2	90,8	2,0	1,4	100,0
Melaky	5,0	0,8	92,7	0,9	0,6	100,0
Atsimo Andrefana	11,4	0,8	83,3	1,1	3,5	100,0
Androy	0,2	1,4	95,4	0,0	3,0	100,0
Anosy	5,6	0,4	92,1	0,2	1,8	100,0
Menabe	12,5	1,2	82,0	3,1	1,2	100,0
DIANA	19,7	1,4	78,3	0,5	0,2	100,0
SAVA	6,1	0,7	92,9	0,1	0,3	100,0
Ensemble	12,3	1,0	81,2	3,8	1,7	100,0

Source : INSTAT/DSM/EPM 2010

(出所) INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.188

http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

(3) 衛生状況改善

(i) 母子保健

2008-2009 年に実施された人口保健調査 (Enquête démographique et de santé : EDS) の調査結果によると、5 歳未満の子どもの 50.1%が慢性的な栄養不足であり、そのうち 26%は症状が重いと報告されている。2011 年には状況が改善されたものの、依然として同年齢層の 38.4%が慢性的な栄養不足に苦しんでおり、2010 年における 5 歳未満の子どもの死亡原因の 54%を占めるなど、栄養不足は依然として大きな問題である。しかし、5 歳未満児と乳幼児死亡率に関してはやや改善の兆しが見られる。2003-2009 年の出生 1,000 件当たりの死亡件数を比較すると、5 歳未満児は 93 件から 58 件へ、乳幼児は 72 件から 48 件へと死

⁶⁶ WB (2011) Ethanol as a Household Fuel in Madagascar, p. iv
http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2012/06/21/000426104_20120621102923/Rendered/PDF/699820v10ESW0P0ry0Report0Eng0220911.pdf (2013/1/21 アクセス)

亡件数は減少している⁶⁷。また、農村部における低体重児も減っている。2003-2004年には36.4%の5歳未満児が低体重とされたが、2010年には28%と改善されている。ただし、WHOが用いる年齢と身長基準では、発育遅れの子どもは17年間減っておらず、栄養状態の改善も課題として残っている。2010年には農村部の5歳未満児の48.7%にあたる160万人の子どもに成長の遅れが見られる。また、妊娠期間や新生児の間に十分な保健・栄養を得ることができなかつたために、すでに発育が遅れている6カ月未満児が20%も存在していることも深刻な問題である⁶⁸。

出産可能年齢の女性の27%がBMI18.5以下の慢性的栄養不足である。妊産婦死亡率も高く、2010年は出産100,000件あたり498となっている。この件数は1997-2008年で大きな変化は見られず、498/100,000件(2008年)となっている⁶⁹。出産前検診の受診率は徐々に向上し、2008年には86%となった。しかし、妊婦の学歴や居住地、貧富の差により受診率には大きな差が出ている。アナラマンガ(Analamanga)県、アロチャ・マングル(Alaotra Mangoro)県では約97%の妊婦が出産前検診を受けているのに対し、アンドロイ(Androy)県、メラキー(Melaky)県の受診率は65%、69%にとどまる。WHOは出産前に検診を4回受けることを推奨しているが、全て受診した人は2008年には49.3%であった。これは1997年の39.7%から改善されているが、農村部の46%よりも都市部71%の方が高いという結果が出ている。

妊産婦死亡率が改善されない背景には、居住する地域間での医療格差が原因の一つとして存在する。特に農村部においては医療スタッフなどが十分ではないことが多い。2004-2008年で適切な介助者の立会いの下に出産した妊婦の割合を比較すると、都市部では75.6%から81.6%へ改善されているが、農村部では45.9%から39.3%へと減少している。妊産婦死亡率はまた、妊婦の学歴や生活レベルとも関連している。学校教育を受けたことがない妊婦のうち、適切な環境で出産したのは17.7%であるが、初等・中等教育を受けたものでは93.9%にのぼる。マダガスカルでは産婆による伝統的な出産が全国的に広く行われているが、農村部は特にこの傾向が強く、ヴァトヴァヴィーフイトヴィナニー(Vatovavy Fitovinany)県では77%の妊婦がこの方法での出産を行っている。15-19歳の若年での妊娠・出産は、妊産婦死亡のリスクを高めるだけでなく、学業や社会・経済生活へも影響する。件数は逡減しているが、特に農村部における若年の妊婦・出産数は依然として多く、2008年の妊婦1,000人の内164人が若年者であった。この他にも、妊娠期間中の病気や事故などを適切に素早く診断・対応できる施設や人材の不足、女性の地位の低さ、診療場所まで

⁶⁷ République de Madagascar (2012), Plan national d'action pour la nutrition 2012-2015, p.6-7 JICA 提供資料

⁶⁸ WFP (2011) Analyse Globale de la Sécurité Alimentaire et Nutritionnelle, et de la Vulnérabilité (CFSVA+N) Rapport Données collectées en août/septembre 2010, p. 42-43
http://www.wfp.org/sites/default/files/Rapport%20Principal_Mada%20CFSVA%20+N%202010_Fran%3%A7ais.pdf (2012/11/14 アクセス)

⁶⁹ République de Madagascar (2012), Plan national d'action pour la nutrition 2012-2015, p.6-7 JICA 提供資料

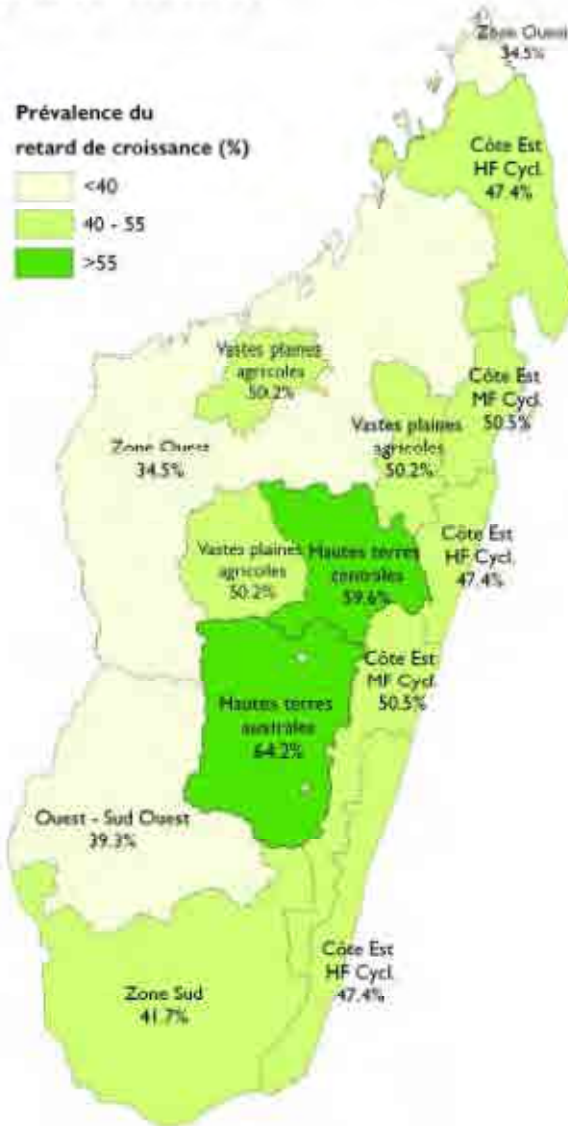
への移動距離が長いことやその費用が支払えないなどの要因が妊産婦死亡件数の削減を阻む要因として考えられる⁷⁰。政府は2006年までに197カ所に基礎保健センター（Centre de Santé de Base : CBS）を整備したが、農村部の65%の住民はここへアクセスするのに5km以上の移動をしなければならず、施設や人材不足の問題も解消されていない⁷¹。

⁷⁰ République de Madagascar (2010), Rapport national de suivi (+10) Des OMD 3 « Promouvoir l'égalité des sexes et l'autonomisation des femmes » et OMD 5 « Améliorer la santé maternelle », p.22-28
http://www.hayzara.org/index.php?option=com_content&view=article&id=225%3Arapport-national-de-sui-vi-10-des-omd3-et-omd-5-2010&catid=37%3Areports&Itemid=46&lang=fr (2012/11/15 アクセス)

⁷¹ Gouvernement de Madagascar (2006), Plan d'action Madagascar 2007-2012 Un Plan Audacieux pour le Développement Rapide, p.72
<http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/MAPFrench.pdf>
(2012/11/01 アクセス)

地図 11 発育遅れの子どもの割合 (2010 年)

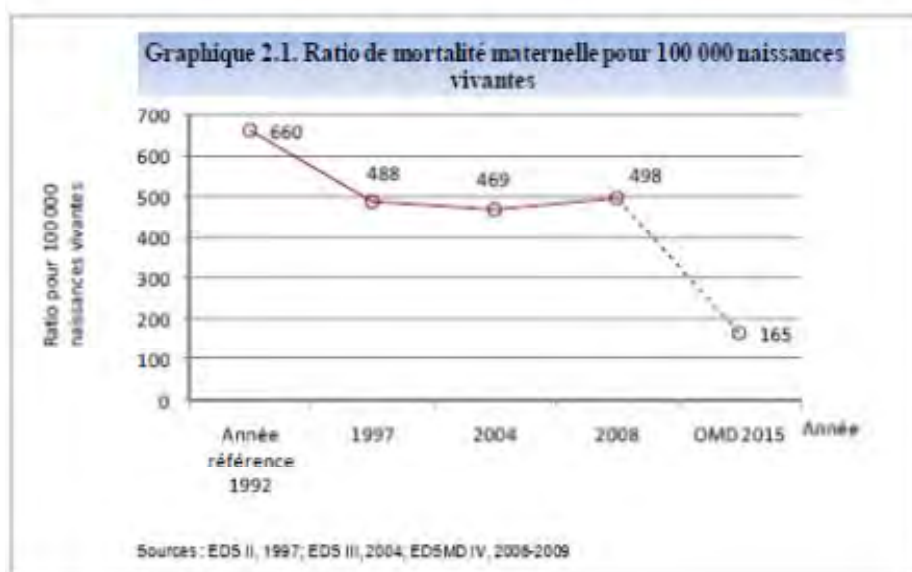
Fig. 15 - Distribution du retard de croissance par zone de subsistance



(出所) WFP(2011) Analyse Globale de la Sécurité Alimentaire et Nutritionnelle, et de la Vulnérabilité (CFSVA+N) Rapport Données collectées en août/septembre 2010, p.42

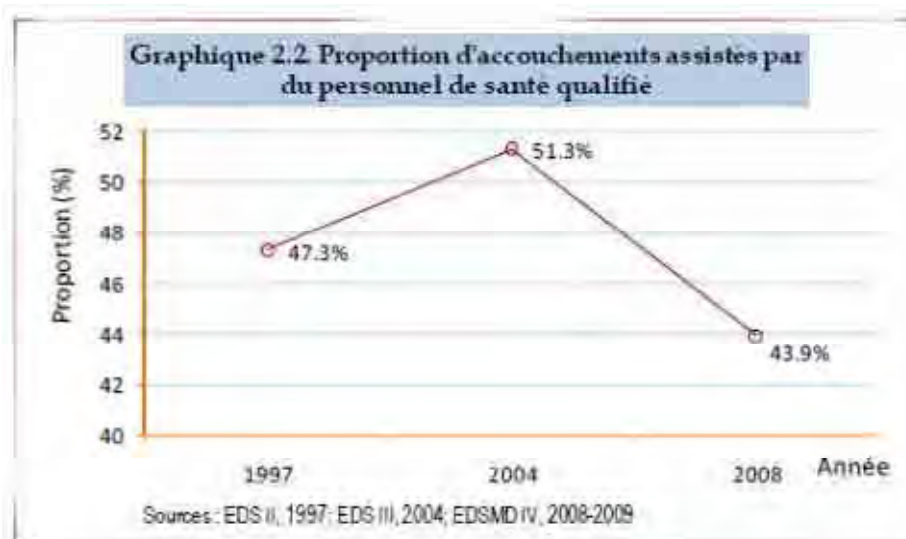
http://www.wfp.org/sites/default/files/Rapport%20Principal_Mada%20CFSVA%20+N%202010_Fran%3%A7ais.pdf (2012/11/14 アクセス)

図表 55 出産 10 万件あたりの妊産婦死亡率の推移 (1992-2008 年)



(出所) République de Madagascar(2010), Rapport national de suivi (+10) Des OMD 3« Promouvoir l'égalité des sexes et l'autonomisation des femmes » et OMD 5« Améliorer la santé maternelle », p.22
http://planipolis.iiep.unesco.org/upload/Madagascar/Madagascar_Rapport_OMD_2007.pdf (2012/11/15 アクセス)

図表 56 適切な介助による出産 (1997-2008 年)



(出所) République de Madagascar(2010) , Rapport national de suivi (+10) Des OMD 3« Promouvoir l'égalité des sexes et l'autonomisation des femmes » et OMD 5« Améliorer la santé maternelle », p.23
http://planipolis.iiep.unesco.org/upload/Madagascar/Madagascar_Rapport_OMD_2007.pdf (2012/11/15 アクセス)

図表 57 出産前検診の受診率（1997-2008 年）

Tableau 2.1. Taux de consultations prénatales

	1997	2004	2008
Taux de consultations prénatales	77%	80%	86%
Pourcentage des femmes ayant reçu des soins prénatals au moins une fois	81,9%	80,6%	90%
Pourcentage des femmes ayant reçu des soins prénatals quatre fois et plus pendant leur grossesse	39,7%	39,9%	49,3%

Sources : EDS II, 1997 ; EDS II, 2003-2004 ; EDSMD IV, 2008-2009

(出所) République de Madagascar(2010) , Rapport national de suivi (+10) Des OMD 3« Promouvoir l'égalité des sexes et l'autonomisation des femmes » et OMD 5« Améliorer la santé maternelle », p.24 http://planipolis.iiep.unesco.org/upload/Madagascar/Madagascar_Rapport_OMD_2007.pdf (2012/11/15 アクセス)

(ii) HIV/エイズ

2011 年時点での全国の HIV/エイズ患者数は 15-49 歳人口の 0.30%、15 歳以上の女性で陽性の方は約 9,500 人と推計されている⁷²。マダガスカルにおける HIV 陽性率は高くないが、政府は、今後の外界との交流や観光客の増加を見据えて、早期の予防政策を講じる必要があるとし、母子感染の防止、孤児のケア、啓蒙キャンペーンなどの感染拡大を抑える取り組みを考えている⁷³。

(iii) トイレ⁷⁴

2010 年の調査によると、全国でトイレがない状況にある人は 52.8%となっている。和・洋式、陶器、コンクリート製などで整備されたトイレへのアクセス率は都市部の方が高い。このような施設は富裕層 63.5%が利用しているのに対し、貧困層では 21.0%にとどまる。イタシ (Itasy) 県では 82.3%の住民が清潔なトイレへのアクセスができると報告されている。しかしアッチモ-アツィナナ (Atsimo Atsinanana) 県のアクセス率 5.1%など、全国の 6 県が、住人の 10%ほどしか衛生的なトイレを使用できない状況である。

WFP の調査によると、トイレの使用後に石鹸で手を洗う女性は 21.7%だけで、富裕層ほどこの割合は高くなる。母親が手を洗わない子どもが病気にかかる割合は、手を洗う母親の子どもに比べて 9%高いという結果がでている⁷⁵。

⁷² UNAIDS サイト、<http://www.unaids.org/fr/regionscountries/countries/madagascar/> (2012/12/26 アクセス)

⁷³ Gouvernement de Madagascar (2006) , Plan d'action Madagascar 2007-2012 Un Plan Audacieux pour le Développement Rapide, p.75-76 <http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/MAPFrench.pdf> (2012/11/01 アクセス)

⁷⁴ Gouvernement de Madagascar (2006) , Plan d'action Madagascar 2007-2012 Un Plan Audacieux pour le Développement Rapide, p.189-191

⁷⁵ WFP (2011) Analyse Globale de la Sécurité Alimentaire et Nutritionnelle, et de la Vulnérabilité (CFSVA+N) Rapport Données collectées en août/septembre 2010, p. 53 http://www.wfp.org/sites/default/files/Rapport%20Principal_Mada%20CFSVA%20+N%202010_Fran%C

図表 58 貧富階層別 使用トイレのタイプ (2010 年)

Tableau 1500 : Répartition de la population selon le type de toilette, par quintile

Unité : %

Quintile	Cabinet avec siège anglais	Toilette à la turque	Toilette avec plateforme à béton lisse, porcelaine, fibre de verre	Latrines avec plateforme en bois, terre, ...	Trou ouvert	Dans la nature	Autres	Total
Plus pauvres	0,1	1,4	0,2	19,3	4,5	74,5	0,0	100,0
2 ^{ème} Quintile	0,4	2,0	0,2	26,8	6,0	64,0	0,7	100,0
3 ^{ème} Quintile	0,2	3,3	0,8	34,9	6,9	53,8	0,2	100,0
4 ^{ème} Quintile	0,5	4,7	1,3	39,8	8,6	45,1	0,1	100,0
Plus riches	4,0	8,8	5,9	44,8	9,3	26,7	0,5	100,0
Ensemble	1,0	4,0	1,7	33,1	7,1	52,8	0,3	100,0

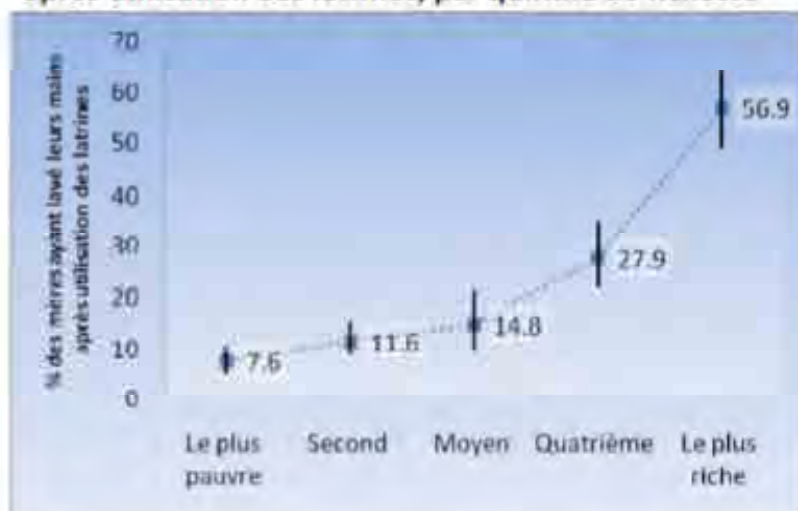
Source : INSTAT/DSM/EPM 2010

(出所) INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.190

http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

図表 59 貧富別 トイレ使用後に手を洗う母親の割合 (2010 年)

Fig. 29 - Pourcentage des mères ayant lavé leurs mains après utilisation des latrines, par quintile de richesse



(出所) WFP(2011) Analyse Globale de la Sécurité Alimentaire et Nutritionnelle, et de la Vulnérabilité (CFSVA+N) Rapport Données collectées en août/septembre 2010, p.52

http://www.wfp.org/sites/default/files/Rapport%20Principal_Mada%20CFSVA%20+N%202010_Fran%C3%A7ais.pdf (2012/11/14 アクセス)

[3%A7ais.pdf](#) (2012/11/14 アクセス)

(4) 初等教育⁷⁶

2003年に「万人のための教育（Education Pour Tous : EPT）」という教育改革に着手したマダガスカルでは、初等教育の無料化、学習セットの配布なども効果を挙げ、順調に就学率が向上し2005-2006年学期には83.3%となった。2009-2010年学期の6-10歳の初等教育の実質就学率はやや低下し、73.4%となっている。就学率は地域間で格差が見られ、都市部の方が高い。初等教育の就学率が低いアッチモ-アツィナナナ（Atsimo Atsinanana）県など5つの県では、実質就学率が55%以下である。一人当たりの消費額を指標とする世帯貧富レベルで比較すると、裕福な世帯ほど就学率は高く、学歴も高くなる傾向にある。

また、学業の修了率をみると、初等教育では2008-2009年学期と2009-2010年学期にかけて6.3%の児童が卒業を待たずに退学している。公立校の初等教育は無料であるが、通学に伴う交通費や食費などを負担する必要があるため、貧困層の子どもほど中途退学が多くなっていることの一因とみられる。

なお、一般に貧しい世帯の子どもほど学校へ通わず就労することが多いが、マダガスカルにおいては世帯の貧富格差による就学状況への大きな影響は見られない。支出額による貧富指標で比較すると、最も貧しい層と富裕層では、労働している子どもの割合は6%ほどの差しか出ていない。

実質就学率向上に向け、解決すべき課題としては、学校のない地域での新規建設、既存建物の状態の改善、十分な教員を確保することなどが挙げられる。公立小学校の教員として約55,000人が採用されたが、そのうち教員となるための研修を済ませたのは6千人にとどまっている⁷⁷。

⁷⁶ INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.159-168, 70-71
http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

⁷⁷ UNESCO (2012) Document UNESCO de programmation pays MADAGASCAR 2012-2013, p.10-11
JICA 提供資料

図表 60 地域別 実質就学率 (2009-2010 年学期)

Tableau 114 : Taux de scolarisation aux niveaux primaire, collège et lycée par région

Unité : %

Région	Taux net		
	Primaire	Collège	Lycée
Analamanga	87,1	48,1	20,8
Vakinankaratra	81,4	33,3	4,3
Itasy	85,7	24,3	9,9
Bongolava	70,7	18,1	5,1
Matsiatra Ambony	75,8	21,7	2,9
Amoron'i Mania	75,9	29,9	7,2
Vatovavy Fitovinany	79,3	12,4	3,8
Ihorombe	73,7	17,9	6,3
Atsimo Atsinanana	53,3	5,1	0,6
Atsinanana	79,8	22,9	3,3
Analanjrofo	83,6	16,7	5,5
Alaotra Mangoro	82,7	33,1	9,4
Boeny	58,8	18,1	6,5
Sofia	77,6	17,0	1,7
Betsiboka	66,2	13,4	0,6
Melaky	51,0	5,6	1,9
Atsimo Andrefana	51,5	20,4	7,1
Androy	54,8	7,7	0,7
Anosy	53,7	9,1	2,7
Menabe	62,7	21,2	4,6
DIANA	76,8	32,1	9,8
SAVA	81,5	18,5	2,0
Ensemble	73,4	22,7	6,3

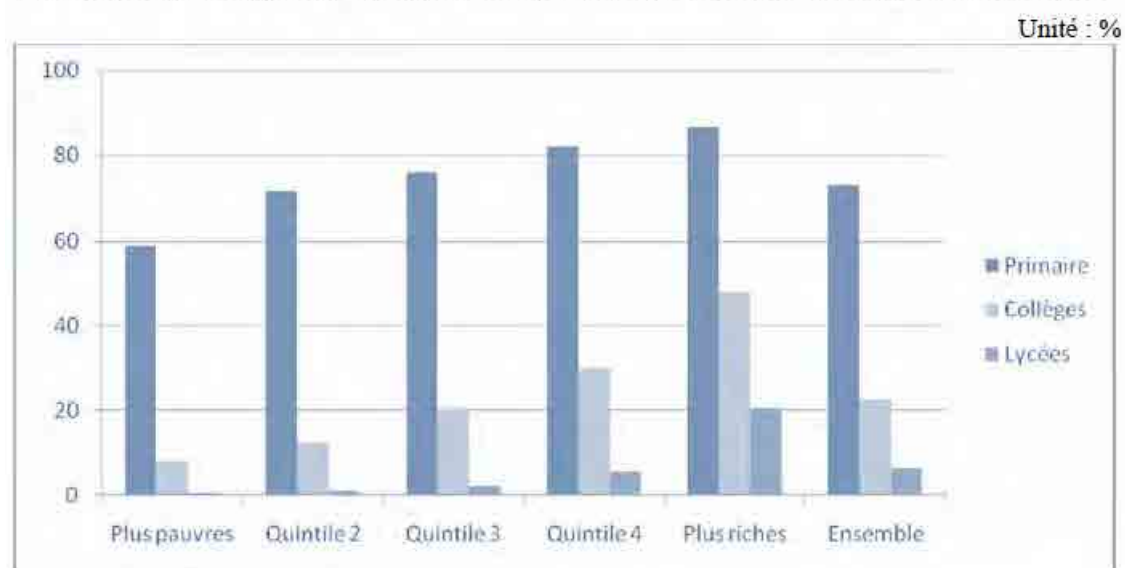
Source : INSTAT/DSM/EPM 2010

(出所) INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.161

http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

図表 61 貧富階層別 実質就学率 (2010 年)

Graphique 15 : Taux net de scolarisation par niveau, selon le quintile de consommation



Source : INSTAT/DSM/EPM 2010

(出所) INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.162

http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

図表 62 貧富階層別 性別 就労している子どもの割合 (2010 年)

Tableau 41 : Incidence du travail des enfants selon le quintile, et selon le genre

Unité: %

Quintile	Masculin	Féminin	Ensemble
Les plus pauvres	28,0	25,6	26,8
2 ^{ème} Quintile	25,9	22,6	24,2
3 ^{ème} Quintile	29,0	24,7	26,9
4 ^{ème} Quintile	25,8	22,3	24,0
5 ^{ème} Quintile	20,8	19,9	20,3
Ensemble	26,2	23,2	24,7

Source : INSTAT/DSM/EPM 2010

(出所) INSTAT (2011) Enquête périodique auprès des ménages 2010, p.71

http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18 (2012/11/02 アクセス)

添付 1. 資料リスト

- République de Madagascar(2012), *Plan national d'action pour la nutrition 2012-2015*, JICA 提供資料
- République de Madagascar (2010), *Rapport national de suivi (+10) Des OMD 3« Promouvoir l'égalité des sexes et l'autonomisation des femmes » et OMD 5« Améliorer la santé maternelle »*
http://www.hayzara.org/index.php?option=com_content&view=article&id=225%3Arapport-national-de-suivi-10-des-omd3-et-omd-5-2010&catid=37%3Areports&Itemid=46&lang=fr
- République de Madagascar (2006), *Rapport national de suivi des OMD 2007*
http://planipolis.iiep.unesco.org/upload/Madagascar/Madagascar_Rapport_ODM_2007.pdf
- Gouvernement de Madagascar (2006), *Plan d'action Madagascar 2007-2012 Un plan audacieux pour le développement rapide*
<http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/MAPFrench.pdf>
- INSTAT (2011) , *Enquête périodique auprès des ménages 2010*
http://www.instat.mg/index.php?option=com_content&view=article&id=60&Itemid=18
- WFP(2011), *Analyse Globale de la Sécurité Alimentaire et Nutritionnelle, et de la Vulnérabilité (CFSVA+N) Rapport Données collectées en août/septembre 2010*
http://www.wfp.org/sites/default/files/Rapport%20Principal_Mada%20CFSVA%20+N%202010_Fran%C3%A7ais.pdf
- JICA 研究所 (2012) 国別主要指標マダガスカル
<https://libportal.jica.go.jp/fmi/xsl/library/public/data/Index/Africa/Madagascar.pdf>
- UN (2011) *Objectifs du millénaire pour le développement Rapport de 2011*
http://www.un.org/fr/millenniumgoals/pdf/report_2011.pdf
- UNESCO(2012), *Document UNESCO de programmation pays MADAGASCAR 2012-2013*

JICA 提供資料

- WB (2012), *Madagascar Après trois ans de crise* : Evaluation de la vulnérabilité et des politiques sociales et perspectives d'avenir (Volume I:Rapport principal)
http://siteresources.worldbank.org/INTMADAGASCARINFRENCH/Resources/ESW-Protection_sociale_vol1.pdf
- WB(2011) Ethanol as a Household Fuel in Madagascar, p. iv
http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2012/06/21/000426104_20120621102923/Rendered/PDF/699820v10ESW0P0ry0Report0Eng0220911.pdf

添付 2. 主要な情報源リスト

- ・ JICA 研究所 <https://libportal.jica.go.jp/fmi/xsl/library/public/data/shihyo-p.html>

マダガスカル国官庁

- ・ 水道省 <http://www.mineau.gov.mg/>

国際機関

- ・ 国連開発計画（UNDP） マダガスカル国
<http://www.mg.undp.org/content/madagascar/fr/home/>
- ・ 世界銀行（WB） マダガスカル国
<http://donnees.banquemondiale.org/pays/madagascar>
- ・ 国際連合食糧農業機関（FAO） Country Profile: Food Security Indicators: Madagascar
<http://www.fao.org/countryprofiles/index/fr/?iso3=MDG&paia=2>
- ・ 国際農業開発基金（IFAD）
<http://www.ruralpovertyportal.org/country/statistics/tags/madagascar>
- ・ 国連エイズ合同計画（UNAIDS）マダガスカル国
<http://www.unaids.org/en/regionscountries/countries/madagascar/>
- ・ UNICEF
http://www.unicef.org/french/health/madagascar_58308.html

貧困データ

- ・ 世界銀行データ <http://donnees.banquemondiale.org/pays/madagascar>
- ・ 国連公式 MDG データ マダガスカル国
<http://www.undp.org/content/madagascar/fr/home/mdgoverview/omdindicateurdesuivi/>
- ・ UNDP 人間開発指標 マダガスカル国
<http://hdrstats.undp.org/en/countries/profiles/MDG.html>